

第 3 期健康横浜 2 1  
～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～  
目次構成案

「第 3 期健康横浜 2 1」策定にあたって

第 1 章 第 3 期健康横浜 2 1 が目指す健康づくり

- 1 策定の趣旨
- 2 計画期間
- 3 策定の経過
- 4 基本理念、基本目標
- 5 優先して取り組む健康課題
- 6 取組テーマ
- 7 取組を推進する視点
- 8 計画の位置付け

第 2 章 横浜市民の健康を取り巻く現状

- 1 社会背景
- 2 主要な疾病状況
- 3 健康状態、健康に関する意識・行動
- 4 これまでの計画等の推進状況からみた課題
- 5 横浜市の健康課題のまとめ

第 3 章 行動目標と取組

- 1 市民の行動目標の設定
- 2 取組に関する考え方
- 3 生活習慣の改善における行動目標と取組内容
  - (1) 食生活【食育推進計画の一部と重複・詳細には第 6 章】
    - ア 課題、目指す姿
    - イ 行動目標と目標値
    - ウ 取組内容
  - (2) 歯・口腔【歯科口腔保健推進計画と概ね重複・詳細には第 5 章】
  - (3) 喫煙
  - (4) 飲酒（喫煙から独立・仮）
  - (5) 運動
  - (6) 休養・こころ
  - (7) 「もしも」への備え（感染や自然災害）（新規・仮）
- 4 生活習慣病の重症化予防における行動目標と取組内容
  - (1) がん検診、特定健診、歯科検診（一部新規・仮）
  - (2) 初期には自覚症状が少ない糖尿病等の疾病（新規・仮）
- 5 ライフステージ別の行動目標と取組内容＜再掲＞

## 第4章 環境づくりの取組（新規・仮）

### 1 健康になれる環境づくり

- (1) 受動喫煙防止対策
- (2) 食環境づくり【食育推進計画の一部と重複】
- (3) 職場における従業員の健康づくりの推進（健康経営に取り組む事業所への支援）

### 2 関係部局等との連携【仮：庁内関係課長会議で今後調整】

- (1) 道路・河川・公園緑地などの既存ストックの有効活用の取組の紹介
- (2) 関連する行政計画等の紹介（環境、農業、スポーツ、住宅政策、自転車活用等を想定）
- (3) 地域関係機関・団体との協働や民間事業者との連携による共創

## 第5章 歯科口腔保健の推進【横浜市歯科口腔保健推進計画による取組】〈一部再掲〉

## 第6章 健康的な食生活の推進と食文化の継承【横浜市食育推進計画による取組】〈一部再掲〉

## 第7章 計画の推進

### 1 計画の推進体制

- (1) 計画の進捗管理
  - ア 健康横浜21推進会議
  - イ 歯科口腔保健推進計画の推進体制
  - ウ 食育推進計画の推進体制
- (2) 取組の推進

### 2 関係機関・団体及び行政の役割

## 第8章 計画の評価

### 1 評価スケジュール

### 2 評価項目

### 3 目標値一覧

### 4 モニタリング項目一覧

## 参考資料

### 1 本文作成にあたり参考とした資料

### 2 検討の経過（会議日程、委員名簿、市民意見募集の結果）

第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会（8/1実施）における主な御意見

- ・健康になれる食環境づくりは重要であり、食環境に対する目標も設定してはどうか。
- ・「感染予防」と「災害への備え」は重要だが、一緒に論じられるものなのかは検討が必要。今回のような感染拡大の長期化の中でも、健康づくりは推進される必要がある。
- ・AYA世代（Adolescent and Young Adult、思春期・若年成人）に対する取組ができるとうい。

# 第2期健康横浜21計画評価及び 次期計画策定検討部会の検討状況について

令和4年9月2日  
横浜市健康福祉局保健事業課

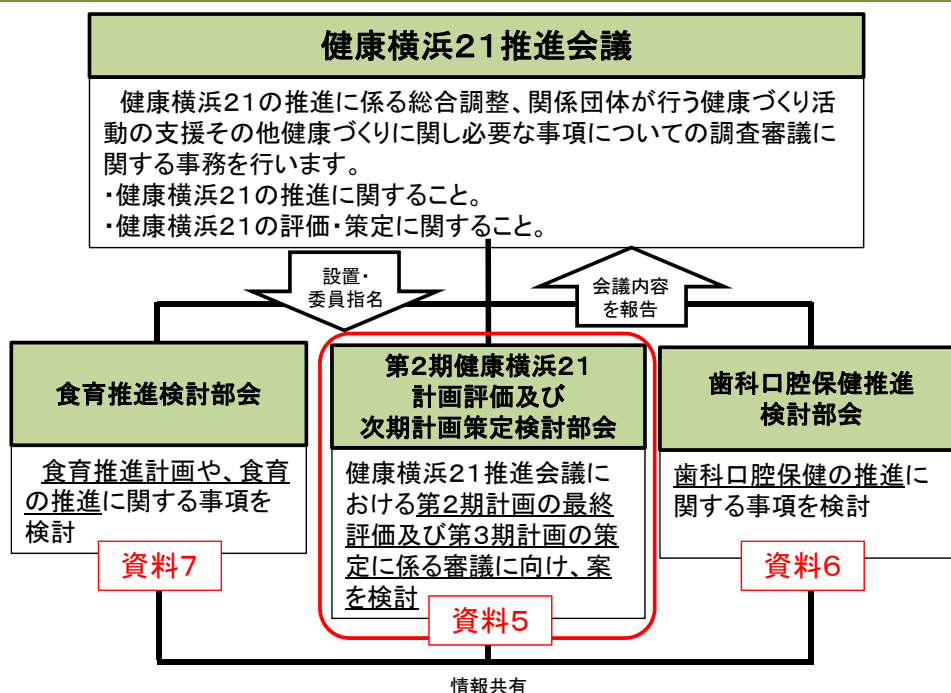
あうたびに、あたらしい  
Find Your YOKOHAMA

City of YOKOHAMA



## ・・・次期計画（第3期健康横浜21）の検討体制・・・

2



【主な議事】

横浜市民の健康を  
取り巻く現状(たたき台)

a.事務局より

b.後藤委員より

※横浜市大との覚書締結に  
よるデータ分析の報告

★部会長 ●臨時委員の学識 (敬称略)

	氏名	職名
1	★豊福 深奈	横浜市医師会 常任理事
2	●赤松 利恵	お茶の水女子大学
3	●後藤 温	横浜市立大学ヘルステイニソ専攻
4	佐藤 信二	横浜市歯科医師会 常務理事
5	瀬戸 卓	横浜市薬剤師会 副会長
6	田口 敦子	慶應義塾大学
7	●土屋 厚子	静岡社会健康医学大学院大学 浜松医科大学
8	長谷川 利希子	神奈川県栄養士会 副会長
9	●村山 洋史	東京都健康長寿医療センター研究所

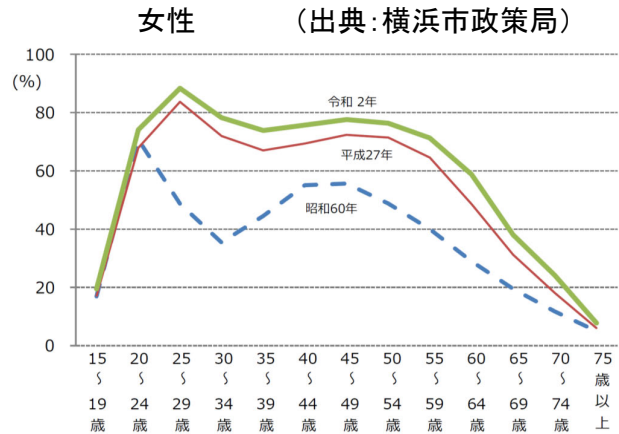
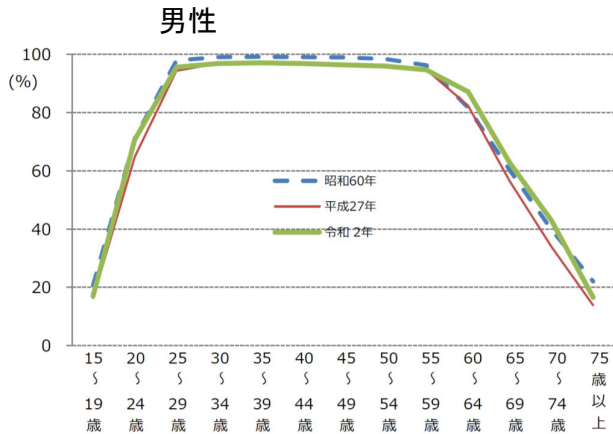
横浜市民の健康を取り巻く現状

<p><b>1 社会背景</b></p> <p>(1)人口・世帯の推移 (2)区別に見る人口構造の特性 <b>(3)労働力人口の推移と特性</b>(総務省、横浜市政策局:国勢調査 就業状態等基本集計)</p>	<p>赤字部分 を取り上げて 御紹介</p>
<p><b>2 主要な疾病状況</b></p> <p>(1)平均寿命と健康寿命の推移 (2)区別に見る平均自立期間 <b>(3)死因別死亡数と死亡率の状況</b>(厚生労働省:人口動態統計) <b>(4)主要死因の推移と状況</b>(厚生労働省:人口動態統計) (5)介護が必要となった原因疾患 (6)その他の主要疾患の状況</p>	
<p><b>3 健康状態、健康に関する意識・行動</b></p> <p><b>(1)健康状態</b>(厚生労働省:NDBオープンデータ) <b>(2)健康に関する意識</b>(横浜市健康福祉局:健康に関する市民意識調査) (3)健康診断の受診状況 (4)がん検診の受診状況 (5)歯科健診の受診状況</p>	

# 労働力率 (15歳以上人口に占める労働力人口の割合)

## <労働力率の推移>

- ・男性は「台形型」で、25歳から59歳までの各年齢階級が90%台と高く、それ以外の年齢階級で低い
- ・女性は「M字カーブ」で25～29歳、45～49歳を頂点とし、35～39歳を底とする。昭和60年以降の全ての年齢階級において、令和2年の労働力率が最高となり、25歳から49歳までの各年齢階級間における差が縮小し、「M字カーブ」の底が上昇し、台形に近づいている。



(出典:横浜市政策局)

# 死因別死亡数と死亡率

## <死因別死亡数と死亡率の状況>

- ・悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の3つの生活習慣病で死亡数の半数を占め、悪性新生物と心疾患の死亡数は増え続けている。ただし、働き世代の生活習慣病による早世は減少している。
- ・【次頁:標準化死亡比】全国と比較して有意に高い死因は、男性では悪性新生物の結腸、急性心筋梗塞、肝疾患等、女性では悪性新生物(部位別では結腸、乳房)、慢性閉塞性肺疾患等。
- ・区別に見ると、男女共に鶴見、神奈川、西、中、南区などで有意に高い死因が多くなっている。

死亡の構成比:令和2年(2020年)

順位	死因	人	%
1	悪性新生物<腫瘍>	9,670	28.8%
2	心疾患(高血圧性を除く)	5,094	15.2%
3	老衰	4,115	12.2%
4	脳血管疾患	2,226	6.6%
5	肺炎	1,493	4.4%
6	誤嚥性肺炎※	1,103	3.3%
7	不慮の事故	1,071	3.2%
8	肝疾患	578	1.7%
9	腎不全	557	1.7%
10	自殺	550	1.6%
	その他	7,162	21.3%
	合計	33,619	100.0%
1+2+4	三大生活習慣病(再掲)	16,990	50.5%

# 標準化死亡比(SMR)／男性

区名	全死因	悪性新生物							心疾患			肝疾患	老衰	不慮の事故		自殺
		胃	結腸	直腸	肺	乳房※	子宮	急性心筋梗塞	脳血管疾患	慢性閉塞性肺疾患	交通事故					
鶴見	1.125	1.123	1.070	1.231	1.117	1.134	-	-	1.322	1.020	1.364	1.562	1.520	1.145	0.753	0.852
神奈川	1.036	1.011	0.984	1.102	1.054	0.999	-	-	1.234	0.982	1.014	1.381	1.246	1.139	0.493	0.880
西	1.097	1.045	1.016	1.206	0.957	0.938	-	-	1.134	1.044	0.995	1.521	1.599	1.136	0.528	0.880
中	1.305	1.161	1.116	1.215	1.165	1.123	-	-	1.966	1.349	1.233	4.450	1.408	1.507	0.769	1.193
南	1.160	1.130	1.070	1.181	1.020	1.086	-	-	1.906	1.221	1.101	2.617	1.420	1.186	0.659	0.897
港南	0.963	0.984	0.973	1.048	1.039	0.894	-	-	1.354	0.950	0.943	1.062	1.405	1.105	0.695	0.752
保土ヶ谷	1.009	1.029	1.051	1.077	1.007	1.028	-	-	1.231	1.001	0.892	1.260	1.415	1.104	0.674	0.831
旭	0.964	0.949	0.980	1.018	1.054	0.905	-	-	1.087	0.899	0.935	1.231	1.561	1.037	0.626	0.827
磯子	1.015	1.027	0.994	1.033	0.980	0.982	-	-	1.198	0.913	1.021	1.243	1.423	1.125	0.941	0.818
金沢	0.929	0.993	0.935	0.925	0.985	0.911	-	-	0.823	0.779	0.941	0.895	1.237	0.972	0.609	0.777
港北	0.908	0.918	0.888	0.999	0.995	0.896	-	-	1.010	0.846	0.846	1.045	1.195	0.990	0.416	0.707
緑	0.883	0.951	0.991	1.016	0.935	0.927	-	-	0.893	0.757	0.871	0.865	1.327	0.988	0.761	0.683
青葉	0.778	0.858	0.923	0.945	0.858	0.795	-	-	0.695	0.679	0.601	0.769	1.241	0.767	0.579	0.632
都筑	0.850	0.938	0.965	0.993	0.947	0.915	-	-	0.768	0.775	0.729	0.872	1.179	1.080	0.823	0.732
戸塚	0.931	0.963	0.896	0.980	0.996	0.915	-	-	0.924	0.881	0.835	1.020	1.245	1.065	0.724	0.740
栄	0.891	0.926	0.952	0.967	0.920	0.860	-	-	0.976	0.763	0.893	0.902	1.615	0.941	0.651	0.876
泉	0.936	0.951	0.972	1.003	0.981	0.871	-	-	0.757	0.894	0.980	1.074	1.259	0.970	0.395	0.781
瀬谷	1.007	1.014	1.052	1.041	1.208	0.946	-	-	1.299	0.906	1.000	1.032	1.382	1.041	0.806	0.786
横浜市	0.978	0.992	0.983	1.047	1.011	0.948	-	-	1.128	0.915	0.944	1.336	1.356	1.060	0.651	0.799
【参考】死亡者数(令和2年)	17,951	5,737	700	509	245	1,336	-	-	416	1,141	283	423	1,210	604	46	346

男性 SMR

全国よりも  
 有意に高い  
 有意に低い

# 標準化死亡比(SMR)／女性

区名	全死因	悪性新生物							心疾患			肝疾患	老衰	不慮の事故		自殺
		胃	結腸	直腸	肺	乳房	子宮	急性心筋梗塞	脳血管疾患	慢性閉塞性肺疾患	交通事故					
鶴見	1.150	1.133	0.953	1.094	1.118	1.244	1.205	0.975	0.767	1.033	1.586	1.067	1.576	1.484	0.739	0.976
神奈川	1.062	1.064	1.030	1.082	0.987	1.102	1.120	1.089	0.840	0.911	1.926	1.121	1.327	1.293	0.363	0.898
西	1.179	1.106	1.158	1.104	1.172	0.979	1.227	0.997	0.886	1.102	1.219	1.099	1.751	1.375	0.839	0.993
中	1.131	1.193	1.146	1.131	1.144	1.129	1.291	1.014	1.450	1.007	1.691	1.216	1.438	1.489	0.619	1.050
南	1.193	1.169	1.216	1.027	1.070	1.285	1.189	0.956	1.661	1.201	1.481	1.431	1.601	1.447	0.559	1.126
港南	1.008	1.033	0.983	1.054	0.955	1.080	1.098	1.074	1.040	0.948	1.076	0.939	1.567	1.291	0.624	0.949
保土ヶ谷	1.016	1.073	1.011	1.027	0.964	1.060	1.260	0.894	0.869	0.998	1.432	1.008	1.378	1.230	0.583	0.947
旭	0.943	0.962	0.861	1.085	0.957	0.890	1.160	0.939	0.755	0.832	1.213	0.965	1.350	1.144	0.457	0.978
磯子	1.021	1.043	1.005	1.022	0.992	1.013	1.159	0.896	0.964	0.871	1.724	1.249	1.370	1.428	0.512	0.982
金沢	1.024	1.031	0.924	1.055	1.096	0.997	1.160	0.953	0.693	0.892	0.985	0.816	1.530	1.262	0.594	0.972
港北	0.991	1.017	0.925	0.997	1.089	0.953	1.189	1.008	0.750	0.857	1.124	0.971	1.291	1.266	0.645	0.918
緑	0.877	0.947	0.889	0.979	1.091	0.993	1.118	0.961	0.586	0.678	0.947	0.920	1.096	1.227	0.639	1.031
青葉	0.870	0.949	0.893	0.980	0.980	0.952	1.160	0.898	0.560	0.710	1.034	0.807	1.277	1.077	0.672	0.901
都筑	0.817	0.952	0.911	0.990	0.991	1.013	1.102	0.849	0.581	0.647	0.985	0.878	1.076	0.911	0.013	0.878
戸塚	0.976	0.997	0.951	1.042	1.013	0.952	1.073	0.936	0.804	0.944	1.909	1.006	1.234	1.190	0.613	0.947
栄	0.942	0.950	0.888	1.075	0.960	1.049	1.186	0.983	0.677	0.793	1.107	0.886	1.584	1.245	0.505	0.968
泉	0.907	0.935	0.954	1.016	1.015	0.890	1.103	0.920	0.593	0.812	0.995	0.943	1.248	1.062	0.643	0.944
瀬谷	1.027	1.072	0.980	1.143	1.010	1.064	1.354	0.880	0.876	0.951	1.150	0.841	1.375	1.243	0.698	1.046
横浜市	0.999	1.029	0.970	1.045	1.027	1.031	1.167	0.958	0.839	0.892	1.320	1.003	1.367	1.250	0.571	0.964
【参考】死亡者数(令和2年)	15,668	3,933	322	429	133	562	445	191	187	1,085	72	155	2,905	467	17	204

女性 SMR

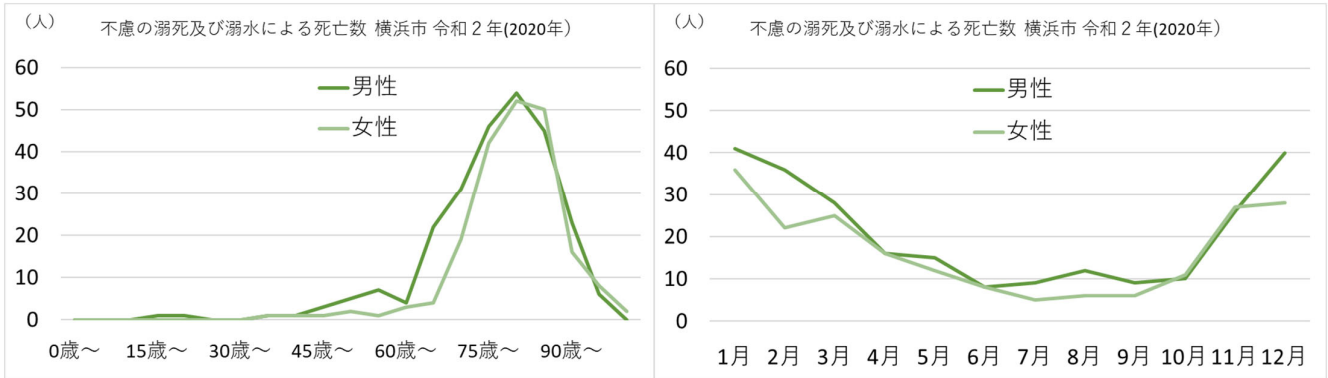
全国よりも  
 有意に高い  
 有意に低い

## 「不慮の事故」のうち「不慮の溺死及び溺水」／女性

9

### 【女性の「不慮の事故」】

全国と比較して有意(偶然ではなく統計学的に意味がある)に高い区が15区あり、有意に低い区はない。令和2年(2020年)の不慮の事故による横浜市女性の死亡は467人で、このうち交通事故は17人である一方、**不慮の溺死及び溺水が202人おり、その95.5%にあたる193人が65歳以上。11月～3月に不慮の溺死及び溺水が多い。**



## 新型コロナウイルス感染症

10

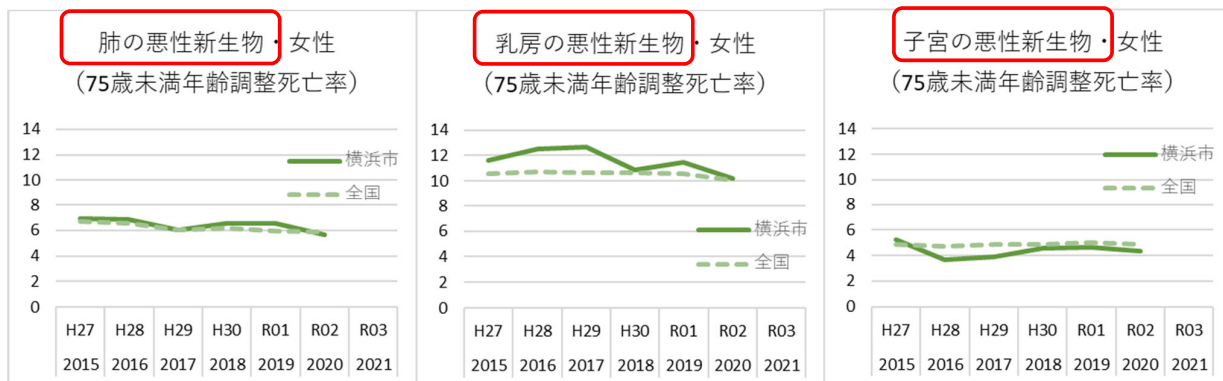
厚生労働省が公表した人口動態統計によると、令和3年(2021年)の概数は、  
本市で550人となっており、腎不全(590人)、自殺(574人)に迫る死亡数となっています。

	令和2年(2020年)		令和3年(2021年)概数	
	全死因	新型コロナ	全死因	新型コロナ
全国	1,372,755	3,466	1,439,809	16,756
横浜市	33,619	147	35,922	550

# 悪性新生物の部位別・75歳未満年齢調整死亡率 11

## <主要死因の推移と状況>

・悪性新生物の部位別死亡数が多い順に、男性では肺、大腸、胃、女性では肺と大腸(同数)、膵。  
 ただし、75歳未満年齢調整死亡率で見ると、女性は乳が最も多くなるとともに子宮の順位が上がり、他の部位に比べて早世している。



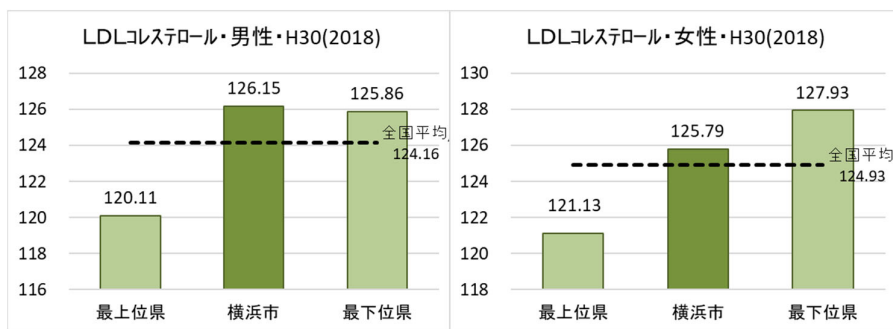
注: 基準人口には昭和60年モデル人口を使用しているが、平成27年モデル人口による再計算について検討中

# 特定健診における脂質異常症 (LDLコレステロール) 12

## <脂質異常症の状況>

・血圧や血糖に関する特定健診の検査結果については、全国値と比較すると比較的良好なデータが多い。  
 ・脂質異常症については、薬を服用している人は全国値よりも少ない傾向だが、LDLコレステロールの値は男女共に高い(悪い)状態。

いわゆる「悪玉コレステロール」



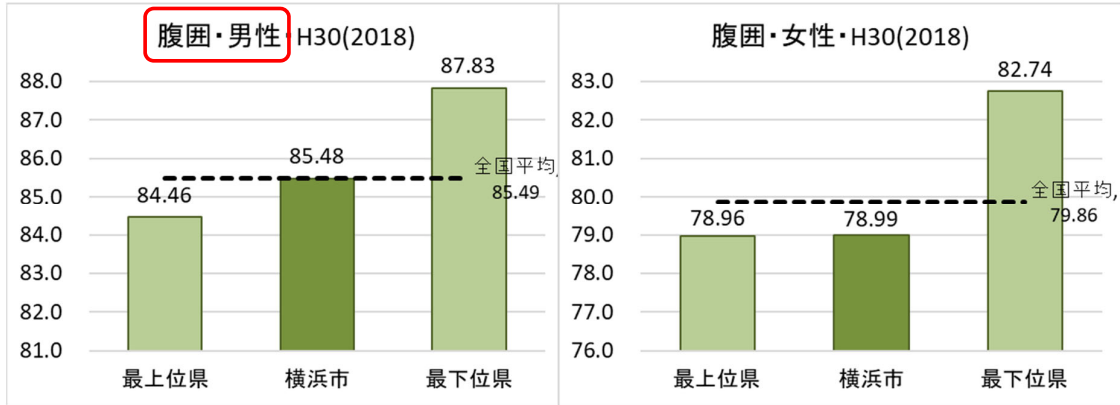
厚生労働省: NDBオープンデータ 平成30年度特定健診



# 特定健診における男性の肥満

## <健康状態>

・特定健診の検査結果については、全国値と比較すると比較的良好なデータが多い中で、男性の肥満（BMI、腹囲、体重増加）については、全国平均並み。

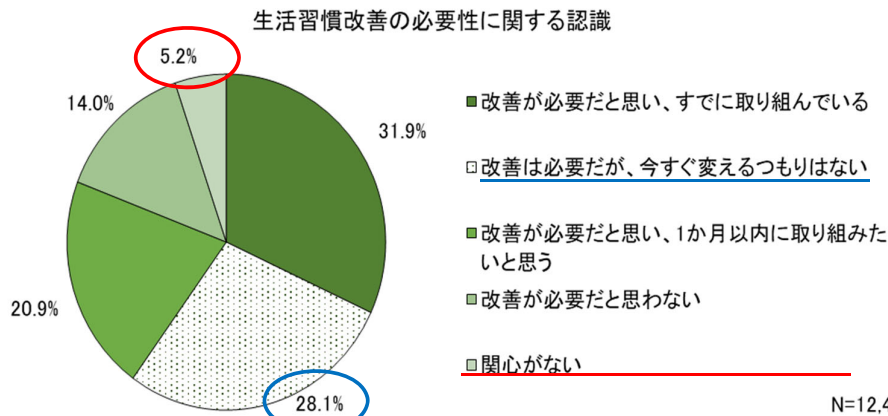


厚生労働省：NDBオープンデータ 平成30年度特定健診

# 生活習慣改善の必要性への認識（健康無関心層）

## <健康に関する意識>

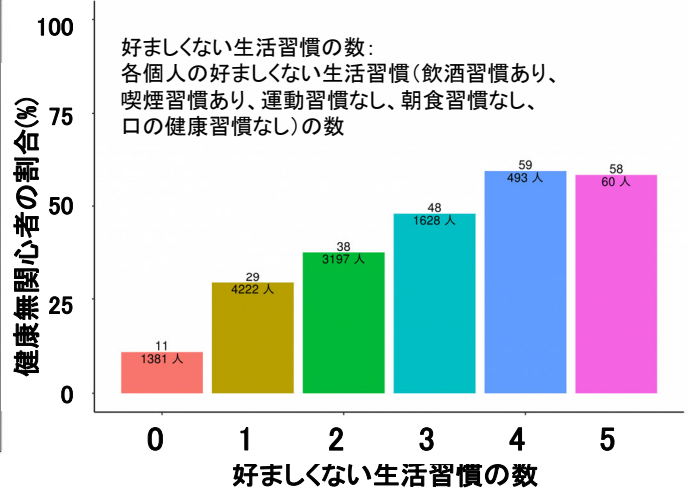
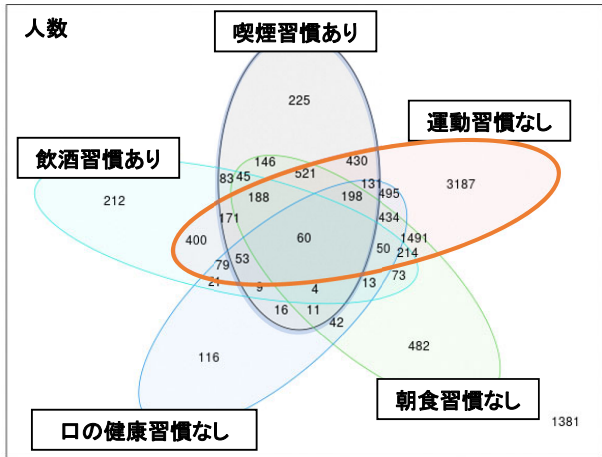
・市民の3分の1は、生活習慣改善の必要性を感じていても行動するつもりはない、又は、関心がないと回答。



横浜市健康福祉局：令和2年度健康に関する市民意識調査

## 横浜市大 後藤委員：好ましくない生活習慣の重なりと健康無関心 15

令和2年度健康に関する市民健康意識調査(60歳未満, 10,981人)

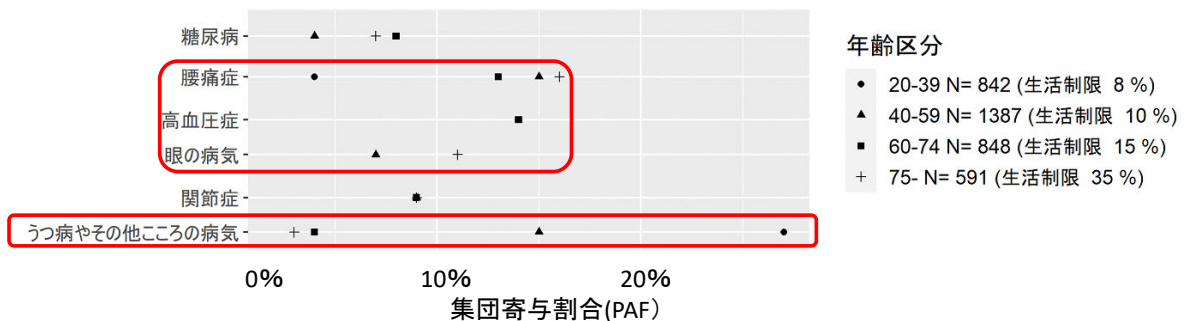


- ・運動習慣がない人や喫煙習慣のある人では、他の好ましくない生活習慣も併せ持つ傾向があった。
- ・好ましくない生活習慣の数が多いと、統計学的に有意に(偶然ではなく)健康無関心の割合が高くなる傾向があった。

## 横浜市大 後藤委員：傷病の日常生活制限に対する寄与割合 16

厚生労働省：令和元年国民生活基礎調査(横浜市分)

### 健康寿命への寄与が大きいと推定された傷病



腰痛症(40歳以上)、高血圧症(60-74歳)、眼の病気(75歳以上)、うつ病やその他のこころの病気(20-59歳)の寄与が大きい(PAF $\geq$ 10%)と推定された。これらの傷病対策が健康寿命の延伸に効果的である可能性が示唆された。

- 健康無関心層へのアプローチの鍵(運動、禁煙がきっかけで他へ好影響を及ぼす可能性)が示唆されたことは非常に興味深い。
- 腰痛症等と健康寿命の関係は、国の研究班の結果とも同様となっている。
- 健康課題は世代や属性で異なるため、それに応じたアプローチを検討する必要がある。
- 働く女性が増え、産業界、産業保健との連携はますます重要。
- 若い世代は、友人や同僚等の周囲からの影響を受けやすい。学校や職場を単位とした取組は効果的だろう。コロナ禍においてはメンタルヘルスもより重要。
- 取組(インプット)と結果(アウトプット)が連動していることがわかるような評価が実施できるとよい。

【次回予定:11月30日 主な議題 健康課題のまとめ、目標値と取組の検討】

## 令和 4 年度歯科口腔保健推進検討部会の検討状況について

### 1 趣旨

令和 4 年度第 1 回歯科口腔保健推進検討部会の概要をご報告いたします。

引き続き、歯科口腔保健推進計画（案）について、本部会で議論を進めていきます。

### 2 第 1 回（7 月 13 日（水）19 時～21 時）の開催概要

#### (1) 検討内容

以下のア～ウについて、案を基に検討し、内容について概ねご了承いただきました。

##### ア 歯科口腔保健推進計画の骨子（案）

「横浜市歯科口腔保健 令和 3 年度から 4 年度の取組」（以下「取組」という。）を基に、「取組」において現状や課題等の重複していた内容を整理し、計画の「期間」や「評価」を加えました。また、構成を変更し、「取組」では成人期の一部としていた妊娠期を、乳幼児期に先立つ時期としてライフステージの最初に位置づけたほか、健康横浜 2 1 や食育推進計画で扱う生活習慣病や食育等に関する重複する内容を整理しました。

##### イ 健康課題（案）

(ア) 乳幼児期と学齢期のむし歯関係の指標は着実に改善していますが、妊娠期と成人期は目標に達しておらず、障害児及び障害者については要介護高齢者と併せて把握を進めています。引き続き、各対象に向けた取組を進めていく必要があります。

(イ) 高齢期では、「80 歳で 20 本以上の自分の歯を有する者の割合」は目標を達成していますが、「60 歳代でなんでも食べることのできる者の割合」は目標に到達していません。歯の喪失や、噛む、飲み込むなどの口腔機能の低下した状態（オーラルフレイル）は全身の虚弱化や要介護状態を引き起こすことが明らかになってきましたが、「オーラルフレイルの言葉を知っている」市民の割合は 2 割以下でした。市民自らがささいな口腔機能の低下に気づき、口腔機能の維持・向上に取り組めるよう啓発が必要です。

(ウ) 災害時に備えた対策として、災害に備えて口腔ケア用品を準備している人は 2 割程度でした。災害時の口腔ケアや日頃からの備えについて普及啓発が必要です。

##### ウ 目標・指標（案）

(ア) 「取組」で掲げていた 3 つの目標を再考し、「生涯を通じて食事や会話ができる」を目指す姿としての基本目標に掲げ、基本目標の達成のため「むし歯・歯周病を予防する」と「口腔機能の健全な発育・発達・維持向上に努める」を行動目標に設定いたしました。

(イ) 「取組」で掲げていた指標に、オーラルフレイル予防啓発の普及効果を図る「オーラルフレイルの認知度」を加え、行動目標にあわせた 10 個の指標を設定いたしました。

#### (2) 主な意見

口腔機能の発達とオーラルフレイルの予防に向けたアプローチや、細やかな実態把握と区ごとの対策、成人期前半のデータ把握と歯周病予防等のアプローチの必要性、関係者を通じた啓発の重要性等について、ご意見をいただきました。

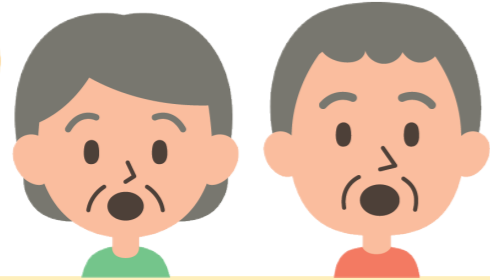
### 3 今後の開催予定

10 月 24 日に第 2 回を開催し、歯科口腔保健推進計画の取組内容等について検討を行う予定です。

## パタカラ体操

お口の周りと言の筋力の低下を予防します!

パパパパ  
パパパパ



タタタタ  
タタタタ

カカカカ  
カカカカ

ララララ  
ララララ

1. 「パ」…唇をはじくように
2. 「タ」…舌先を上の前歯の裏につけるように
3. 「カ」…舌の奥を上顎の奥につけるように
4. 「ラ」…舌をまるめるように

各発音  
8回を  
2セット  
行う

参考：日本歯科医師会HP「オーラルフレイル対策のための口腔体操」

## オーラルフレイルは全身の健康にも影響が

フレイルとは、体力や気力、認知機能など、からだところの機能(はたらき)が低下し、生活に支障が出るなど将来介護が必要になる危険性が高くなっている状態をいいます。

「フレイル」を予防するには、「運動・口腔・栄養・社会参加」の4つの取組を一体的に行うのが、効果的だと言われています。「**オーラルフレイル**」を予防することは、「フレイル」そのものを予防することにもつながります。

お口の健康を守るためには、**毎日の歯みがき**や**歯科医院での定期的な歯と口の健康チェック**が大切です。歯科医院は、症状が出てから行くのではなく、定期的に受診しましょう。**かかりつけ歯科医**をもつことで、あなたのお口の健康状態や治療経過を把握し適切なアドバイスを受けることができます。



フレイル予防4本柱

かかりつけ歯科医をお探しの場合は

横浜市歯科医師会

検索

# 食べる楽しみ いつまでも

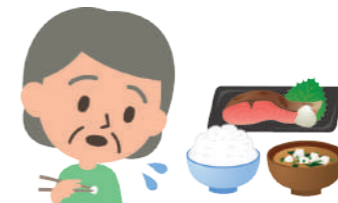
オーラル  
フレイルとは

加齢等と共に起こるお口の機能の低下のことで、そのはじまりは、**ささいな衰え**です。

## 当てはまるものはありますか？



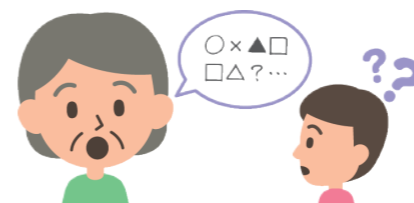
むせる・食べこぼす



食欲がない  
少ししか食べられない



柔らかいもの  
ばかり食べる



滑舌が悪い  
舌が回らない



お口が渴く  
ニオイが気になる



自分の歯が少ない  
あごの力が弱い



健康・元気

口に関する「ささいな衰え」が  
積み重なると…

オーラルフレイル  
フレイル  
病気



参考：「オーラルフレイルQ&A」著書 平野浩彦、飯島勝矢、渡邊裕 / 日本歯科医師会リーフレット「オーラルフレイル」

噛む力

飲み込む力

滑舌

を鍛えて、

オーラルフレイルを予防しましょう!

効果的なお口の体操を紹介します >>>

オーラルフレイルを予防する!

# お口の体操

オーラルフレイル予防のために、お口の体操が効果的です。  
楽しく美味しく安全に食事をして、楽しい毎日をおくりましょう!



## 準備体操

### 深呼吸



1. 鼻から大きく吸って止める



2. 口からゆっくり吐き出す

3回  
繰り返す

### 肩の運動



1. 息を吸いながら肩を上げて



2. 吐きながらストンとおろす

3回  
繰り返す

### 首の運動



1. ゆっくり後ろを振り返る(左右とも)



2. ゆっくり首を倒す(左右とも)



3. 前に倒し起こす

4. ゆっくりと左回り右回りに回す



無理のない範囲で  
3回  
繰り返す

## 頬の体操

頬を鍛えると噛む力、飲み込む力がアップ!



1. 唇を閉じて頬をふくらませる



2. 息を吸い込み唇を閉じたまま突き出す

頬にくぼみができるぐらい

5回  
繰り返す

## 口と唇の体操

口の周りの筋肉を鍛えることで、食べこぼしやむせを防ぎます!



1. 唇を横に引く



2. 唇をとがらせる

5回  
繰り返す

## 口を閉じて舌の体操

舌の筋肉を鍛えることで、食べ物を口にまとめ、飲み込みやすくします!



1. 舌で上唇を押す

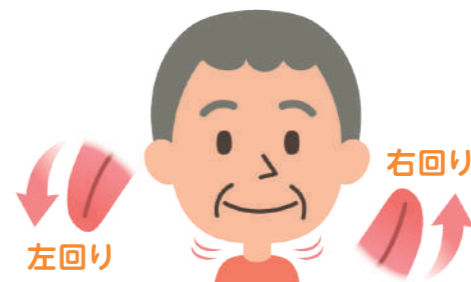


2. 舌で下唇を押す



3. 舌で左右の頬を押す

4. 口唇の内側をなめるように左回り、右回り



最後にたまった唾液をゴックン!

5回  
繰り返す

## 食育推進検討部会・食環境整備検討会の検討状況について

### 1 趣旨

令和4年度第1回食育推進検討部会及びその作業部会となる食環境整備検討会における、次期横浜市食育推進計画骨子（案）の検討状況についてご報告します。引き続き、素案作成に向けた検討を進めていきます。

### 2 第1回食育推進検討部会

日 時	令和4年7月22日（金） 19時～21時
議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2期横浜市食育推進計画の振り返りについて</li> <li>(2) 次期横浜市食育推進計画骨子（案）について</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2期横浜市食育推進計画の振り返りについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や関係団体の取組が市民の食への関心を高めることや、官民一体となった食育推進ネットワークの構築に貢献したと説明。</li> <li>・今後充実・強化すべき取組は次の4点と説明。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 栄養バランスのよい食事の普及・啓発</li> <li>② 幅広い世代に向けた啓発（成人期以降も啓発が必要）</li> <li>③ 楽しい食の推進（デジタル化への対応）</li> <li>④ 食環境づくり（誰もが自然と栄養バランスのよい食事の内容と量を選択できる食環境）</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>(2) 次期横浜市食育推進計画骨子（案）について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 次期横浜市食育推進計画と第3期健康横浜21との関係性</li> <li>イ 横浜市民の食生活を取り巻く現状</li> <li>ウ 基本理念、基本目標及び推進テーマ（案）について</li> <li>エ 推進テーマごとの目標と指標（案）について</li> <li>オ 推進テーマごとの取組内容（案）について ※第2回部会で検討予定</li> </ul> </li> </ul>
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2期横浜市食育推進計画の振り返りについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り内容について了承。</li> <li>・若い世代の朝食欠食について、健康無関心層に対し、興味のあることと組み合わせて朝食を提供するという取組があるとよい。</li> </ul> </li> <li>(2) 次期横浜市食育推進計画骨子（案）について <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念案（第2期計画の継続）について了承。</li> <li>・基本目標案は、象徴的な感じで頭に入りづらい。もっと一般の人に分かりやすい表現とした方がよい。</li> <li>・目標と指標に関する意見が複数あり。（目標と指標が対応していない等）</li> <li>・その他、今後の具体的な取組内容に関する意見が複数あり。</li> </ul> </li> </ul>
今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期横浜市食育推進計画骨子（案）の基本目標や目標・指標事務局で委員意見を踏まえ修正案を作成し、次回部会までに、Eメール等で意見照会を行う。</li> <li>・令和5年1月 第2回食育推進検討部会 開催予定</li> </ul>

### 3 第1回食環境整備検討会

日 時	令和4年6月22日(水) 18時30分～20時30分
議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 横浜市の食生活分野における現状・課題について</li> <li>(2) 食環境整備の重要性 ～行動へ直接働きかける環境整備～</li> <li>(3) 横浜市の食環境整備の方向性および取組の検討</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 横浜市の食生活分野における現状・課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期健康横浜21最終評価や、第2期食育推進計画振り返り等を踏まえ、現状と課題を共有。</li> <li>・外食や中食(弁当や総菜)を週2～3回以上利用している人は約3割、食習慣の改善に関心がない人や関心はあるが改善するつもりがない人(いわゆる健康無関心層)は約4割いることを共有。</li> <li>・その上で、次の課題について、誰もが健康に必要な食事の内容と量を自然と選択できる食環境の整備が必要であることを事務局から説明。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 栄養バランスよく食べる人を増やす</li> <li>② 食塩摂取量を減らす</li> <li>③ 野菜摂取量を増やす</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>(2) 食環境整備の重要性 ～行動へ直接働きかける環境整備～ <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤松委員(お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系 教授)から、食環境整備の重要性や、ナッジを活用した行動変容を考えたアプローチ等についてご説明いただいた。</li> <li>・食環境整備には、C(便利に)、A(魅力的に)、N(普通に)の要素が重要。</li> </ul> </li> <li>(3) 横浜市の食環境整備の方向性および取組の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内企業が共通で取り組むことができる方法や、子どもでも健康的な食品を選べる環境をつくることが重要であることを共有。</li> <li>・誰もが(関心がある人も、関心がない人も)「①栄養バランスよく食べる人を増やす」、「②食塩摂取量を減らす」、「③野菜摂取量を増やす」行動ができるようにするための環境づくりについて検討。</li> </ul> </li> </ul>
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康無関心層に働きかけるという考え方に驚いた。</li> <li>・民間企業は健康を訴求した商品開発を行ってきた。「知らずに買った総菜が減塩となっている」や「気にせず買っている弁当がバランスよい」といった仕掛けをどのように行うかは課題。</li> <li>・現代は、外食や中食なくしては食生活を送れない。社会が家庭の役割を担っており、企業等と連携し誰もが(関心がある人も、関心がない人も)健康的な食生活ができる環境を整えることが重要。</li> </ul>
今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年9月21日(水)第2回食環境整備検討会 開催予定</li> <li>・令和4年11月17日(木)第3回食環境整備検討会 開催予定</li> </ul>



## 横浜市におけるフレイル予防の推進について

本市では、フレイル<sup>※</sup>の予防が健康寿命の延伸に資すると言われていたことから、第8期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画にフレイル予防等の推進を位置づけ、各種取組を実施しています。

令和3年度より、医療保健福祉の関係団体や有識者及び行政で構成されるフレイル予防の推進に向けた検討会等を実施し、取組の方向性や行政・各団体の具体的な取組内容等について検討したほか、リーフレットを作成いたしました。

※「フレイル」とは、心身の機能を含む生活機能が低下し、将来要介護状態となる危険性が高い状態を指します。

### 1 フレイル予防啓発リーフレットについて 【別紙リーフレット参照】

市民の皆様が早期からフレイル予防に取り組むことができるよう「フレイル予防啓発リーフレット」を作成しました。令和4年8月より、区役所、地域ケアプラザ等でリーフレットを配布のほか、関係機関・関係団体の皆様もフレイル予防の普及啓発の取組や情報提供などで、本リーフレットをご活用ください。

#### 【フレイル予防啓発リーフレットの内容】

【表面】 フレイルについて知る	【裏面】 フレイル状態に気づく	【中面】 フレイル予防に取り組む（行動する）
 <p>フレイルとは、心身の機能を含む生活機能が低下し、将来要介護状態となる危険性が高い状態を指します。</p> <p>フレイルのほらほら日頃の小さな変化から</p>	 <p>日々の暮らしぶりフレイルチェック</p> <p>チェック項目: 歩行速度、握力、認知機能、栄養状態、社会参加、生活機能</p>	 <p>今日から取り組むフレイル予防! 4つの柱 + 3つの取組</p> <p>運動、口腔、社会参加、栄養</p>
フレイルやフレイル予防に関する基礎知識	気づきを促すための「日々の暮らしぶりフレイルチェックリスト」	フレイル予防につながる取組や情報検索方法等を記載。

### 2 フレイル予防普及啓発の取組について

#### 【主な取組】

- ①フレイル予防啓発媒体（リーフレット等）を活用した普及啓発の実施。
- ②フレイル予防啓発のための人材育成（研修会）の実施。
- ③行政・関係機関・関係団体が連携し、様々な手法・場を活用した幅広い啓発の実施。
- ④民間企業との連携等、新たな地域資源を活用した効果的な普及啓発の検討・実施。



あなたの現在の健康状態はいかがですか？  
フレイルは、小さな変化からはじまり、そこから連鎖的にフレイルが進行する可能性があります。  
まずは、各項目をチェックして、1つでもあてはまる項目があれば、

【中面】「今日から取り組むフレイル予防! 4つの柱+3つの取組」を確認しましょう。

ここにチェックが ついた方は	中面
<input type="checkbox"/> はい	中面 運動へ
<input type="checkbox"/> はい	
<input type="checkbox"/> いいえ	
<input type="checkbox"/> はい	中面 口腔へ
<input type="checkbox"/> はい	
<input type="checkbox"/> はい	中面 栄養へ
<input type="checkbox"/> いいえ	
<input type="checkbox"/> いいえ	中面 社会参加へ
<input type="checkbox"/> いいえ	
<input type="checkbox"/> はい	中面 こころの健康へ
<input type="checkbox"/> はい	
<input type="checkbox"/> はい	中面 認知機能へ
<input type="checkbox"/> はい	
<input type="checkbox"/> はい	中面 健康と医療へ
<input type="checkbox"/> はい	

- 以前に比べて歩く速さが遅くなって来たと思いますか
- この1年間に転んだことがありますか
- ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか
- 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか  
(※さきいか、たくあんなど)
- お茶や汁物等でむせることがありますか
- 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか
- 1日3食きちんと食べていますか
- 週に1回以上は外出していますか
- ふだんから、近所の人や友人、同居していない家族と交流がありますか
- 毎日の生活に満足していますか
- 周りの人から「いつも同じことを聞く」などのもの忘れがあるとされていますか
- 高血圧や糖尿病等の生活習慣病の診断を受けていますか  
または、疑いを指摘されたことがありますか

※厚生労働省 高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン第2版(令和元年度)「後期高齢者の質問票」一部改変

### お問い合わせ先

あなたのお住まいの地区を担当する地域ケアプラザについては、区役所へお問い合わせください。または、[高齢期の暮らし選び応援サイト](#) [ふくしらべ](#) で検索できます。



「フレイル!フレイル!フレイル予防!」は、横浜市のフレイル予防推進の愛称です。

### 各区高齢・障害支援課

区	電話番号	FAX番号	区	電話番号	FAX番号
鶴見	510-1775	510-1897	金沢	788-7777	786-8872
神奈川	411-7110	324-3702	港北	540-2327	540-2396
西	320-8410	290-3422	緑	930-2311	930-2310
中	224-8167	224-8159	青葉	978-2449	978-2427
南	341-1140	341-1144	都筑	948-2306	948-2490
港南	847-8419	845-9809	戸塚	866-8439	881-1755
保土ケ谷	334-6328	331-6550	栄	894-8415	893-3083
旭	954-6125	955-2675	泉	800-2435	800-2513
磯子	750-2418	750-2540	瀬谷	367-5716	364-2346

### 横浜市役所

課	電話番号	FAX番号	窓口	電話番号	FAX番号
健康福祉局 地域包括ケア推進課	671-3464	550-4096	横浜市コールセンター	664-2525	664-2828



健康寿命の延伸をめざして、**フレイル予防**に取り組んでいきましょう。

いくつになっても健康で自立した生活を送り、活動的に過ごすためには、健康寿命\*を延ばすことが大切です。

\*健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことです。

フレイル状態の改善やフレイル予防の取組を行うことは、健康寿命の延伸に良い影響を与えると期待されています。



## フレイルとは??

高齢期に体力や気力、認知機能など、からだところの機能(はたらき)が低下し、将来介護が必要になる危険性が高まっている状態をいいます。

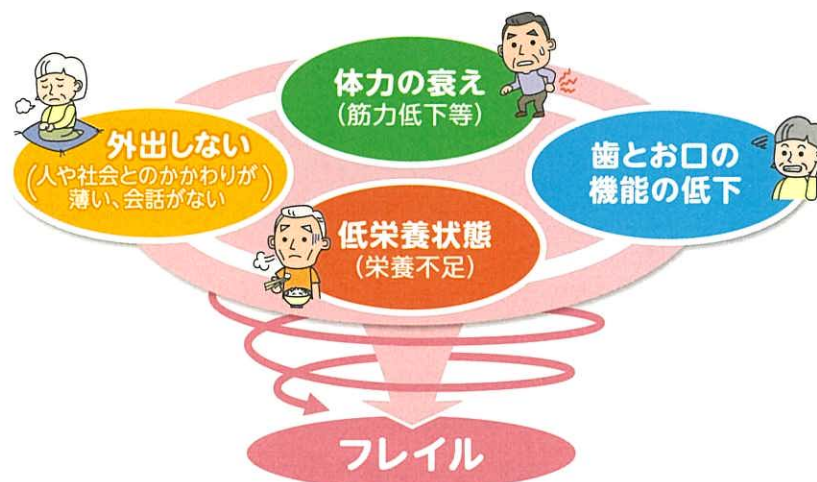
⚠ 気をつけて! 実は、あなたも隠れフレイルかも…?

横浜市が実施した調査では、高齢者のうち、  
●フレイル予備群 31.6%  
●フレイル 13.9%  
(出典:健康とくらしの調査2019年)



## フレイルのはじまりは日頃の小さな変化から

からだ・こころ・認知機能等の小さな変化や社会生活面での変化など、さまざまな要素が互いに影響し合いフレイルに至ります。



## フレイル予防

小さな変化に気づき、早い段階から「4つの柱:運動・口腔・栄養・社会参加」の取組を日常生活で一体的に取り入れることが大切です!



# 今日から取り組むフレイル予防!

4つの柱

+ 3つの取組

## 運動

動く | 動き続けていくためのからだづくり

健康を維持するためには、現在の**体力、骨や筋力を維持することが大切**です。

### ●ロコモティブシンドローム※を予防!

※加齢に伴う筋力低下や骨・関節の疾患などの運動器の障害が起こり、「立つ、座る、歩く」などの移動能力が低下する状態。

### ●散歩やウォーキングなど、1日20~30分程度(目安)と毎日少しの筋トレをプラス。

おすすめは、横浜市歌にあわせて、気軽にできる「ハマトレ(体験編)」

動画はこちら▶



### ハマトレの一部を紹介!

#### 手開き

手の上げ下げ4回。



親指を上にして肩の高さまでゆっくり上げる

#### 脚開き

左右各4回。



やや斜め後ろにゆっくり上げます

#### ヒップウォーク

足を一步前に出し、両足を曲げて腰を下ろします。左右交互に足を出し4歩進みます。

前に出した足で体重を支えながら腰を下ろします



#### ダイナミックフラミンゴ

左右それぞれ20カウント。



視線を前に

床から5cm位上げる

#### POINT

まずは、日常生活の中でからだを動かす工夫

今よりも1日10分多くからだを動かす、家事の合間やテレビを見ながら「ハマトレ」の1ポーズを行うなど「ながら運動」も効果的!



## 口腔

お口の働き | 噛む力・飲み込む力を保つ

全身の機能の衰えにつながる可能性のある**オーラルフレイル(お口の機能の衰え)を予防することが大切**です。

- 毎日の歯みがきで、むし歯・歯周病を予防し、お口の中を清潔に保つ。
- かかりつけ歯科医をもち、適切なアドバイスを受ける。
- お口の体操で噛む力・飲み込む力・滑舌を鍛える。

各発音8回を2セット行う

#### パタカラ体操

お口の周りや舌の筋力の低下を予防します!



パパパパ  
パパパパ  
タタタタ  
タタタタ



カカカカ  
カカカカ  
ララララ  
ララララ

- 1.「パ」…唇をはじくように
- 2.「タ」…舌尖を上の前歯の裏につけるように
- 3.「カ」…舌の奥を上顎の奥につけるように
- 4.「ラ」…舌をまるめるように



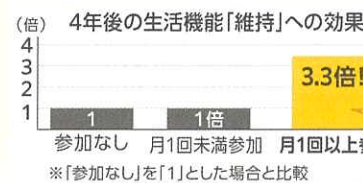
## 社会参加

つながる | 外出・交流・参加で人や地域とつながる

こころとからだの健康を維持するためには、**人とつながること、地域社会に参加することも大切**です。

- 1日1回以上の外出。
- 週1回以上は、友人・知人などと交流。
- 楽しさややりがいのある活動に参加。  
(町内会、ボランティア、元気づくりステーション等の通いの場への参加など)

#### 社会活動等への参加は元気の秘訣



“地域社会と積極的に関わりをもつ高齢者ほど、健康状態が維持されることが明らかになっています”

月に1回以上、ボランティア活動を行っている人は、4年後も元気な生活を続けていた人が、3.3倍多い!

出典: Nonaka K, et al. Plos One, 2017. 東京都健康長寿医療センター研究所



## こころの健康

フレイル予防のためには、こころの健康も大切です。

- しっかり休養・睡眠をとる。
- 生活の中で困ったこと等があるときは、身近な相談機関(区役所や地域ケアプラザ)等へ相談。
- 気になる症状があるときは、専門の医療機関に相談。

## 認知機能

認知機能の低下は、フレイルの大きな危険因子となります。

- 運動や栄養改善、社会活動等に取り組むことで、脳の活性化を促進。
- もの忘れが気になる方は、まずはかかりつけ医に相談。
- 年に1回は、横浜市もの忘れ検診を受診。

もの忘れ検診はこちらから



## 健康と医療

フレイル予防のためには、自分の健康状態を知り、生活習慣病等の病気のコントロールも大切です。

- 年1回の「けんしん」受診(特定健康診査、横浜市健康診査、がん検診)。
- かかりつけ医をもち、定期的に受診し医師の処方通りに薬を飲む。
- 運動や食事などの生活習慣を改善。



出典: 東京都健康長寿医療センター研究所

### もっと取り組む! 続ける! フレイル予防!

お住まいの区役所や地域ケアプラザでは、健康づくり・介護予防(フレイル予防)について学び、続けるためのお手伝いを行っています。

- 学ぶ・体験する フレイル予防に大切な運動、口腔、栄養等、健康づくり・介護予防の最新情報を講演会やイベント等で学ぶ。
- 仲間と一緒に活動をする 身近な地域で体操やウォーキング等の活動に継続的に取り組んでいるグループ(元気づくりステーション等)に参加。
- 知識や経験を生かす 楽しさややりがいを感じながら地域にも貢献! おすすめは地域のボランティア活動。



元気づくりステーションの活動の様子

### もっと知りたい! フレイル予防!

横浜市ホームページ▶



もっと詳しく、健康づくり・介護予防(フレイル予防)の情報を知りたい方は、横浜市ホームページで検索。**元気なうちから介護予防** 各取組の詳しい情報やパンフレット等もダウンロードすることができます。

No.	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係														2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度	
		分野		アクション										ライフステージ						
		生活習慣の改善		Action 1	Action 2	Action 3	Action 4	Action 5	Action 6	Action 7	Action 8	Action 9	Action 10	（乳幼児期・青年期）	（働き・子育て世代）					（高齢の世代）
		食生活	歯・口腔	喫煙・飲酒	運動	休養・こころ	がん検診・特定健診	特定健診	働き世代の健康づくり	健康結果を活用	子どもの生活習慣の改善	健康格差の縮小	定期的な運動	地域活動・社会参加	フレイル予防・オラル					受動喫煙防止・禁煙
1	学校	横浜市PTA連絡協議会	○														①安全に関する研修会へ参加等。横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知を実施。市P連会長賞を選出、役員が審査員となり役員自らの食の学びにつながった。 ②リモート開催の日本PTA全国研究大会北九州大会に 当会役員と理事が参加。作成した報告書を各区P連へ配付し、情報共有を実施。 ③関東ブロック研究大会埼玉大会において、子ども達の 安全・安心に関する取組について発表を行った。 ④指定都市・広島大会において各都市のPTA代表がいじめについての取組を相互に紹介。 ⑤中学校昼食について横浜市教育委員会より最新情報提供を受け、積極的な利用につながる意見交換を実施。	①安全に関する研修会へ参加等。横浜のこどもお弁当コンクールの後援と周知を行い、食育に対する興味関心を高める。市P連会長賞を選出予定。 ②日本PTA全国研究大会山形大会に参加予定。報告書を各区P連へ配付し、情報共有を行う。 ③関東ブロック研究大会山梨大会に参加し発表予定。報告書を各区P連へ配付し、情報共有を行う。 ④指定都市・さいたま大会において、家庭教育をはじめとするテーマについて、各都市PTAの取組を相互に紹介し、学びを深める。 ⑤中学校昼食についての最新情報を横浜市教育委員会より得て、保護者としての意見を提供する。 ⑥コロナ対策として、各種会議や事業において基本的感染対策の実施に務める。	・新型コロナウイルス感染防止対策として、各種会議や事業において基本的感染対策の実施に務めた。	B
2	職域関係機関・団体	神奈川産業保健総合支援センター															①地域産業保健事業 3,403事業場（相談者44,342人）訪問支援231件 ②産業保健総合支援センター事業 相談1,320件、実地相談14件、研修165回、セミナー2回 ③メンタルヘルス対策の普及促進事業 個別訪問支援 316件 ④治療と職業生活（仕事）の両立支援事業 相談26件、セミナー2回（コロナのため）、個別訪問支援2件、個別調整支援0件 ⑤転倒・腰痛対策（ゼロ災無料出張サービス）セミナー5回、個別訪問支援12件	産業保健活動総合支援事業として、事業場における産業保健を支援するため、取り組む。 ①地域産業保健事業：労働者50人未満の事業者及び労働者を対象とした、産業保健活動の支援 ②産業保健総合支援センター事業：産業保健関係者を対象とした、相談、Web研修、情報提供などの支援 ③メンタルヘルス対策の普及促進事業：産業保健関係者や労働者を対象とした、職場のメンタルヘルス対策に関する相談や事業場の個別訪問支援 ④治療と仕事の両立支援事業：治療と仕事の両立支援対策に関する制度の普及促進、労働者と事業場との間の個別 調整支援 ⑤転倒・腰痛対策（ゼロ災無料出張サービス）：転倒・腰痛災害ゼロを目指す企業へのサポート支援	計画外研修会開催回数2回 ①コロナ禍における熱中症対策研修会 ②神奈川県保健医療局コロナ対策本部と共催で研修会を開催	A
3	職域関係機関・団体	横浜南労働基準監督署															①事業者や労働者からの、職場での新型コロナウイルス感染拡大防止に係る相談に対して丁寧な対応を実施。 ②あらゆる機会を通じた「取組の5つのポイント」や「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」等について周知啓発の実施。 ③中小企業における働き方改革の取組に関して、集団指導や相談対応により支援を実施。 ④長時間労働が行われていると考えられる事業場に対し、監督指導の実施。 ⑤会合にて、長時間労働の抑制および過重労働による健康障害防止対策、メンタルヘルス対策について、周知・指導等の実施。	①令和6年4月から建設業、自動車運転者等、特定分野の労働者について時間外労働の上限規制が適用されることを踏まえ、建設業、陸上貨物運送事業、道路貨物運送事業を中心に、働き方改革の取組を支援する。 ②長時間労働の抑制および過重労働による健康障害を防止するため、長時間労働が行われていると考えられる事業場に対する監督指導を引き続き実施する。 ③職場の産業保健活動やメンタルヘルス対策が適切に実施されるよう、引き続き周知・指導を行う。	・実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に十分配慮する。 ・全国労働衛生週間横浜南地区推進大会をはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となる会合等が多数あったが、可能なものは感染予防対策を講じて実施した。	B

第2期 健康横浜21 関係機関・団体情報共有シート(抜粋版)

No.	業種	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係										2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度													
			分野		アクション																								
			生活習慣の改善					生活習慣の悪化予防									ライフステージ												
			食生活	歯・口腔	喫煙・飲酒	運動	休養・こころ	がん検診・特定健診	特定健診	がん検診	がん検診	がん検診					がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診		
4	企業	チェーンストア協会(相鉄ローゼン(株))	○		○																					①神奈川食育を進める会とともに食育活動に継続して参画未病に関する情報発信に協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進従業員の健康促進のため、インフルエンザ予防接種の啓蒙、推進。本年も社員の1/3が実施。 ③従業員の健康診断受診対象者の内、希望者に自己負担での腫瘍マーカー、ピロリ菌検査、PSA(前立腺がん)検査を追加実施。 ④コロナワクチン職域接種にてテナント従業員・その家族等関係者の接種を実施、体温の高い方への案内、ソーシャルディスタンス確保の案内および入場制限、マスク着用の案内、体温計・消毒液の店頭設置、レジカウンターにシート設置、CO2測定器設置	①神奈川食育を進める会とともに食育活動に継続して参画健康横浜21「野菜をたべよう」、「地産地消」地元を応援・旬野菜のメニュー提案、未病(健康長寿)」、時季行事の案内とメニュー提案に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防対策・予防接種啓蒙の推進 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で採血による腫瘍マーカー検査、ピロリ菌検査、PSA検査を実施。対象者の拡大を検討 ④コロナ感染予防対応 マスク着用・消毒液・飛沫シートの対応 ⑤健康経営の推進 喫煙状況の調査、対応の推進	取組は人が密集しないように配慮して実施 また、従業員の健康診断は実施期間を例年より遅らせ、分散して期間を延長して実施 コロナワクチン職域接種にてテナント従業員・その家族等関係者の接種を実施 ※コロナ感染予防対策については実績④に記載	B
			最終年度に向けた取組方針																										
			・バランスよく食べ、野菜たっぷり、塩分少なめの食事提案を通じて、子どもを含めた地域住民の健康づくりの普及啓蒙の一助を担う。 ・健康経営で従業員の健康な身体づくりを推進する。 ・子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じて子供の健康づくりの普及啓蒙に努める。																										
5	企業	JA横浜	○			○																				①現役世代向け「健康サポート教室」を開催：ヨガ・ウォーキング2回開催17名参加 ②コロナ禍でも自宅で気軽に料理を楽しめるよう、インスタグラムに料理動画10本掲載。HPに「おすすめレシピ」を毎月2本ずつ掲載。 ③親子農業体験「あぐり塾」(植えて育てて収穫体験)17組48名参加 ④収穫体験「あぐり塾」10/30みかん狩り(収穫体験と農家のお話)78名参加 ⑤小学校稲作栽培指導 26校、延べ70回、延べ2,333名参加(小学校田んぼで、田植え・稲刈り指導) ⑥小学校出前授業 3回 233名参加(横浜農業と地産地消の授業) ⑦地産地消料理教室 53回 586名参加(横浜農畜産物を使用した料理教室)	①若年層や担い手農業者を対象に「健康意識向上ステップアップ運動」と称し、JAグループである厚生連施設を利用した生活習慣病健診や人間ドックの受診率向上をめざす運動を実施 ②高齢者向け・現役世代向けと年代にあった「健康寿命100歳講座」や「健康サポート教室」を開催予定 ③子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じて子供の健康づくりの普及啓蒙として各種イベントを実施予定 ・親子農業体験・ブルーベリー収穫体験・小学校稲作栽培指導・小学校出前授業・地産地消料理教室(横浜農畜産物を使用した料理教室)	・アルコール消毒と検温の実施。 ・屋内実施はマスクを着用のうえソーシャルディスタンスを保って実施。 ・講座等は会場をアクリル板で仕切り、参加者を半数にして実施。	B
			最終年度に向けた取組方針																										
			・めざせ!健康寿命100歳講座の継続によって組合員、地域住民の健康づくりの一助を担う ・組合員の検診受診率の向上をめざす。 ・子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じて子供の健康づくりの普及啓蒙に努める。																										
6	企業	横浜市食品衛生協会																								①特定健診受診率向上のための啓発リーフレットの作成 特定健診受診率は27.6%となり健康意識の向上がみられる。 ②検便検査の普及のための啓発リーフレットの作成、配布 ③業界団体との連携による喫煙ルールの働きかけ ④食中毒予防キャンペーンは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により昨年同様開催できず。会員店舗の協力で食中毒予防のリーフレットの配布やポスターの掲示を実施し、広く市民に食中毒予防の普及啓蒙を行った。	①特定健診受診率向上のための啓発リーフレットの作成 ②検便検査の普及のための啓発リーフレットの作成、配布 ③業界団体との連携による喫煙ルールの働きかけ ④食中毒予防キャンペーンの開催	コロナ対策としてはイベント等の開催は中止または延期。	B
			最終年度に向けた取組方針																										
			・特定健診の受診率向上の取組方法は、引き続きパンフレットの配布回数を増やし、全国平均並の受診率に届くよう頑張ります。 ・検便事業は、衛生管理計画(ハサップ)の施行により、販売数が増加し、食中毒予防の効果が出ます。 ・受動喫煙の問題は、市内主要駅だけでなく、人の集まる地区は全て喫煙禁止の働きかけを他団体と連動し進めていきます。																										

第2期 健康横浜21 関係機関・団体情報共有シート(抜粋版)

No.	地域関係団体	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係										2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度								
			分野		アクション																			
			生活習慣の改善					生活習慣病の重症化予防									ライフステージ							
			食生活	歯・口腔	喫煙・飲酒	運動	休養・こころ	がん検診・特定健診	特定健診	働き世代の強化	健康結果を活用	子ども生活習慣の改善					健康格差の縮小	定期的な運動	地域活動・社会参加	フレイル予防・オールド	受動喫煙防止・禁煙	データ活用	(乳幼児期・青年期)	(働き・子育て世代)
7	地域関係団体	横浜市保健活動推進員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>①重点取組テーマを「感染症予防に関する普及啓発」と設定。</p> <p>②各区や各地区で感染症予防・手洗い・ウォーキングなどの研修、健康講座、ウォーキングなど、地域の実情に合わせた事業を行なった。研修・事業ともに昨年より多く開催することができた。</p> <p>&lt;研修&gt; 市1回 参加 3,800名(概数) 区 34回 参加 1,358名 地区 316回 参加 1,894名</p> <p>&lt;事業&gt; 区34回 参加 12,614名 地区 3,093回 参加 53,989名</p>	<p>【主要テーマ】「地域の健康づくり」</p> <p>【サブテーマ】</p> <p>①重症化予防のための特定健診・がん検診の普及啓発(重点取組テーマ)</p> <p>②ウォーキングポイント事業への協力と推進</p> <p>③禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進</p> <p>④ロコモ対策の推進</p> <p>⑤認知症について(理解と予防)</p> <p>⑥歯科口腔保健の推進</p> <p>⑦感染症予防に関する普及啓発</p>	<p>・各区や各地区での研修・事業・会議などの開催にあたっては、「活動のチェックシート」を有効活用しながら、活動別の感染予防対策の徹底を図った。</p> <p>・市の研修では、集合形式の研修を止め、講演DVDを作成し、全地区に配付した。</p>	B
8	地域関係団体	横浜市食生活等改善推進員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>健康横浜21計画に基づく乳幼児から高齢期までのあらゆる世代を対象に食生活を通じた健康づくりの普及啓発活動を行うことができた。従来の集合型の啓発活動が難しい中、感染予防に努め、密にならない状況で集合型と啓発型の活動様式で各世代の行動目標に沿った取組を進めることができた。</p> <p>今後も、地域に根差したボランティア団体として、より身近な市民への「健康づくりのきっかけづくり」の推進に努めていければよいと思う。</p>	<p>①第2期健康横浜21の最終段階に入っているため、各区がそれを踏まえて、健康づくりの普及活動を行う。感染対策として昨年度の事業形態で啓発を続ける。</p> <p>②横浜市委託事業として、健康横浜21の最終評価を踏まえ、各区の課題を確認し、乳幼児期～高齢期まであらゆる世代の市民に健康づくりの実践を促す取組を進める。特に働き世代～高齢世代対象は在宅勤務や外出自粛が原因での生活習慣病、フレイル等の発症が懸念されることから、市民が健康を自分事と捉えられるよう、行動変容につながる普及啓発活動を行う。</p> <p>③各区の健康フェアや区民まつり等に参画し、より多くの市民への啓発や他団体との交流や、自治会町内会・各種団体からの依頼事業・協働事業にも積極的に取り組む。</p>	<p>・感染拡大で3ヶ月の活動休止の期間もあったが「できる時にできる活動」を各区が創意工夫し実践した。</p> <p>・500人以上の会員が集まる事例報告会は回避し各区の定例会で発表事例を共有した。</p>	B	
9	マスメディア	(株)神奈川新聞社	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>①紙面では、毎週火曜日付で「暮らし・いきいき」面で、歯科口腔分野も含めた健康情報などを発信した。2022年度も継続していく。</p> <p>②9月の「がん制圧月間」には、高齢者だけでなく若年層にもがんについて考える機会としてもらうべく、AYA世代に多いがんについて専門家による座談会を行い、「がん制圧キャンペーン」特集として4ページにわたり掲載した。</p>	<p>①コロナ関連の情報は巷に多くあるが、コロナ禍での行動制限やコミュニケーション不足による心身への影響についてはまだまだ啓発が必要と考え、本年度は10月に、精神科医および臨床心理士による講演会を開催。コロナ禍でのメンタルへの影響等について専門的な視点で解説してもらう。オンラインによるセミナーも検討したものの、ネット環境に不慣れな高齢者層へ情報が届かなくなることを憂慮し、リアル開催(状況によっては、リアルとオンラインとのハイブリッド形式)の予定。</p> <p>②11月にねんりんピックが県内で行われるため、4～3月までの1年間、毎月シニアの県内アスリートを紹介するとともに、ねんりんピック期間中は、紙面で特集を展開し、シニア世代に運動や健康に関心を持ってもらう。</p>	<p>・毎年開催してきたメディカルセミナーは、2020年度は紙上講演会形式にて開催したが、2021年度は一旦休止し、2022年度に向け開催方法等の見直しを行った。</p>	B	
			最終年度に向けた取組方針																					
			<p>・第2期健康横浜21の目標に向けて健康福祉局、区福祉保健センターと連携を密にしながら、年度ごとに活動の振り返りと年度目標進捗管理を行い市の目標達成をはかる。</p>																					
			<p>・「育ち・学び(若者)世代」に朝食欠食の改善・食事バランスの大切さを知って貰う。</p> <p>・「働き・子育て世代」に食生活の改善・生活習慣病予防の大切さを学んで貰う。</p> <p>・「総りの世代」に低栄養の予防・第3の居場所であるシニアカフェの確立</p> <p>・全世代に「野菜摂取量の増加」と「減塩」を推進する。</p>																					
			<p>・新聞のメイン読者層となる中高年齢層に向け、紙面やセミナーで健康・運動情報を発信し、正しい知識を身につけてもらう。</p>																					

No.	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係														2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度			
		分野		アクション										ライフステージ								
		生活習慣の改善				生活習慣の悪化予防														乳幼児期・青年期	（成・子）育て世代	（高）齢の世代
		食生活	歯・口腔	喫煙・飲酒	運動	休養・こころ	がん検診・特定健診	特定健診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診							
10	マスメディア	(株)テレビ神奈川	○																① t v k いきいきマージャン教 開催期間 2021年6月～2022年4月 ※8月～9月は緊急事態宣言のため休講。延べ参加人数 3,366人 ②横浜マラソン 大会中止 オンラインマラソンの告知・広報 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動を実施。 ④12/30(水) 12:00～13:00『MY ME-BYO LIFE ～コロナを乗り越える！未病のチカラ～』放送 ⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送『News Link』『猫のひたいほどワイド』『tvk NEWSハーバー』等にて放送。コロナ禍のフレイル予防の放送	① t v k いきいきマージャン教室の開催 (後援：横浜市健康福祉局ほか) ②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ広報の放送 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動 ④「未病」特別番組の制作・放送 ⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送	・イベント実施時の検温、パーティションの設置などガイドラインに沿って運営	B
		最終年度に向けた取組方針																				
		・報道や各種番組を通じて、健康に対する市民の関心を喚起し、必要な情報を拡散する。 ・イベントを通して、市民・視聴者と直に接することで情報ニーズの把握に努める。																				
11	保健医療関係団体	横浜市医師会			○														①各種がん検診・各種健診・各種母子保健・各種予防接種事業を円滑に実施。 ②各がん検診毎の精度管理委員会を実施し、精度管理の向上に向けて協議。 ③全市一斉健康相談事業を2区で開催し、一般市民の健康相談事業を実施。 (コロナのため全区実施できず) ④一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行・ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送。 ⑤市民公開講座は3回YouTube配信にて開催。 ⑥特定健診受診率向上について検討。 ⑦学術・研修部会の医学シリーズ第34集で、「タバコに関する諸問題・最新の知見～TOKYO2020に向けて～」のDVDを作成、学校医・産業医へ配布。	①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実 ②各種健診事業の円滑な実施 ③各種母子保健事業の円滑な実施 ④各種予防接種事業の円滑な実施 ⑤全市一斉健康相談事業実施(各区年に一度、催事に合わせて実施) ⑥市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送 ⑦市民公開講座の開催(Youtube配信) ⑧特定健診受診率向上事業への協力 ⑩糖尿病重症化予防事業(多職種連携)への協力及び医師向けの研修会の実施 ⑪がん治療と仕事の両立支援に関して産業医向けの研修会の企画・実施	・全市一斉健康相談事業の規模縮小開催 ・YouTube配信の活用	B
		最終年度に向けた取組方針																				
		・がん検診受診率のさらなる向上と精度管理の充実																				

No.	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係													2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度												
		分野			アクション														ライフステージ											
		生活習慣の改善	歯	喫煙	運動	休養	がん	特定健診	特定健診	がん	特定健診	特定健診	特定健診	特定健診					特定健診	特定健診	特定健診	特定健診	特定健診	特定健診	特定健診	特定健診				
12	保健医療関係団体 横浜市歯科医師会	○	○								○	○	○														①保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る健診、研修会等事業の実施 ②乳幼児歯科健診、研修会等事業の実施、個別乳幼児健診の実施 オンライン講座実施 ③横浜市歯と口の健康週間事業の実施 ④横浜市妊婦歯科健診事業の実施 ⑤横浜市歯と口の健康週間事業の実施 ⑥歯科保健指導型ホームページ「教えて、めばえちゃん」更新 ⑦オーラルケア推進事業（歯周病検診、研修会等）の実施 検診実施医療機関増加 ⑧横浜市介護予防事業 ・元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・オーラルフレイル対策：市民啓発活動・会員向け研修会の実施 ⑨生活習慣病重症化予防：特定健診受診率向上に対する協力や糖尿病・歯周病重症化予防啓発 ⑩横浜市食育フォーラムへ参画 ⑪健康寿命延伸・健康格差是正に関する取組 ・12歳児1人平均むし歯は過去最少（0.29本）を達成した。	・乳幼児歯科健康診査事業の受診率の更なる向上、地域格差の是正、第2子以降のう蝕罹患率減少、成長発育を鑑みた歯科口腔保健の推進 ・市民参加型のイベントとして正しい歯科口腔にかかわる情報発信、多職種協働によるイベント ・歯周病検診受診率の向上（目標数値の設定）、歯周病と全身疾患の関連に関する啓発活動の推進 ・オーラルフレイルの予防ならびに対策の拡充、元気づくりステーションを軸とした啓発活動の推進 ・口腔粘膜疾患の啓発活動の推進 ・障害児または配慮が必要な児童への対応を目的とした研修会の開催・児童虐待防止を目的として各地区の担当者協議会を開催		B
13	保健医療関係団体 横浜市薬剤師会	○	○	○	○	○																					①横浜市禁煙支援、受動喫煙防止事業 ・横浜市禁煙支援薬局事業研修会の開催 ・横浜市禁煙支援薬局事業ビデオ研修会の開催⇒研修会受講者199名 ・令和3年度禁煙支援認定薬局166薬局 ・禁煙相談実施報告数302件 ②運動：健康ウォーキング事業 ・薬草探索健康ウォーキングの開催（10/31）湘南台駅～横浜薬科大までの約4Kmのコースを薬草の説明を交えてウォーキング ③特定健診：糖尿病重症化予防事業 ・モデル区（港北区・青葉区）における多職種連携会議の開催 ・会員薬局よりチラシ配布による広報、受診勧奨	①横浜市禁煙支援、受動喫煙防止事業 ・横浜市禁煙支援薬局認定研修会の開催 ・禁煙外来への受診勧奨 ・各薬局における禁煙相談、受動喫煙防止啓発 ・小中学校における飲酒、喫煙防止、薬物乱用防止教室の開催 ②健康ウォーキング事業 ・薬草探索健康ウォーキング横浜の開催 ③生活習慣病重症化予防 ・糖尿病・歯周病重症化予防啓発に対する協力 ・がん検診・特定健診受診率向上への協力 ・歯科口腔保健推進事業への協力 ④各区役所における、おくすり相談、禁煙相談、健康相談会などの開催		B



No.	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係														2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度		
		分野		アクション										ライフステージ							
		生活習慣の改善		Action 1	Action 2	Action 3	Action 4	Action 5	Action 6	Action 7	Action 8	Action 9	Action 10	（乳幼児期・青年期）	（働き・子育て世代）					（高齢世代）	
		食生活	歯・口腔	喫煙・飲酒	運動	休養・こころ	がん検診・特定健診	特定健診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診	がん検診					がん検診	がん検診
14	保健医療関係団体	神奈川県栄養士会	○	○														①「育ち・学びの世代」に向けての取り組み：歯と口の健康週間フェスティバルはWEBでの開催 会員にチラシを配布協力した ・かながわ食育フェスタは新型コロナ感染症拡大防止のため中止 ・横浜市中央市場作成 おさかな離乳食レシピ集を使い「とりわけ離乳食教室」を横浜市子育て拠点中区、緑区2か所、子育て広場港北区2か所で開催 ②「働き・子育て世代」に向けての取り組み ・健康チャレンジフェアかながわの開催中止 ・おうち時間を楽しもう 手軽に作れる「お家で出来る簡単レシピ」をホームページに掲載 ③「総りの世代」に向けての取り組み：横浜市作成フレイル予防リーフレット作成に協力 ④すべてのライフステージに向けた取り組み：「WEB市民活動フェア2021」として12月～ホームページ特設サイト上で開催 「神奈川県栄養士会第1県民活動事業部の活動紹介」をパワーポイントにまとめ、動画を配信した ・活動再開に向けて「子どもができる簡単料理レシピ集」を作成 500セット印刷	①「育ち・学びの世代」にむけて：食育事業と運動しながら、親子で楽しく学べる機会と教材の提供・・・「子どもができる簡単レシピ集」を使う料理教室の実施、歯科医師会との連携・・・令和4年度度横浜市歯と口の健康週間中央行事WEB開催の周知、「横浜デンタルショー」へ食育ブース協力予定、中央卸売市場発行 栄養士会監修とりわけ離乳食レシピブックを使う離乳食教室を横浜市子育て拠点で3区開 ②「働き・子育て世代」にむけて：野菜摂取や塩分量への気づきを促し、食生活を見直す機会を提供する ホームページにて「おうち時間を楽しむレシピ掲載」 ③「総りの世代」にむけて：健康寿命の延伸、食を楽しむ場の提供と支援のために、地域ケア会議への参画、通いの場での介護予防事業を積極的に支援する。「シニア料理集」の紹介 ④すべてのライフステージに向けた健康的な食生活の支援 ⑤JDA-DAT（日本栄養士会並びに神奈川県栄養士会災害支援チーム）の活動周知 横浜市防災計画関連機関として食を通じた災害支援 災害時の連絡網の整備をする	集団でのイベントは中止だったが、感染対策を取り、小規模な料理教室はデモンストレーション中心で開催した WEBを活用して活動を周知した レシピ集を作成し今後の活動に備えた	B
15	保健医療関係団体	横浜市スポーツ協会			○		○	○	○	○								①市内全域および各区スポーツセンター（青葉・港北除く16区）にて、横浜シティウォーク（309人参加）、横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル(2,343人参加)、横浜マラソンチャレンジ杯(4施設)等イベントの実施。 ②子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施（16施設、348,900人参加） ③スポーツ情報サイト「ハマスポ」による情報提供(2174件)のほか、各スポーツセンターHP・SNSによる情報発信、オンラインレッスンの実施。 ④保育園等における「はつらつキンダー事業(6,286人参加)」や、小学校等における「いきいきキッズ事業(8,639人)」の実施 ⑤地域におけるスポーツ活動支援として、ヨコハマさわやかスポーツ普及事業（108,323人参加）、スポーツ人材の養成・育成事業(4講座・273人参加)の実施および人材を活用した運動支援(320,071人参加)、健康体力づくり派遣指導(7,674人参加)の実施 ⑥体力測定事業は、SPS（スポーツ医科学センターにおけるスポーツプログラムサービス1,232人参加）の実施。	①ライフステージに応じたスポーツ活動や、ウォーキングやマラソンなど健康づくりのきっかけにつながる、各種イベント・スポーツ教室の実施と情報提供、活動団体の支援や人材の育成・活用を行う。 ②各種市民大会の支援、トライアスロンや横浜マラソン等運営組織への参画、ねんりんピック神奈川への支援・助成等、競技スポーツ推進事業の実施。 ③「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル」や、さわやかスポーツの普及等、地域スポーツ活動の推進。 ④子どもの体力向上事業やオンラインレッスンの提供等、健康・体力づくり推進事業の実施。 ⑤スポーツ人材の養成・育成・活用事業 ⑥スポーツ情報サイト「ハマスポ」や、スポーツセンターHP・SNSを活用したスポーツ情報の提供 ⑦インクルーシブスポーツ推進事業 ⑧スポーツ団体育成・視線事業 ⑨子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施	・施設利用者の消毒・検温・体調チェックの実施 ・換気・飛沫対策パーテーション・シートの設置 ・エレベーター内や待機列等におけるスペースの明示 ・室場の広さに応じた利用人数制限 ・職員・講師の体調チェック およびマスクの着用	B

No.	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係														2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度				
		分野		アクション										ライフステージ									
		生活習慣の改善					Action 1	Action 2	Action 3	Action 4	Action 5	Action 6	Action 7	Action 8	Action 9					Action 10	（乳幼児期・青少年期）	（働き・子育て世代）	（高齢者世代）
		食生活	歯・口腔	喫煙・飲酒	運動	休養・こころ	がん検診・特定健診	特定健診・がん検診	働き世代の健康づくり	健康結果を活用	子どもたちの健康づくり	健康格差の縮小	定期的な運動	地域活動・社会参加	フレイル予防・オラル					受動喫煙防止・禁煙			
16	保健医療関係団体			○																①ホームページや講演会等で改正健康増進法全面施行の周知・啓発 ②ホームページでWeb版「かながわ卒煙塾」の動画配信、新型コロナウイルス感染症とタバコ」等タイムリーな情報提供 ③禁煙・受動喫煙防止講演会、禁煙セミナーへの協力・講師派遣 56回、延べ約7,700人 オンラインによる講演会18回 ④企業の卒煙塾への協力11回（うちオンライン形式4回） かながわ卒煙サポートセミナー1回 ⑤県立高校の喫煙防止教育への協力4回（うち2回はコロナのため中止）	①世界禁煙デーに呼応した講演会の開催 ②改正健康増進法および神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例に対する支援活動 ③第17回日本禁煙学会学術総会開催（2023年）に向け実行委員会の立ち上げ・準備 ④withコロナにおける新たな活動方法の検討 ⑤禁煙・受動喫煙防止講演会への協力・講師派遣 ⑥未成年者・教育関係者への禁煙指導や啓発活動 ⑦かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力	・世界禁煙デーに呼応した講演会はオンラインにて開催	B
17	医療保険者																			①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組 ・横浜市の「第2期データヘルス計画」について、有識者で構成する「保健事業支援・評価委員会」や政令市を対象としたブロック別研修会により、特定健診対象者（特定健診未受診かつ医療機関未受診者を含む）や特定保健指導対象者への効果的かつ効率的な勧奨方法について助言・評価を実施。 ・レセプトや健診データ、介護データを活用した「KDBシステム」について、横浜市からの依頼（データ分析支援事業）に基づき、18区担当者を対象に、KDBシステムの概要や操作マニュアルが記載された資料をYCAN（横浜市職員用のYokohamaCommucAtionNetwork）に掲載。また、初任者向けや一体的実施とテーマ別に個別研修を国保会館にて開催。 ②特定健診受診促進への取組 ・広報事業として、AMラジオCMを実施するとともに、健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成し、横浜市本庁及び区へ76,000個を配布。 ③健康づくり促進への取組 ・横浜市の健康まつり事業等への支援として、1区に在宅保健師を派遣するとともに、3区に健康測定機器（骨密度測定器、脳年齢計、ヘモグロビン量測定器）を貸出。	①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組 ・神奈川県や県保健福祉事務所と連携を図り、保険者等（後期高齢者医療広域連合を含む）のデータヘルス計画がPDCAサイクルにより効果的かつ効率的に推進できるよう、有識者で組織する保健事業支援・評価委員会により個別に計画の評価・助言を行う。 ・「KDBシステム」について、初任者向け研修会（国保・後期）及び一体的実施に係る研修会を実機を使って開催する。 ②特定健診受診促進への取組 ・広報事業として、ラジオCMを使った受診勧奨や健康まつり等で使用する啓発媒体を作成。「健診受診率向上ポスター」を作成し、県・群市医師会を通じて県内医療機関に配布。 ③健康づくり促進への取組 ・健康増進に関するパンフレットを、特定保健指導に特化した既製のパンフレットに変更し、保険者で実施する特定保健指導の初回面接用に活用していただくことを目的として配布。また、保険者が実施する健康まつり等に対して、在宅保健師の派遣や健康測定機器の貸出を行い、保険者の健康づくり促進に向けた取組を支援。	・開催形式の工夫（書面開催やオンライン開催等）や会場での工夫（アルコール除菌や密にならないための部屋の確保）を行った。	A

No.	関係機関・団体名	第2期 健康横浜21との関係														2021年度実績	2022年度取組計画	コロナ対策	令和3年度達成度				
		分野		アクション										ライフステージ									
		生活習慣の改善					Action 1	Action 2	Action 3	Action 4	Action 5	Action 6	Action 7	Action 8	Action 9					Action 10	（乳幼児期・青年期）	（働き・子育て世代）	（高齢世代）
		食生活	歯・口腔	喫煙・飲酒	運動	休養・こころ	がん検診・特定健診	特定健診・がん検診	働き世代の健康づくり	健康結果を活用	子どもからの	健康格差の縮小	定期的な運動・社会参加	地域活動・予防・オーラル	フレイル・防・オ					受動喫煙防止・禁煙			
18	医療保険者	健康保険組合連合会神奈川連合会	○	○	○	○	○	○	○	○										①100キロウォークは、コロナの影響で中止。 ②連合会実施の特定保健指導は、ICTの活用による遠隔面談等コロナ対策をとった上で、例年並みの実施。 ③被扶養者への受診勧奨ハガキを計画通り3健保936枚を提供し、各健保より発送。 ④共同保健事業は計画通り実施。 ・ダイエットプログラム・歯肉溝バイオマーカーによる歯周病検査・重炭酸温浴法による健康増進プログラム・メタボ者対象自己調整プログラム「セルコン」 ・ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施（推奨事業） ⑤保健師による健康相談を3事業所46名、禁煙セミナーを2事業所420名対象に実施。 ⑥かながわ健康企業宣言事業拡大に向け、「健康経営アドバイザーセミナー」「健康企業宣言事業説明会」の開催、「健康経営サポート事業（保健事業の提供、相談体制構築）」の実施	①健康ウォークの充実、拡大 ・健保連かながわ100キロウォークの開催 ・Lineで100キロウォークの導入 ②共同保健事業の実施 ・特定保健指導の実施率向上事業：連合会費用補助による特定保健指導の実施・ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施 ・被扶養者向け特定健診受診率向上事業：特定健診受診勧奨ハガキの提供 ・郵送血液検査キット「DEMECAL」の斡旋 ・歯科口腔衛生事業：県歯科医師会契約に基づく歯科検診事業・歯肉溝バイオマーカーによる歯周病検査 ・生活習慣改善事業：レコーディングダイエットプログラム（減量キャンペーン）・自己調整プログラム「セルコン」の実施・セミナー動画の提供（運動習慣改善・食生活改善・メンタルヘルス・喫煙対策） ③かながわ健康企業宣言事業の拡大展開	・セミナーや講習会等はWEBを併用したハイブリッド方式で開催。 ・会場参加者へは消毒、検温を実施した上で、広い会場を準備し密を回避した。	A~B
19	医療保険者	全国健康保険協会神奈川支部				○	○	○												①健診の推進：（被保険者）・新規加入の事業所に文書勧奨を実施。健康宣言事業所を加え、電話勧奨も行った。・未受診者に近隣健診機関を案内するDM送付。 ・事業者健診データの提出勧奨を一括委託し、電話・文書による勧奨を実施。（被扶養者）・自己負担額無料の健診機関主催の集団健診（会場健診）を10~12月、1~3月の2サイクルで実施。 ②保健指導の促進：実施件数の少ない健診機関を訪問し、働きかけを行うとともに、未契約の機関との契約に向けた話し合いを行い委託機関の拡大を図った。・委託業者によるICTを活用した遠隔面談を実施。初回面談1,030人、評価743人、途中終了76人。 ③事業主等の健康づくり意識の醸成：「かながわ健康企業宣言」参加事業所数の拡大に向け、広報誌を活用して周知を図った。新たに運輸関係団体にも働きかけ実施。 ・宣言事業所に対するのサポートに、メンタルヘルス対策を取り入れて実施。 ④重症化予防：未治療者に対し受診勧奨を実施・糖尿病性腎症重症化予防事業を横浜市と横須賀市で実施。9月から相模原市を加えて実施。	①健診の促進：（被保険者）新規加入事業所に生活習慣病予防健診の案内を送付。新規加入事業所および大規模事業所に訪問等による受診勧奨を実施。健診データ作成を含む一括委託による事業者健診データの取得勧奨を実施しデータ取得を促進。（被扶養者）未受診者対策としてオプション検査等を含めた自己負担無料健診について効果的な広報で受診を促す。被保険者と同様の生活習慣病予防健診を提供し、受診件数の拡大を図る。 ②保健指導の促進：健診当日に保健指導を実施できる機関を確保し、初回分割実施などによる保健指導の利用拡大を推進。民間委託機関やICTを活用し特定保健指導の利用拡大を図る。 ③事業主等の健康づくり意識の醸成：加入事業所への文書勧奨および健康づくり推進に係る覚書を締結した団体等と連携した勧奨により、健康宣言事業所数の更なる拡大を図る。健康宣言事業所に、メンタルヘルス予防対策を含めた講座の実施や健診の重要性についての理解促進に向けたリーフレットを配布。 ④重症化予防対策：健診で要治療（血圧、血糖）となっているが医療機関を受診していない加入者に対して電話等による受診勧奨を委託で実施。糖尿病患者にかかりつけ医と連携し、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを委託で実施。県や市町村、医師会等と連携し、対象地域の拡大を検討。		B

第2期健康横浜21関係機関・団体情報共有シート

資料9(原本)

1

横浜市PTA連絡協議会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標  子ども達の食生活に重点を置き、「早寝・早起き・朝ごはん」の推進と、親(保護者)の健康に関わる生活改善等の充実を図る。
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	食生活	運動	
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	あと1,000歩歩く/定期的に運動する	

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績					今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p><b>中間地点</b></p> <p>①安全に関する研修会へ参加 毎年、研修会や講演会等に積極的に参加し、会員相互の意思向上に努めている。 市P連役員参加の研修会等の場合は、理事会を通して、単位PTAまで広く伝わるよう情報発信に心がけた。よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、お弁当コンクールにおいては、既に三回目となり、回を重ねるごとに参加者も増え、食育に対する興味関心を持っていただけるようになってきた。 ②毎年、日本PTA全国研究大会において、食の安全・安心についての分科会参加。各大会ごとに視点も代わり、勉強になっている。参加者は報告書を作成し、各区P連へ配付し、情報共有を行っている。 ③毎年、関東ブロック大会において、健康教育についての分科会等に参加、日P同様、各区P連へ情報共有をしている。 ④毎年、指定都市大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。今回は、札幌市PTAの方々が地震被害により参加を断念。札幌市PTAよりメッセージをいただき改めて、考えることが多かった。災害にかかわる貴重な情報も多く、横浜にも生かせるよう役員会等でも継続的に話し合いを重ねている。 ⑤中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動を行っている。 ⑥健康福祉局事業への積極的協力。ウォーキングの推進(ウォーキングポイント事業に参画)・各単Pへの申込方法の周知・申込みの実施、参加者への直接PRをした。このPRにより、100名近くの応募があったと聞いている。効果があつた。</p>	<p><b>取組計画</b></p> <p>①安全に関する研修会へ参加 よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、お弁当コンクールにおいては年を追うごとに参加者も増え、食育に対する興味関心を持っていただけるようになってきた。 ②日本PTA全国研究大会新潟大会において、食の安全・安心についての分科会参加。各大会ごとに視点も代わり、勉強になっている。参加者は報告書を作成し、各区P連へ配付し、情報共有をしている。 ③指定都市・北九州大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。今回は、札幌市PTAの方々が地震被害により参加を断念。札幌市PTAよりメッセージをいただき改めて、考えることが多かった。災害にかかわる貴重な情報も多く、横浜にも生かせるよう役員会等でも継続的に話し合いを重ねている。 ④中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動を行っている。 ⑤中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動を行っている。</p>	<p><b>実績</b></p> <p>①安全に関する研修会へ参加 よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、市P連賞も出させていただき、今年度も参加者が増え、食育に対する興味関心を引き出した。 ②日本PTA全国研究大会新潟大会において、安全・安心についての分科会に参加。報告書を作成し、各区部へ配付。理事会にて報告会も開催した。 ④指定都市・北九州大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。理事会にて報告を行い、災害にかかわる貴重な情報を共有できた。 ⑤中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動できた。 ⑥指定都市・新潟大会において市P連役員代表が地域防災等を学んだ。 ⑦中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動できた。また、市P連事業でも、ハマ弁試食会を3日間通して開催した。</p>	<p>①安全に関する研修会へ参加等 横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、お弁当コンクールにおいては年を追うごとに参加者も増え、食育に対する興味関心を持っていただけるようになってきた。 市P連会長賞も出しているため、市P連役員も審査員となり、役員自らも食の勉強をしている。 ②日本PTA全国研究大会富山大会において、食の安全・安心についての分科会参加。 ③関東ブロック研究大会千葉大会において、食の安全・安心についての分科会参加。 ④指定都市・広島大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。 ⑤中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動を行っている。当日注文可能になることなど、より良い改善が進んでいる。</p>	<p>①安全に関する研修会へ参加等 横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、お弁当コンクールにおいては年を追うごとに参加者も増え、食育に対する興味関心を持っていただけるようになってきた。 市P連会長賞も出しているため、市P連役員も審査員となり、役員自らも食の勉強をしている。今年度のテーマは、免疫力アップ。 審査も感染対策をして実施予定。 ②日本PTA全国研究大会北九州大会において、分科会オンライン参加予定。 各大会ごとに視点も代わり、勉強になっている。報告書を作成し、各区P連へ配付し、情報共有をしている。 ③関東ブロック研究大会埼玉大会において、2021年度は、横浜市より、子ども達の安全・安心に関する取り組みについて発表予定。 ④指定都市・広島大会において市P連役員代表がいじめについて学ぶ。 ⑤中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。より良い改善が進んでいる。 ⑥新型コロナウイルス感染防止対策に伴う事業も引き続き行う。</p>	<p>①安全に関する研修会へ参加等 横浜のこどもお弁当コンクールの後援と周知を行い、食育に対する興味関心を高める。また、同コンクールでは、市P連会長賞を出すほか、当役員が審査員となることにより役員自らの食の学びにつながる。 ②日本PTA全国研究大会山形大会に参加し、健康や安全をはじめとした学びを深める。また、報告書を作成し、各区P連へ配付し、情報共有を行う。 ③関東ブロック研究大会山梨大会に参加し、健康や安全をはじめとした学びを深める。また、報告書を作成し、各区P連へ配付し、情報共有を行う。また、同大会では横浜市からの発表を予定している。 ④指定都市・さいたま大会において、家庭教育をはじめとするテーマについて、各都市PTAの取り組みを相互に紹介し、学びを深める。 ⑤中学校昼食についての最新情報を横浜市教育委員会より情報提供していただき、また、保護者としての意見を提供する。 ⑥新型コロナウイルス感染防止対策として、各種会議や事業において基本的感染対策の実施に務める。</p>	2023年度
健康横浜	B	B	B	B		

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり					
関連する指標					
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合③20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合④20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続					
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	③男性46.8%、女性41.7% ④全体24.6%、男性27.1%、 女性21.7%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③男性41.7、女性30.8% ④全体24.3%、男性26.7%、女性21.4%	①100%②350g・8g/80% ③50%④全体34%、男性35%、女性33%	①100%②350g・8g/80%③歩数の平均が男性9,000歩、女性8,500歩④全体34%、男性36%、女性33%

神奈川産業保健総合支援センター		関連計画	
ライフステージ	□「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」

取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	休養・こころ		
行動目標	睡眠とってしっかり休養		

- 1.事業場の産業保健活動の普及促進を通じた「健康経営の推進」Action2
- 2.事業場における健康診断の事後措置による「糖尿病等の重症化予防」Action3
- 3.快適な職場づくり等による「受動喫煙防止の取組」Action9

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康横浜	<p>平成26年4月から、産業保健を支援する3つの事業(以下の①②③)を一元化して、「産業保健活動総合支援事業」として、事業場の産業保健活動の総合的な支援となった。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者数50人未満の事業場の事業者や労働者を対象に産業保健サービスの提供</p> <p>②産業保健推進センター事業 産業保健スタッフなどを対象に、相談、研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策支援センター事業 産業保健スタッフや事業主を対象に職場のメンタルヘルス対策の支援</p> <p>これらの産業保健事業については関係行政機関、災害防止団体及び事業者団体等と連携し会議、研修及び集会等あらゆる機会を捉えて周知広報を図り、事業場の産業保健活動の支援及び産業保健活動へのニーズ対応する事業の展開に努めた。</p> <p>今後一層の産業保健事業を展開をするため当センターの認知度を向上に努めたい。</p>	<p>産業保健活動総合支援事業として、事業場における産業保健を支援する3つの事業(以下の①②③)に加え、2017年度から、厚生労働省が示した『事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン』に基づき、④の事業に取り組んでいる。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者50人未満の事業者及び労働者を対象とした、産業保健活動の支援</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 産業保健関係者を対象とした、相談、研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 産業保健関係者や労働者を対象とした、職場のメンタルヘルス対策に関する相談や事業場の個別訪問支援</p> <p>④治療と職業生活(仕事)の両立支援事業 治療と仕事の両立支援対策に関する制度の普及促進、労働者と事業場との間の個別調整支援</p>	<p>産業保健活動総合支援事業として、事業場における産業保健を支援するため、次の事業に取り組んでいる。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者50人未満の事業者及び労働者を対象とした、産業保健活動の支援</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 産業保健関係者を対象とした、相談、研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 産業保健関係者や労働者を対象とした、職場のメンタルヘルス対策に関する相談や事業場の個別訪問支援</p> <p>④治療と仕事の両立支援事業 治療と仕事の両立支援対策に関する制度の普及促進、労働者と事業場との間の個別調整支援</p>	<p>産業保健活動総合支援事業として、事業場における産業保健を支援するため、次の事業に取り組んでいる。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者50人未満の事業者及び労働者を対象とした、産業保健活動の支援</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 産業保健関係者を対象とした、相談、Web研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 産業保健関係者や労働者を対象とした、職場のメンタルヘルス対策に関する相談や事業場の個別訪問支援</p> <p>④治療と仕事の両立支援事業 治療と仕事の両立支援対策に関する制度の普及促進、労働者と事業場との間の個別調整支援</p>	<p>産業保健活動総合支援事業として、事業場における産業保健を支援するため、次の事業に取り組んでいる。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者50人未満の事業者及び労働者を対象とした、産業保健活動の支援</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 産業保健関係者を対象とした、相談、Web研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 産業保健関係者や労働者を対象とした、職場のメンタルヘルス対策に関する相談や事業場の個別訪問支援</p> <p>④治療と仕事の両立支援事業 治療と仕事の両立支援対策に関する制度の普及促進、労働者と事業場との間の個別調整支援</p> <p>⑤転倒・腰痛対策(ゼロ災無料出張サービス) 転倒・腰痛災害ゼロを目指す企業へのサポート支援</p>		
	実績	<p>①地域産業保健事業 2,177事業場(相談者28,673人) 訪問支援743件</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 相談949件、実地相談8件 研修268回・セミナー10回</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 個別訪問支援285件</p> <p>④治療と職業生活(仕事)の両立支援事業 相談99件、セミナー4回 個別訪問支援2件、個別調整支援1件 &lt;以上、平成31年1月末現在&gt;</p>	<p>①地域産業保健事業 2,175事業場(相談者29,950人) 訪問支援770件</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 相談1000件、実地相談8件 研修124回・セミナー9回</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 個別訪問支援157件</p> <p>④治療と職業生活(仕事)の両立支援事業 相談179件、セミナー11回 個別訪問支援85件、個別調整支援0件 &lt;令和2年1月末現在&gt;</p>	<p>①地域産業保健事業 2,587事業場(相談者35,259人) 訪問支援241件 (※新型コロナウイルス感染症の影響から戸別訪問を控えた)</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 相談788件、実地相談0件 研修 56回、セミナー 5回</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 個別訪問支援230件</p> <p>④治療と職業生活(仕事)の両立支援事業 相談244件、セミナー0回(コロナのため) 個別訪問支援17件、個別調整支援5件 &lt;令和3年1月末現在&gt;</p>	<p>①地域産業保健事業 3,403事業場(相談者44,342人) 訪問支援231件</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 ・相談1,320件、実地相談 14件 ・研修 165回、セミナー 2回</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 個別訪問支援 316件</p> <p>④治療と職業生活(仕事)の両立支援事業 相談 26件、セミナー 2回(コロナのため) 個別訪問支援 2件、個別調整支援 0件</p> <p>⑤転倒・腰痛対策(ゼロ災無料出張サービス) セミナー 5回 個別訪問支援 12件</p> <p>【コロナ対策】(計画外)研修会開催回数2回)</p> <p>① コロナ禍における熱中症対策研修会</p> <p>② 神奈川県保健医療局コロナ対策本部と共催で研修会を開催 &lt;令和4年3月末実績&gt;</p>		
	達成度	A	B	B	A		

重点取組テーマ					今後のテーマ			
Action2健康経営の推進、Action4子どもの頃からの健康づくり								
関連する指標								
睡眠による休養を十分とれていない者の割合								
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)				最終目標	健康日本21		
男性38.2% 女性34.0%	男性40.2%、女性36.0%				15%	15%		

横浜南労働基準監督署		関連計画		
ライフステージ	□「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」	
取組テーマ	健康アクション			最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業			働き方改革の実現に向け、最重点課題として取り組む。 心の健康づくり計画の策定事業場(50人以上の事業場)の割合を80%以上(2017年:70%)とする。 ストレスチェックの集団分析実施事業場の割合を85%以上(2017年:79.7%)とする。
分野	休養・こころ			
行動目標	睡眠とってしっかり休養			

取組状況・振り返り(2013~2016年度)	取組計画と実績					今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>中間地点</p> <p>・全国労働衛生週間横浜南地区推進大会において、平成25年度「職場のメンタルヘルス対策」(参加者366名)、平成26年度「ロコモティブシンドローム」(参加者487人)、平成27年度「ストレスチェック制度について」(参加者650人)、平成28年度「ストレスチェック制度をいかに健康増進につなげるか」(参加者455人)と近年はストレスチェック制度(平成27年12月1日施行)の啓発を主に行ったところ、平成29年7月末において、ストレスチェック実施率が当署管内は、78.2%(平均74.9%)であったことから少しは啓発の効果があつたと考える。 ・社会福祉施設については、全国的に事業場数が毎年、増加しており、労働災害発生件数も10年で2倍となっている。当署では、横浜市と連携して講習会等を毎年、実施しているが、腰痛等の労働災害発生件数は、横ばい状態である。今後も、事業場数が増加することが見込まれることから、引き続き、横浜市との連携を強化して、腰痛等の労働災害発生防止を推進する必要があると考える。</p>	<p>取組計画</p> <p>働き方改革の推進に向けた労働時間に関する法制度等の理解の促進を図り、長時間労働の抑制及び過重労働による健康障害防止対策を徹底する。また、全国労働衛生週間横浜南地区推進大会等各種会合や個別指導等により、職場におけるメンタルヘルス対策を推進する。</p>	<p>働き方改革関連法が本年4月1日に一部施行となり、2020年4月1日には中小企業における時間外労働の上限規制が適用されることとなることなどから、働き方改革の推進に向けた労働時間に関する法制度等の理解促進を一層図り、長時間労働の抑制及び過重労働による健康障害防止対策を徹底する。また、全国労働衛生週間横浜南地区推進大会等各種会合や個別指導等により、職場におけるメンタルヘルス対策を推進する。</p>	<p>令和2年4月から時間外労働の上限規制が中小企業にも適用されることから、引き続き中小企業における働き方改革の取組を支援する丁寧な対応を行う。 長時間労働の抑制および過重労働による健康障害を防止するため、長時間労働が行われていると考えられる事業場に対する監督指導等を引き続き実施する。 長時間労働やメンタルヘルス不調などにより、健康リスクが高い状況にある労働者を見逃さないようにするため、職場の産業保健活動やメンタルヘルス対策が各事業場で適切に実施されるよう、引き続き周知・指導等を行う。</p>	<p>ウィズコロナ時代に安全で健康に働くことができる職場づくりを目指し、以下について取り組む。 職場における感染防止対策等の推進を図るため、事業者や労働者からの職場での新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る相談に対して丁寧な対応を行うとともに、「取組の5つのポイント」や「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」等を活用し、感染拡大防止にかかわる取組を推進する。 ウィズコロナ時代においても、中小企業が労働時間の短縮等に向けた具体的な取組を行い、働き方改革を実現することができるよう、相談・支援に丁寧に対応する。 感染症対策に関連した業務はもとより、業績の回復に向けた企業活動によっても、長時間労働が発生し、過重労働による健康障害が懸念されること、多くの労働者が平時と異なる勤務環境にあり、メンタルヘルス不調にもより一層留意する必要があることから、長時間労働の抑制および過重労働による健康障害防止対策、メンタルヘルス対策の徹底を図る。</p>	<p>令和6年4月から建設業、自動車運転者等、特定分野の労働者について時間外労働の上限規制が適用されることを踏まえ、建設業、陸上貨物運送事業、道路貨物運送事業を中心に、働き方改革の取組を支援する。 長時間労働の抑制および過重労働による健康障害を防止するため、長時間労働が行われていると考えられる事業場に対する監督指導を引き続き実施する。 職場の産業保健活動やメンタルヘルス対策が適切に実施されるよう、引き続き周知・指導を行う。 ※上記の対策の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に十分配慮する。</p>	
健康横浜	<p>実績</p> <p>平成31年4月1日から順次施行される働き方改革関連法の周知を重点課題とし、関係団体等と連携した集団指導や訪問指導を実施した。また、全国労働衛生週間横浜南地区推進大会等各種会合や個別指導等により、職場におけるメンタルヘルス対策の履行・定着に向けた指導を行った。</p>	<p>令和2年4月1日から中小企業に時間外労働の上限規制が適用されることから、働き方改革関連法の周知を重点課題として、関係団体等と連携した集団指導や訪問指導を実施した。また、第13次労働災害防止推進計画の目標達成を念頭に、全国労働衛生週間横浜南地区推進大会等各種会合や個別指導等により、職場におけるメンタルヘルス対策の履行・定着のための指導を行った。</p>	<p>中小企業における働き方改革の取組を支援するため、相談対応や集団指導等により、丁寧な説明を行った。 長時間労働が行われていると考えられる事業場に対する監督指導等を実施した。 全国労働衛生週間横浜南地区推進大会等各種会合は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、やむを得ず中止となったものが多かったが、感染防止対策を講じながら、工夫して周知・指導等を行った。また、個別指導等についても、感染対策に留意しながら実施した。 【コロナ対策】</p>	<p>事業者や労働者からの、職場での新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る相談に対して丁寧な対応を行うとともに、あらゆる機会を通じて「取組の5つのポイント」や「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」等について周知啓発を行った。 中小企業における働き方改革の取組のに関して、集団指導や相談対応により支援を実施した。 長時間労働が行われていると考えられる事業場に対し、監督指導を行った。 全国労働衛生週間横浜南地区推進大会をはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、中止となる会合等も多かったが、開催できたものについては、感染防止対策を講じながら、長時間労働の抑制および過重労働による健康障害防止対策、メンタルヘルス対策について、周知・指導等を行った。</p>		
達成度	B	B	B	B		

重点取組テーマ					今後のテーマ	
Action2健康経営の推進、Action4子どもの頃からの健康づくり						
関連する指標						
睡眠による休養を十分とれていない者の割合						
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)				最終目標	健康日本21
男性38.2% 女性34.0%	男性40.2%、女性36.0%				15%	15%

相鉄ローゼン(株)		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		バランスよく食べ、野菜たっぷり、塩分少なめの食事提案を通じて、子どもを含めた地域住民の健康づくりの普及啓発の一助を担う。 健康経営で従業員の健康な身体づくりを推進する。 子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じて子供の健康づくりの普及啓発に努める。
分野	食生活		
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績					今後の方向性	
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		2023年度
<p><b>中間地点</b></p> <p>①神奈川県を推進する会とともに食育活動に継続して参画 ・いずみ野マルシェ(相鉄線いずみ野線沿線 環境未来都市構想、地域活性化のため、いずみ野駅前店で地元野菜、惣菜の店頭販売(地産地消)・市内加工品の販売) ・神奈川県が推進する「未病(健康長寿)」に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ・インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。本年も社員の1/4が実施 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で腫瘍マーカー検査を実施。(受診者の約1/3が検査を受診)</p>	<p><b>取組計画</b></p> <p>①神奈川県を推進する会とともに食育活動に継続して参画 ・いずみ野マルシェ(相鉄線いずみ野線沿線 環境未来都市構想、地域活性化のため、いずみ野駅前店で地元野菜、惣菜の店頭販売(地産地消)・市内加工品の販売) ・神奈川県が推進する「未病(健康長寿)」に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ・インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。本年も社員の1/4が実施 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で腫瘍マーカー検査、ピロリ菌検査、PSA検査を実施。対象者の拡大を検討</p>	<p>基本は2018年度を踏襲しますが、健康診断については、希望にあわせ、自己負担による検査項目を追加予定。</p>	<p><b>実績</b></p> <p>食育活動に継続して参画。未病に関する情報発信に協力 従業員健康促進のため、インフルエンザ予防接種の啓蒙、推進。本年も社員の1/3が実施 定期健康診断 健康診断受診対象者の内、希望者に自己負担での腫瘍マーカー、ピロリ菌検査、PSA(前立腺がん)検査を追加実施。</p> <p>【コロナ対策】 上記実施にあたり、お客さまが集中しないように配慮して実施 また、従業員の健康診断は実施期間を例年より遅らせ、分散して期間を延長して実施 ・体温の高い方への案内 ・ソーシャルディスタンス確保の案内 ・および入場制限 ・マスク着用の案内 ・消毒液の店頭設置 ・レジカウンターにシート設置 ・体温計設置 ・CO2測定器設置</p>	<p><b>取組計画と実績</b></p> <p>2021年度</p> <p>①神奈川県を推進する会とともに食育活動に継続して参画 ・健康横浜21「野菜をたべよう」 ・「地産地消」地元を応援 旬野菜のメニュー提案 ・未病(健康長寿) ・時季行事の案内とメニュー提案に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ・インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で採血による腫瘍マーカー検査、ピロリ菌検査、PSA検査を実施。対象者の拡大を検討 ④コロナ感染予防対応 マスク着用・消毒液・飛沫シートの対応</p>	<p>2022年度</p> <p>①神奈川県を推進する会とともに食育活動に継続して参画 ・健康横浜21「野菜をたべよう」 ・「地産地消」地元を応援 旬野菜のメニュー提案 ・未病(健康長寿) ・時季行事の案内とメニュー提案に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ・インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。本年も社員の1/5が実施 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で採血による腫瘍マーカー検査、ピロリ菌検査、PSA検査を実施。対象者の拡大を検討 ④コロナ感染予防対応 マスク着用・消毒液・飛沫シートの対応 ⑤健康経営の推進 ・喫煙状況の調査、対応の推進</p>	<p>2023年度</p>	<p>達成度</p> <p>B</p>

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action2健康経営の推進、Action4子どもの頃からの健康づくり					
関連する指標					
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合 ③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合					
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③76.9%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

JA横浜	関連計画		
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」

取組テーマ	健康アクション	最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	めざせ！健康寿命100歳講座の継続によって組合員、地域住民の健康づくりの一助を担う。組合員の検診受診率の向上をめざす。子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じて子供の健康づくりの普及啓発に努める。
分野	食生活	
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績					今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p><b>中間地点</b></p> <p>・24年度から実施している「健康寿命100講座」は内容や開催会場を検討した結果、地域住民に定着した事業となり25年度から28年度までの参加人数は766名となった。</p> <p>・会場の工夫:当初は同会場で6回の内容で開催していたが4年目からは3会場としたところ参加人数が大きく増加した。</p> <p>・内容の工夫:当初、500円の受講料で外部講師による講座を午後から行っていたが28年度より500円受講料で地産地消弁当付き講座とした。講師は、キャラバンメイト資格取得者のJA職員がつとめ映像を使用した認知症予防の「脳活レクリエーション」に変更した。結果、座学が中心の講座となり1回の定員も50名と増加し毎回定員を大きく超える申し込みがある。</p> <p>・今後も毎回実施しているアンケートを参考に地域住民を対象とした講座を開催していく。</p>	<p><b>取組計画</b></p> <p>28年度より内容をリニューアルし、『めざせ！健康寿命100歳～農協DE脳強～』と題して開催。地域住民の概ね60歳以上の元気な方を対象に実施している。</p> <p>・より多くの方に参加頂けるようJA横浜管内50店舗ある支店を持ち回り、6会場で(年6回)開催している。29年度参加人数は327名と1回の定員50名を上回る参加人数であった。</p> <p>・29年度までは参加費500円で地産地消弁当付き講座としていたが、30年度より800円に参加費を値上げて開催している。</p> <p>・今後もアンケートを参考に、喜ばれる講座を開催していく。</p>	<p>・今年度より、開催方法を変更し、健康寿命の伸長を目的に「健康づくりサポート教室」と題して開催を予定している。</p> <p>・昨年まで実施していた、『めざせ！健康寿命100歳～農協DE脳強～』や「認知症サポーター養成講座」他、JA厚生連医師・保健師による健康講話等を希望店舗(最大6店舗)が選択できる方法としている。</p> <p>・身近な店舗で開催することで、より参加しやすく、組合員や地域住民の健康づくりの一助を担うよう実施していく。</p> <p>・子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じた子供の健康づくりの普及啓発としては、年代別に収穫体験等実施している。</p> <p>・未就学児(親子)はジャガイモの食べ比べ、小学生は「あぐり塾」の開校し、種まきから収穫までを体験。高校、大学生、教員向けに収穫体験や料理教室を開催している。</p> <p>・また、食育フォーラムの繋がりによって、昨年度より「横浜総合高校」にて青壮年部による栽培指導、収穫体験等を実施し、今年度も引き続き実施している。年2回夏・冬野菜の栽培から収穫までを指導。</p>	<p>・健康づくりサポート教室は、『めざせ！健康寿命100歳～農協DE脳強～』や認知症サポーター養成講座他、JA厚生連医師・保健師による健康講話等の情報提供に留めた。</p> <p>・子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じた子供の健康づくりの普及啓発として各種イベント実施する。</p> <p>①親子農業体験「あぐり塾」(植えて育てて収穫体験) ②いちご収穫体験「あぐり塾」(いちごの収穫体験と農家のお話) ③小学校稲作栽培指導(小学校田んぼで、田植え・稲刈り指導) ④小学校出前授業(横浜農業と地産地消の授業) ⑤料理教室(横浜農畜産物を使用した料理教室)</p>	<p>・今年度は、現役世代層の健康、未病予防をテーマに健康維持に対する意識向上を図ることを目的に計画をしている。また、実践することにより体力づくりの強化をめざした講座内容を計画。実施は10～11月頃を予定していたが、コロナ禍により、延期として1～3月にかけて全3回コースを2会場で開催を予定している。近年人気の高いウォーキングやヨガを取り入れた講座内容ですすめている。</p> <p>・今年度は、コロナ禍でも自宅で家族が気軽に料理を楽しめるように、JA横浜インスタグラムに料理動画を掲載し、ホームページには「おすすめレシピ」を掲載した。また、例年通り農業に親しみ、食農教育を通じて子どもたちの健康づくりの普及啓発のためのイベントを実施していく。</p> <p>①親子農業体験「あぐり塾」(植えて育てて収穫体験) ②収穫体験「あぐり塾」(8月ブルーベリー収穫、10月・2月みかん狩り(収穫体験と農家のお話)) ③小学校稲作栽培指導(小学校田んぼで、田植え・稲刈り指導) ④小学校出前授業(横浜農業と地産地消の授業) ⑤料理教室(横浜農畜産物を使用した料理教室)</p>	<p>・若年層や担い手農業者を対象に「健康意識向上ステップアップ運動」と称し、JAグループである厚生連施設を利用した生活習慣病健診や人間ドックの受診率向上をめざす運動を実施</p> <p>・高齢者向け・現役世代向けと年代にあった「健康寿命100歳講座」や「健康サポート教室」を開催予定</p> <p>・子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じた子どもの健康づくりの普及啓発として各種イベントを実施予定</p> <p>①親子農業体験「あぐり塾」(植えて育てて収穫体験) ②ブルーベリー収穫体験「あぐり塾」 ③小学校稲作栽培指導(小学校田んぼで田植え、稲刈り指導) ④小学校出前授業(横浜農業と地産地消の授業) ⑤地産地消料理教室(横浜農畜産物を使用した料理教室)</p>	
	<p><b>実績</b></p> <p>6会場実施し参加者158名。脳トレや地産地消弁当など参加者からは大変喜ばれる内容だった。また、開催地区の区役所、地域ケアプラザ等の協力により組合員や地域住民の健康意識を高めることができた。ただし、定員300名のところ申込182名、当日参加158名と52%の参加率であった。</p> <p>・アンケート(ワンコイン)から800円に値上げたことも要因と思われる。</p> <p>・農協DE脳強～はインパクトがあるので、今後開催方法等は検討し引き続き喜ばれる講座を開催していく。</p>	<p>・健康づくりサポート教室を5会場で実施。参加者177名</p> <p>・伊勢原協同病院より理学療法士を講師に迎え、「転ばないでいきいきと暮らす」と題し転倒予防の運動や相模原協同病院医師による「認知症の現状と予防について」講座を実施。認知症サポーター養成講座は、地域ケアプラザに協力いただき他、JA職員が講師を務め実施した。地産地消弁当は参加者から大変喜ばれた。</p> <p>・親子農業体験「あぐり塾」6組18名 ・学生教員向け「あぐり塾」10名 ・小学校稲作栽培指導27校(延べ93回、延べ2,239名) ・幼稚園小学校へ出前授業8校1,049名 ・料理教室延べ67回962名</p> <p>・特に、小学校田んぼは、田植えから稲刈りを子どもたちが行い、脱穀・精米を体験することにより、お米の大切さやご飯を食べる喜びを体感していた。</p>	<p>・健康づくりサポート教室は、新型コロナウイルス感染拡大により、実施できなかった。</p> <p>・食農教育を通じた子どもの健康づくりについては、①、②コロナ禍により中止</p> <p>③小学校25校(延べ77回・延べ2,213名参加) ④小学校1校43名参加 ⑤料理教室延べ21回延べ225名参加</p> <p>・緊急事態宣言が発令されたため、イベントや料理教室は中止とした。</p> <p>代替として親子や家族が自宅で料理を楽しめるように、ホームページに「おすすめレシピ」を9本掲載、またインスタグラムに料理動画を1本掲載した。</p> <p>【コロナ対策】③④は、消毒を行い、マスクを着用のうえソーシャルディスタンスを保って実施。⑤は、会場をアクリル板で仕切り、参加者を半数にし、検温・マスク着用のうえ実施。</p>	<p>・現役世代向け「健康サポート教室」を開催</p> <p>・ヨガ・ウォーキング 2回開催17名参加</p> <p>・コロナ禍でも自宅で気軽に料理を楽しめるよう、JA横浜インスタグラムに料理動画10本掲載。ホームページには「おすすめレシピ」を毎月2本ずつ掲載した。</p> <p>①親子農業体験「あぐり塾」(植えて育てて収穫体験) 17組48名参加 ②収穫体験「あぐり塾」 10/30みかん狩り(収穫体験と農家のお話) 78名参加 ③小学校稲作栽培指導 26校(延べ70回、延べ2,333名参加(小学校田んぼで、田植え・稲刈り指導)) ④小学校出前授業 3回 233名参加(横浜農業と地産地消の授業) ⑤地産地消料理教室 53回 586名参加(横浜農畜産物を使用した料理教室)</p> <p>【コロナ対策】アルコール消毒と検温の実施。屋内実施はマスクを着用のうえソーシャルディスタンスを保って実施。⑤は、会場をアクリル板で仕切り、参加者を半数にして実施。</p>		
	<b>B</b> 実施内容はおおむね計画どおり実施することができた。参加人数が予定より大幅に低く残念な結果となった。	<b>B</b> 実施内容はおおむね計画どおり実施することができた。	<b>C</b> 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言で、イベントが中止となってしまった。実施内容は計画どおり実施することが出来なかった。	<b>B</b> 参加人数を半数にする等、感染対策をとり開催することができた。実施内容は概ね計画どおり実施することができた。		

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり					
関連する指標					
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合					
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③76.9%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%



横浜市食品衛生協会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」 ■「働き・子育て世代」 ■「稔りの世代」		
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		・特定健診の受診率向上の取組方法は、引き続きパンフレットの配布回数を増やし、全国平均並の受診率に届くよう頑張ります。 ・検便事業は、衛生管理計画(ハサップ)の施行により、販売数が増加し、食中毒予防の効果が出ます。 ・受動喫煙の問題は、市内主要駅だけでなく、人の集まる地区は全て喫煙禁止の働きかけを他団体と連動し進めていきます。
分野	健診受診啓発		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績						今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
<b>中間地点</b> 特定健診の受診率向上の取組は、神奈川県食品衛生国民健康保険組合と連動して、業種組合の会合等での議題として取り上げてもらったり、小規模な飲食店等にパンフレットの配布をして啓発している。 検便の事業はインターネットによる安価な販売が定着し始め、市内の飲食店の他、水道事業者等の他業種の方の購入も多くなり食中毒予防等の効果が期待できる。	<b>取組計画</b> ・特定健診の受診率向上の取組は、パンフレットを配布して啓発をしていますが、受診率向上になかなか結びつかず、数字的にアップしているのはまだまだ感じられません。 ・検便事業はネットにより普及しつつあり、また、各区の庁舎の売店で販売したところ、販売数は増加し、食中毒予防の効果が出ています。	・引き続き特定健診の受診率の向上の取組を柱に啓発 ・検便事業も、販売数が増加しているため継続。 ・11月12日 横浜駅東口にて、市内18区食協合同で、ノロウイルス食中毒キャンペーンを開催。	(1) 特定健診受診率向上のための啓発リーフレットの作成 (2) 検便検査の普及のための啓発リーフレットの作成、配布 (3) 業界団体との連携による喫煙ルールの働きかけ (4) 食中毒予防キャンペーンの開催	(1) 特定健診受診率向上のための啓発リーフレットの作成 (2) 検便検査の普及のための啓発リーフレットの作成、配布 (3) 業界団体との連携による喫煙ルールの働きかけ (4) 食中毒予防キャンペーンの開催	(1) 特定健診受診率向上のための啓発リーフレットの作成 (2) 検便検査の普及のための啓発リーフレットの作成、配布 (3) 業界団体との連携による喫煙ルールの働きかけ (4) 食中毒予防キャンペーンの開催		
<b>実績</b> ・特定健診の受診率向上の取組については、昨年度より人間ドッグの無料券等も配布しましたが、受診率が21%と伸びず苦戦している現状です。個人事業主が、健康診断の受診が義務付けられておらず、自身の健康管理をするという意識が薄いため、受診することまでいかないと思っています。 ・検便事業については、販売数は17年度より伸び、定着してきています。	・昨年度より若干ではありますが、特定健診受診率が向上いたしました。 全国的に食品業界は特定健診の受診率が低いのですが、チラシの配布や業種組合ごとの働きかけを行いました。 ・食中毒を未然に防ぐ検便検査実施事業も昨年度より増え食品事業者の自主管理意識の変化が見られます。 ・横浜そごう前広場で「ノロウイルス食中毒用キャンペーン」を開催し、多くの市民(2000人)の皆様へ普及啓発ができました。	集合形式による食中毒予防キャンペーンは新型コロナウイルス拡大防止対策により開催できませんでしたが、会員店舗に協力をお願いして、夏場の食中毒予防リーフレットの配布やポスターの掲示をお願いし、広く市民の皆様へ普及啓発がおこなえました。 ・特定健診受診率も計画策定時の19.7%を2020年度には25.4%となり食品業界の健康管理意識の向上がみられます。 【コロナ対策】 今までイベント等の開催は対面が基本でしたが、コロナたいさくとして様々な取り組みは郵送による啓発かつどうとなりました。	・食中毒予防キャンペーンは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により昨年同様開催できませんでしたが、会員店舗の協力をお願いして、食中毒予防のリーフレットの配布やポスターの掲示、広く市民に食中毒予防の普及啓発を行いました。 ・特定健診受診率は27.6%となり健康意識の向上がみられます。 【コロナ対策】 コロナ対策としてはイベント等の開催は中止または延期としました。				
<b>達成度</b>	B	B	B	B			

重点取組テーマ						今後のテーマ	
Action1 特定健診・がん検診							
関連する指標							
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)							
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)					最終目標	健康日本21
19.7%	21.9%					40.5%	60.0%

横浜市保健活動推進員		関連計画		
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」	
取組テーマ	健康アクション			最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業			第2期健康横浜21の目標に向けて健康福祉局、区福祉保健センターと連携を密にしながら、年度ごとに活動の振り返りと年度目標進捗管理を行い市の目標達成をはかる。
分野	運動	検診受診啓発	健診受診啓発	
行動目標	あと1,000歩歩く/定期的に運動する	定期的にがん検診を受ける	1年に1回特定健診を受ける	

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康横浜	<p>重点取組テーマ「地域の健康づくり」</p> <p>① 横浜健康スタイル事業への協力と推進 *よこはまウォーキングポイント事業 *26年～27年は保健活動推進員の事業への積極的参加に力を入れ、その後も改選ごとに新しく推進員になられた方の参加促進に力を入れ、29年前半には殆どの推進員が事業に参加している。また併せて各種イベントや町内会自治会活動や地区活動の中で推進員が地域住民に積極的に働きかけ、参加促進をはかった。28年以降は、歩くことが少ない高齢者にも働きかけ、歩くことの楽しさを実感してもらい事業に参加していただけるよう力を入れている。 *よこはま健康スタンプラリーについては、保健活動推進員が主催する健康づくり活動団体がこの事業に加わりそこに参加する方にラリーの趣旨を説明しハガキ投函につなげた。 ●当初の目標値はほぼ達成したが、今後は市民の中で事業に参加している人とそうでない人で、健康格差を生じないような方策を講じていくか求められている。</p> <p>② 禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進 *各種イベントにおける受動喫煙防止啓発チラシの配布 *小学校における出前喫煙防止講座の開催 ●神奈川県喫煙防止条例が出来るまでは、区内の飲食店を訪問しての実態調査を行ってきた。この条例施行により市内も禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進が図られるようになってきた。今後は喫煙者を減らすために行政と連携してタバコを吸わない人を増やす支援啓発活動が必要である。</p> <p>③ 特定健診、ガン検診の普及啓発 *「市、区の保健活動推進会だより」に特定健診、ガン検診の記事を掲載し、市民に読んでもらうことで普及啓発をはかった。 *各種イベントや健康測定会を開催し、その中でマンモモデルを用いて乳がん自己触診体験を通じた啓発を実施。さらに事業者と連携した特定健診の受診勧奨や各種測定の実施。 ●それでも横浜市の受診率は全国でも最低レベルにあり、さらなる方策を考えていきたい。</p> <p>④ ロコモ対策の推進 *地域のイベントや健康教室などでロコモ測定機器を活用したロコモ啓発を実施し、併せてロコモ予防体操を推進。 *一部の区では行政と連携し「乳幼児健診」時に福祉保健センターに来られる母親を対象に立上がりチェックなどのロコモ度チェックを実施。 ●ロコモというとすぐ高齢者ということが頭に浮かぶが、若い世代の働きかけがより大切である。今後はこれらの世代に対する啓蒙や測定機会を積極的に設ける必要がある。</p> <p>⑤ 認知症の理解と予防 *元気づくりステーション事業や筋トレグループとの連携など日々の活動を通じた認知症の理解や予防啓発を行った ●今後は認知症にならないための医学的知見にもとづいた予防活動に力を入れていきたい。</p>	<p>活動テーマ</p> <p>【主要テーマ】 「地域の健康づくり」 【サブテーマ】 ・特定健診・がん検診の普及啓発(重点取組テーマ) ・禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進 ・歯科口腔保健の推進(新規取組み) ・ウォーキングポイント事業とスタンプラリー事業への協力と推進 ・禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進 ・ロコモ対策の推進 ・認知症について(理解と予防)</p> <p>*今年度は5つの取組の中で、特定健診・がん検診の啓発活動力を入れ、地域住民に対し、様々な機会を通して普及啓発活動を行い、健診率向上につなげていく。</p>	<p>【主要テーマ】「地域の健康づくり」 【サブテーマ】 ・特定健診・がん検診の普及啓発(重点取組テーマ) ・禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進 ・歯科口腔保健の推進(新規取組) ・ウォーキングポイント事業とスタンプラリー事業への協力と推進 ・ロコモ対策の推進 ・認知症について(理解と予防)</p>	<p>【主要テーマ】「地域の健康づくり」 【サブテーマ】 ・新型コロナウイルス感染症に関する普及啓発(重点取組テーマ) ・特定健診・がん検診の普及啓発 ・禁煙・受動喫煙防止の推進 ・歯科口腔保健の推進 ・ウォーキングポイント事業とスタンプラリー事業への協力と推進 ・ロコモ対策の推進 ・認知症について(理解と予防)</p>	<p>【主要テーマ】「地域の健康づくり」 【サブテーマ】 ・感染症予防に関する普及啓発(重点取組テーマ) ・特定健診・がん検診の普及啓発 ・禁煙・受動喫煙防止の推進 ・歯科口腔保健の推進 ・ウォーキングポイント事業とスタンプラリー事業への協力と推進 ・ロコモ対策の推進 ・認知症について(理解と予防) ・感染症予防と地域活動の両立について(新規)</p>	<p>【主要テーマ】「地域の健康づくり」 【サブテーマ】 ・重症化予防のための特定健診・がん検診の普及啓発(重点取組テーマ) ・ウォーキングポイント事業への協力と推進 ・禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進 ・ロコモ対策の推進 ・認知症について(理解と予防) ・歯科口腔保健の推進 ・感染症予防に関する普及啓発</p>	
	実績	<p>今年度は5つのサブテーマを設けたが、その中で特に特定健診・がん検診の啓発活動に力を入れた。 (1) 連合町内会や町内会、自治会役員会において「今年から特定健診の受診料が無料になった」ことの周知と受診啓発の協力を要請した。 (2) 区民祭りや地区ごとのイベントでは「健康測定会」などを通じて幟を掲げたり、案内チラシを配布し受診を訴えた。 (3) 駅前やスーパーの前などでもポケットティッシュや花の種を配り特定健診やがん検診の啓発活動を行った。</p>	<p>今年度は昨年度の5つのテーマに加え、歯科口腔保健の推進についても新たに取組んだ。 (1) 重点テーマである「特定健診・ガン検診普及啓発」については昨年同様地域住民に対してその必要性や受診料が無料になったことを、ウェットティッシュなどのツールを用いて各種イベントや町内会自治会行事などの場で一層の周知をはかった。 (2) 「歯科口腔保健の推進」については、本年度はまず推進員自らがしっかりと知識を学ぶことから始めようと、区役所の歯科保健師のご指導をいただき講習会や研修会を開催し歯科口腔について体験学習した。</p>	<p>重点取組テーマを新たに「新型コロナウイルス感染症予防に関する普及啓発」と設定した。 市全体研修『新型コロナウイルス感染症について』を開催し、正しい理解と共通認識を持ちそれぞれの区や地区で研修、事業、広報を行った。 第2期健康横浜21に関連した活動としては、回数参加者共に例年より大幅に減少したものの、感染症・手洗い・ウォーキングなどの研修や、各区や各地区、各地域の実情に合わせて工夫し、健康講座、コロナ禍での健康づくりとして体力維持を目的とした『しながら体操』のHP紹介とチラシ配布、ウォーキングなどの事業を行なうことができた。 &lt;研修&gt;市1回 参加239名、区22回 参加834名、地区265回 参加1,738名 &lt;事業&gt;区27回 参加5,904名、地区1,988回 参加39,196名</p> <p>【コロナ対策】 市で開催した全体研修では、参加人数を例年の4分の1以下の人数に絞って開催した。各区や各地区においては活動の際のチェックシートを活用しながら活動別の感染予防対策の徹底を図った。</p>	<p>重点取組テーマを「感染症予防に関する普及啓発」と設定した。 第2期健康横浜21に関連した活動としては、各区や各地区で感染症予防・手洗い・ウォーキングなどの研修、健康講座・ウォーキングなど地域の実情に合わせた事業を行った。研修・事業ともに昨年より多く開催することができた。 &lt;研修&gt;市1回 参加 3,800名(概数) 区 34回 参加 1,358名、地区 316回 参加 1,894名 &lt;事業&gt;区34回 参加 12,614名、地区 3,093回 参加 53,989名</p> <p>【コロナ対策】 各区や各地区での研修・事業・会議などの開催にあたっては、「活動のチェックシート」を有効活用しながら、活動別の感染予防対策の徹底を図った。市の研修では、集合形式の研修を止め、講演DVDを作成し、全地区に配付した。</p>		
達成度	B	B	B	B	B		

重点取組テーマ					今後のテーマ		
Action1 特定健診・がん検診、Action6 よこはま健康スタイル、Action7 地域活動を通じた健康づくり、Action8 ロコモ予防/フレイル・オーラルフレイル							
関連する指標							
① 特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者) ② 20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合 ③ 20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続							
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21	
① 19.7%	② 男性46.8%、女性41.7%	③ 全体24.6%、男性27.1%、女性21.7%	① 21.9%	② 男性41.7%、女性30.8%	③ 全体24.3%、男性26.7%、女性21.4%	① 40.5% ② 50% ③ 全体34%、男性35%、女性33%	① 60% ② 歩数の平均が男性9,000歩、女性8,500歩 ③ 全体34%、男性36%、女性33%

横浜市食生活等改善推進員協議会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」

取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標 ・「育ち・学び(若者)世代」に朝食欠食の改善・食事バランスの大切さを知って貰う。 ・「働き・子育て世代」に食生活の改善・生活習慣病予防の大切さを学んで貰う。 ・「稔りの世代」に低栄養の予防・第3の居場所であるシニアカフェの確立 ・全世代に「野菜摂取量の増加」と「減塩」を推進する。
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	食生活		
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康横浜	・25年度から第2期健康横浜21の推進に即した健康づくり講座を世代別対象に計854回開催した。アンケート結果などから普段の食習慣の振り返りができた、生活習慣を変えようのきっかけとなった等の意見が見られ一定の成果を上げた。 ・おやこの食育教室・生活習慣病予防講座・男性のための料理教室等、内容・対象者を特定した講座を開催する中で、若者の朝食欠食率の改善を重点に置いた活動も行っている。 ・区民まつり・小・中学校・子育てグループ・地域ケアプラザ、地区センター等の食育啓発普及活動に協力し地域に根差した活動を推進した。 ・上記の事業やイベントの参加者及び家庭訪問により味噌汁塩分濃度チェック及び対象別啓発チラシ配布を継続的に行っている。 ・ウォーキング活動については、各区ごとに季節にあったコースや回数を設定し会員・地域住民とともに楽しい活動を常時展開している。	(1) 横浜市委託事業の世代別対象に「育ち・学びの世代」「働き・子育て世代」「稔りの世代」の各区ごとの特性を生かした健康づくり講座を開催 (2) 世代別に取り組む生活習慣病予防のためのスキルアップ事業として「若者世代」には食事の楽しさを、「働き世代」には食習慣の見直しを、「高齢世代」には第3の居場所を！を目標に食生活の問題点の改善を図る。 (3) 「おやこの食育教室」「生涯骨太クッキング」「男性のための料理教室」「やさしい在宅介護教室」などの活動も引き続き展開 (4) 私たち自身も学びながら常に新しい感覚を持って、区民まつり・子育てグループ・地域ケアプラザ等の食育啓発普及活動に協力し、地域に根差した食生活の改善に取り組む (5) ウォーキング活動は、各区ごとに季節にあったコースや回数を設定し会員・地域住民とともに楽しい活動を展開	健康横浜21の目標達成に向け、前年までの取り組みを継続して行い各区が状況に応じた活動を展開していく。 ① 横浜市委託事業での「育ち・学びの世代」「働き・子育て世代」「稔りの世代」などのあらゆる世代への健康づくりの講座の開催。 ② 生活習慣病予防のためのスキルアップ講座でも年代別に取り組む。 子どもの食生活の確立、働き世代への生活習慣病予防、中高齢者世代へは料理講習・フレイル予防や在宅での介護の必要性から普通食からの介護食への展開 ③ 健康増進を目的とした運動習慣の定着化を図るため各区が体操教室やウォーキングを企画実践する。 ④ 区の健康フェアや区民まつりでの啓発活動と地域ケアプラザや地区センター・自治会町内会や諸団体からの依頼事業や協働ですすめる事業等への参画。 以上地域に根差した活動に取り組むため、協議会や各区で講演会・講習会を催し会員の意識向上やスキルアップに努める。	第2期健康横浜21の目標達成に向け今までの取り組みを継続して行う。 ① 横浜市委託事業、世代別啓発活動として「育ち学びの世代」「働き子育て世代」「稔りの世代」への健康づくりの伝達活動を実施する。 ② 幼児・小学生のおやこ・男性へのアプローチ、中高齢者向けのロコモ、フレイル講座、在宅介護講習や若者・働き世代・高齢者世代への生活習慣病予防講座にも取り組む ③ 健康づくりのもう一つの要として運動習慣の定着化を図るため、各区で体操教室やウォーキングの機会を設ける。 ④ 区の健康フェアや区民まつりなどの区のイベントに参画する。地区センターやケアプラザ、自治会町内会、各種団体からの依頼事業に協力する	第2期健康横浜21計画の取り組みテーマを基に各区が地域の特性をふまえ、健康づくりの普及啓発活動を行う。今年度は口腔ケアを實踐し歯と口の健康づくりの推進も行う。まだコロナ感染症の影響があり昨年度の事業形態を基に、より有効な事業の実施に務める。 ① 横浜市委託事業としてあらゆる世代への食を通じた生活習慣の改善や生活習慣病予防と重症化予防につなげる事業を世代別に実施。 ② 食育からメタボ予防、フレイル・介護予防としてライフステージに応じた啓発活動を行う。特に男性料理教室開催で男性の社会参加のきっかけづくりや在宅介護が増加している現状から家庭における食事介護の知識の習得を目的とした事業を実施する。 ③ 地域での協働事業や依頼事業へも積極的に参画する。	第2期健康横浜21の最終評価に入っているおり、各区がそれを踏まえて、健康づくりの普及活動を行う。また、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、昨年度の事業形態で啓発を続ける。 ① 横浜市委託事業として、健康横浜21の最終評価を踏まえ、各区の課題を確認し、乳幼児期～高齢期まであらゆる世代の市民に健康づくりの実践を促す取組を進める。特に働き世代～高齢世代対象にはここ2年間のコロナ禍での在宅勤務や外出自粛が原因での生活習慣病、フレイル等の発症が懸念されることから、市民が健康を自分事と捉えられるよう、行動変容につながる普及啓発活動を行う。 ② 各区の健康フェアや区民まつり等に参画し、より多くの市民への啓発や他団体との交流や、自治会町内会・各種団体からの依頼事業・協働事業にも積極的に取り組む。	
	実績	(1) 横浜市委託事業各世代ごとの健康づくり講座計216回開催 (2) 世代別に取り組む生活習慣病予防のためのスキルアップ事業 計37回開催 若者世代の食生活の実態の一部を知ることが出来、今後の活動の方向性が見えた。 (3) 「おやこの食育教室」をはじめとする日本食生活協会事業を各区ごとの特性を生かした事業を開催した。幼いころからの食育の重要性を実感し、今後の活動に生かしたい。 (4) 私たち自身も常に新しい感覚を持って、区民まつり・健康フェア・地域ケアプラザに協力するなど、地域に根差したきめ細かい食育活動を行なった。 (5) ウォーキング活動は各区ごとに会員・地域住民とともに楽しさを重点に開催した。		コロナ禍で後期からの活動になった。また感染予防のため、従来の集合型での事業実施から健康横浜21の目標により近づくために世代別に資料を作成し会員一人一人が個々に身近な方へ啓発する事業の進め方を取り入れた。区のいろいろなイベントや地区センター・ケアプラザなどの事業の実施見送りにより地域での活動も難しい1年であったが”出来る時に出来る活動を行う”スタンスで会員一人一人が充実した活動が出来た。	健康横浜21計画に基づく乳幼児から高齢期までのあらゆる世代を対象に食生活を通じた健康づくりの普及啓発活動を行うことができた。地域での顔のわかる関係性で身近な対象者へ会員一人一人が情報提供を行い、健康づくりへの行動変容の確認が容易であった。従来の集合型の啓発活動が難しい中、感染予防に努め、密にならない状況で集合型と啓発型の活動様式で各世代の行動目標に沿った取組を進めることができた。今後も、地域に根差したボランティア団体として、より身近な市民への「健康づくりのきっかけづくり」の推進に努めていければよいと思う。【コロナ対策】感染拡大で3ヶ月の活動休止の期間もあったが「できる時にできる活動」を各区が創意工夫し実践した。500人以上の会員が集まる事例報告会は回避し各区の定例会で発表事例を共有した。		
達成度	B	B	B	B			

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり					
関連する指標					
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合 ③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合					
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③76.9%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

(株)神奈川新聞社		関連計画		
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」	
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		新聞のメイン読者層となる中高年齢層に向け、紙面やセミナーで健康・運動情報を発信し、正しい知識を身につけてもらう。	
分野	運動(育ち・学び)	運動(働き・子育て)		運動(稔り)
行動目標	毎日楽しくからだを動かす	定期的に運動する／あと、1000歩歩く		歩く、外出する

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性	
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
健康横浜	<p>・紙面啓発＝28年度からシニア読者層に対応した健康・医療・福祉の専門面「支え合い」「すこやか」面を開設。週1回見開き(火曜日付)で展開中。読者ニーズの高い紙面で、当面、同紙面を維持する。現在のメイン企画は「介護の現場から」で神奈川県内の地域包括ケアシステムについて注目されるモデル事業などを紹介。地域での介護の担い手が紙面を活用し先進事例などを学ぶ資料になるよう働きかけたい。</p> <p>・医療・健康セミナー・催事などでの啓発＝年間に数回、500～1000人規模のセミナー・座談会・関連催事などを実施。本年度はがん制圧月間特集(9月、胃がんの早期発見)や県介護フェア(11月)、メディカルセミナー(2月)など。比較的に大きな催事は参加希望が多いため、抽選による事前申し込み制になっていることから小規模セミナーなどで漏れなくニーズに対応することが課題。</p> <p>・運動催事による啓発＝ウォーク、ランニング、自転車などのイベントの実施。</p> <p>ウォーク…ヨコスカ海道ウォーク(28年度で4回実施。毎回3,000～4000人参加。横浜市民の参加は3割程度)、大棧橋マルシェ(28年度に3回計6日間実施、来場8万人)</p> <p>ランニング…ヨコハマ国際ちびっこ駅伝(28年度までで26回実施、小学中・高学年対象、4,000～5,000人参加、日産スタジアム)</p> <p>自転車…サイクルチャレンジ(28年度までで3回実施、藤沢市)</p> <p>運動催事は既存の取り組みはさらに参加者を増やすように努める。29年度実施の親子ランニングイベント「大さん橋マラソン」(11月、3,000人規模)や自転車を活用したまちづくりシンポ(11月)は着実に実施する。30年実施予定の三浦半島サイクルチャレンジを具体化する。共催する神奈川マラソン、神奈川駅伝は当社が継続するかは要検討。</p>	<p>従来から続く「支え合い」「すこやか」面については、読者ニーズも高いため、引き続き展開していく予定。</p> <p>運動催事「海道ウォーク」「サイクルチャレンジ」「ちびっこ駅伝」についても継続し、2022年度までに横浜市内での「開港ウォーク」の実施へと繋げていく。</p> <p>2021年に開催される「ねんりんピック」に向け、特集を掲載すべく準備中。</p> <p>メディカルセミナー、がん征圧キャンペーン特集など既存のセミナー、啓発特集を継続するほか、医療系の取り組みの回数を増やしていきたい。</p>	<p>5月11日(土)に横浜西区のホールで、がん治療の選択を考える市民公開フォーラムを実施。その模様を6月25日付の神奈川新聞でも1頁にわたり掲載した。今年も年度内に、健康をテーマとした「メディカルセミナー」実施予定。また、「がん征圧月間」である9月には「がん征圧キャンペーン」と銘打った特集紙面4ページを掲載予定。がんを予防、早期発見するための啓発の特集とする予定。</p> <p>健康づくりを専門家がアドバイスする「すこやか」面は月曜日付にて掲載継続中。シニア世代の生活を支える「支え合い」面も火曜日付にて掲載継続中。</p> <p>「ちびっこ駅伝」や「海道ウォーク」は継続実施予定。毎年実施しているティーチングプロと回るプロアマゴルフコンペやサイクルチャレンジについては検討中。</p>	<p>紙面では毎週月曜日、健康に関する「すこやか」面、専門家などによる詳しい情報を載せ、読者への健康啓発を進める。</p> <p>がん征圧月間である9月にはがんの予防、早期発見を啓発する「がん征圧キャンペーン」特集を展開。</p> <p>催事では、20年度も「海道ウォーク」や「サイクルチャレンジ」「ちびっこ駅伝」などの参加型の運動イベントを主催するほか、メディカルセミナーなどの講演会でがんや生活習慣病への予防・早期発見、健診の重要性を伝えていく。</p>	<p>紙面は引き続き、毎週月曜日の「すこやか」面を引き続き展開し、口腔機能維持やリウマチなど健康に関する情報に加え、コロナ禍ならではの健康問題も掲載していくほか、がん征圧月間には特集掲載による啓発を進める。</p> <p>これまで長年続けてきた「海道ウォーク」や「サイクルチャレンジ」「ちびっこ駅伝」などの参加型の運動イベントについては、本年度はコロナ禍のため見合わせ、他の催事も行わない。</p>	<p>コロナ関連の情報は巷に多くあるが、コロナ禍での行動制限やコミュニケーション不足による心身への影響についてはまだまだ啓発が必要と考え、本年度は10月に、精神科医および臨床心理士による講演会を開催。コロナ禍でのメンタルへの影響等について専門的な視点で解説してもらう。オンラインによるセミナーも検討したものの、ネット環境に不慣れな高齢者層へ情報が届かなくなることを憂慮し、リアル開催(状況によっては、リアルとオンラインとのハイブリッド形式)の予定。</p> <p>11月にねんりんピックが県内で行われるため、4～3月までの1年間、毎月シニアの県内アスリートを紹介するとともに、ねんりんピック期間中は、紙面で特集を展開し、シニア世代に運動や健康に関心を持ってもらう。</p>		
	実績	<p>「支え合い」「すこやか」については継続実施した。特に「支え合い」はテーマにもよるが、読者からの反響が必ずと言ってよいほどあった(「●●についてもっと知りたい」など)。「海道ウォーク」「サイクルチャレンジ」「ちびっこ駅伝」も今年も無事実施し、好評を得た。上記の他にも大さん橋では、弊社を含むJVで6月にランニングイベントを開催、老若男女約600人が参加した。がん征圧キャンペーン(9月)特集と、メディカルセミナー(3月6日)では、昨今増えており注目されている乳がんなど女性のがんを取り上げ、検診、早期発見の重要性を啓発した。</p>	<p>健康系のセミナーは、5月に開催したがん治療の選択を考える市民公開フォーラムの他、1月に県総合医療会館にてメディカルセミナーを実施。今年度は医師3名による講演形式としたが、応募者も多く、予想以上に反響も大きかった。</p> <p>紙面では、9月のがん征圧月間にて大腸がんをテーマとした4Pの特集を掲載した他、年間通じ毎週月曜日に「すこやか」面で健康情報の提供、毎週火曜日にシニア向け情報を提供する「支え合い」面を継続掲載中。</p> <p>長年続けてきた「ちびっこ駅伝」「サイクルチャレンジ」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止した。今年度で7回目となるry「海道ウォーク」は開催し約2500人が参加した。</p>	<p>紙面では、毎週月曜日の「すこやか」面の他、「新型コロナウイルス情報」面を臨時に設け、コロナ関連のニュースを毎日詳報した。「がん征圧月間」の9月には肺がんを取り上げ、予防や早期発見について啓発した。「海道ウォーク」「サイクルチャレンジ」「ちびっこ駅伝」などの催事は、コロナ禍のため中止した。メディカルセミナーも集客イベントとしての形では開催しなかった。</p>	<p>紙面では、毎週火曜日付で「暮らし・いきいき」面、歯科口腔分野も含めた健康情報などを発信した。2022年度も継続していく。</p> <p>9月の「がん制圧月間」には、高齢者だけでなく若年層にもがんについて考える機会としてもらうべく、AYA世代に多いがんについて専門家による座談会を行い、「がん制圧キャンペーン」特集として4ページにわたり掲載した。</p>			
	達成度	B	B	B	B			

重点取組テーマ					今後のテーマ		
Action6よこはま健康スタイル							
関連する指標							
①運動やスポーツを週3日以上行う小学5年生の割合②20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合③20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続④65歳以上で1日の歩数が男性7,000歩以上、女性6,000歩以上の者の割合⑤65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続							
策定時値(2009年度)			中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21	
①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①増加傾向②男50%、女50%③全34%、男36%、女33%④男50%、女40%⑤全52%、男58%、女48%	①一②一③全34%、男36%、女33%④一⑤全52%、男58%、女48%

(株)テレビ神奈川		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」 ■「働き・子育て世代」 ■「稔りの世代」		
取組テーマ	健康アクション	最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	報道や各種番組を通じて、健康に対する市民の関心を喚起し、必要な情報を拡散する。またイベントを通して、市民・視聴者とじかに接することで情報ニーズの把握に努める。	
分野	運動(育ち・学び) 運動(働き・子育て) 運動(稔り)		
行動目標	毎日楽しくからだを動かす 定期的に運動する／あと、1000歩歩く 歩く、外出する		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績						今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
<p><b>中間地点</b></p> <p>①25年度から『tvkいきいきマーじゃん教室』を毎年実施。トータル約800名が参加した。マーじゃんを純粋に楽しみ、指と頭を使う「脳トレ」として活用、毎年定員を上回る応募がある。卒業生対象に大会も実施。(後援:横浜市健康福祉局)</p> <p>②開催される『横浜マラソン』に合わせ、当日の生中継(7時間半)とブームアップのためのレギュラー番組を放送。市民の健康とスポーツへの関心を喚起してきた。</p> <p>③大豆100粒運動 年間 : 県内の小中学校を中心に約120校に和食の基本食材である大豆「津久井在来」を配布、栽培・加工方法指導のアドバイス、番組での紹介など、食育活動を支援。</p> <p>④「未病」特別番組の制作と放送。</p> <p>⑤「ニュース」や「ワイド番組」で、市民の関心も高い、様々な健康関連の取材を行い、放送。「健康最前線」といったレギュラーコーナーも実施。</p>	<p><b>取組計画</b></p> <p>①tvkいきいきマーじゃん教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか) ②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ番組の放送 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動 ④「未病」特別番組の制作・放送 ⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送</p>	<p>①tvkいきいきマーじゃん教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか) ②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ番組の放送 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動 ④「未病」特別番組の制作・放送 ⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送</p>	<p>①tvkいきいきマーじゃん教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか) ②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ番組の放送 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動 ④「未病」特別番組の制作・放送 ⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送</p>	<p>①tvkいきいきマーじゃん教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか) ②大豆100粒運動など、食育の啓発活動 ③健康関連番組やコーナーの制作と放送 ※例年行っている「横浜マラソン」「未病特番」の放送は中止となりました。</p>	<p>①tvkいきいきマーじゃん教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか) ②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ広報の放送 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動 ④「未病」特別番組の制作・放送 ⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送</p>		
健康横浜	<p><b>実績</b></p> <p>①tvkいきいきマーじゃん教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか) ②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ番組の放送 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動 ④「未病」特別番組の制作・放送 ⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送</p>	<p>①2019年5月10日～2020年2月24日に開催。延べ参加者総数4,821名。 ②生中継2019年11月10日(日)第一部8:00-11:30第二部13:30-15:30で放送。 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動を実施。 ④2019年12月30日12:00-13:30『My ME-BYO LIFE』 ⑤『News Link』『猫のひたいほどワイド』『tvk NEWSハーバー』等にて放送</p>	<p>①2020年6月15日～2021年4月27日に開催。延べ参加者総数2,332名。 ②大会中止 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動を実施。 ④12/30(水)12:00～13:00『MY ME-BYO LIFE ～コロナを乗り越える！未病のチカラ～』放送 ⑤『News Link』『猫のひたいほどワイド』『tvk NEWSハーバー』等にて放送 【コロナ対策】イベント実施時の検温、パーティションの設置など。</p>	<p>①開催期間 2021年6月～2022年4月 ※8月～9月は緊急事態宣言のため休講。延べ参加人数3,366人 ②大会中止 オンラインマラソンの告知・広報 ③大豆100粒運動など、食育の啓発活動を実施。 ④12/30(水)12:00～13:00『MY ME-BYO LIFE ～コロナを乗り越える！未病のチカラ～』放送 ⑤『News Link』『猫のひたいほどワイド』『tvk NEWSハーバー』等にて放送。コロナ禍のフレイル予防の放送 【コロナ対策】イベント実施時の検温、パーティションの設置などガイドラインに沿って運営</p>			
達成度	B 概ね達成できた	B 概ね達成できた	B 概ね達成できた	B 概ね達成できた			

重点取組テーマ				今後のテーマ			
Action6よこはま健康スタイル							
関連する指標							
①運動やスポーツを週3日以上行う小学5年生の割合②20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合③20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続 ④65歳以上で1日の歩数が男性7,000歩以上、女性6,000歩以上の者の割合⑤65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続							
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標		健康日本21	
①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①増加傾向②男50%、女50%③全34%、男36%、女33%④男50%、女40%⑤全52%、男58%、女48%	①一②一③全34%、男36%、女33%④一⑤全52%、男58%、女48%

横浜市医師会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「移りの世代」
取組テーマ		健康アクション	
■生活習慣の改善 ■生活習慣病の重症化予防		■アクション事業	
分野	健診受診啓発	検診受診啓発	たばこ
行動目標	1年に1回特定健診を受ける	定期的にかん検診を受ける	禁煙にチャレンジ
最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標			
・がん検診受診率のさらなる向上と精度管理の充実			

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康横浜	<p>①各種がん検診受診率向上と精度管理の充実のため、各種がん検診それぞれの協議会において、検診受診率・精度管理等について報告・話し合いが行われた。胃がん内視鏡検診については、精度管理向上のための読影医向けの研修会を開催した。</p> <p>②平成29年度より産婦健診の導入に向け、こども青少年局等と連携し、事業の円滑な実施のため、調整を行った。</p> <p>③全市一斉健康相談事業については、各区において年一回、各区医師会・各区福祉保健センターと協力し、区の催事にあわせて実施するなど、一般市民の健康相談事業を行った。</p> <p>④一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送をおこなった。</p> <p>⑤糖尿病重症化予防事業に対しては、健康福祉局と協力してモデルとして実施をし、平成29年度からの全区実施に向け調整を行った。</p> <p>⑥たばこ対策事業について健康福祉局と協力し、禁煙外来医療機関名簿の作成及び禁煙外来マップを作成、一般市民向けに広報を行った。</p>	<p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実</p> <p>②各種健診事業の円滑な実施</p> <p>③平成30年7月から開始された新生児聴覚検査の円滑な実施</p> <p>④各種予防接種事業の円滑な実施</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業実施(各区年に一度、催事にあわせて実施)</p> <p>⑥市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送</p> <p>⑦「正しい健康知識でますます元気に！」をテーマに市民公開講座を開催</p> <p>⑧糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業について、全区実施に向け各区において調整</p> <p>⑨糖尿病性腎症重症化予防事業への協力</p> <p>⑩特定健診受診率向上モデル事業への協力</p>	<p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実</p> <p>②各種健診事業の円滑な実施</p> <p>③各種母子保健事業の円滑な実施</p> <p>④各種予防接種事業の円滑な実施</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業実施(各区年に一度、催事にあわせて実施)</p> <p>⑥市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送</p> <p>⑦「正しい健康知識でますます元気に！」をテーマに市民公開講座を開催</p> <p>⑧糖尿病性腎症重症化予防事業への協力</p> <p>⑨特定健診受診率向上モデル事業への協力</p>	<p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実</p> <p>②各種健診事業の円滑な実施</p> <p>③各種母子保健事業の円滑な実施</p> <p>④各種予防接種事業の円滑な実施</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業実施(各区年に一度、催事にあわせて実施)</p> <p>⑥市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送</p> <p>⑦市民公開講座の開催(YouTube配信)</p> <p>⑧特定健診受診率向上事業への協力</p> <p>⑨当会の学術・研修部会の医学シリーズ第34集(令和2年9月発行)を踏まえて、学校医・産業界向けのDVDを作成中</p>	<p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実</p> <p>②各種健診事業の円滑な実施</p> <p>③各種母子保健事業の円滑な実施</p> <p>④各種予防接種事業の円滑な実施</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業実施(各区年に一度、催事にあわせて実施)</p> <p>⑥市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送</p> <p>⑦市民公開講座の開催(YouTube配信)</p> <p>⑧特定健診受診率向上事業への協力</p> <p>⑨糖尿病重症化予防事業(多職種連携)への協力及び医師向けの研修会の実施</p> <p>⑩がん治療と仕事の両立支援に関して産業界向けの研修会の企画・実施</p>		
	<p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実のため、医師会内にかん検診ごとの精度管理委員会を設置した。今後、精度管理の向上等に向け協議検討していく。</p> <p>②会員医療機関において各種健診事業を円滑に実施した。</p> <p>③新生児聴覚検査事業について、平成30年7月より円滑に実施できるよう協力した。</p> <p>④会員医療機関において各種予防接種事業を円滑に実施した。</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業については、各区において年一回、各区医師会・各区福祉保健センターと協力し、区の催事にあわせて実施するなど、一般市民の健康相談事業を行った。</p> <p>⑥一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送を行った。</p> <p>⑦「正しい健康知識でますます元気に！」をテーマに市民公開講座を年2回開催し、300名の参加があった。</p> <p>⑧糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業の実施に向け、各区において調整を行った。</p> <p>⑨横浜市国民健康保険特定健診実施医療機関において糖尿病性腎症重症化予防事業への協力を行った。</p> <p>⑩3区において特定健診受診率向上モデル事業への協力を行った。</p>	<p>①会員医療機関において各種がん検診事業を円滑に実施した。また各がん検診毎の精度管理委員会を実施し、精度管理の向上に向けて協議した。</p> <p>②会員医療機関において各種健診事業を円滑に実施した。</p> <p>③会員医療機関において各種母子保健事業を円滑に実施した。</p> <p>④会員医療機関において各種予防接種事業を円滑に実施した。</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業については、各区において年一回、各区医師会・各区福祉保健センターと協力し、区の催事にあわせて実施するなど、一般市民の健康相談事業を行った。</p> <p>⑥一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送を行った。</p> <p>⑦「みなさんの健康常識、それ本当？正しい健康知識でいっまでも元気に！」をテーマに市民公開講座を年2回開催し、250名の参加があった。</p> <p>⑧糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業の実施に向け、各区において調整を行った。</p> <p>⑨特定健診受診率向上について検討を行った。</p> <p>【コロナ対策】 ・ZoomやYouTube配信を利用した事業を検討。</p>	<p>①会員医療機関において各種がん検診事業を円滑に実施した。また各がん検診毎の精度管理委員会を実施し、精度管理の向上に向けて協議した。</p> <p>②会員医療機関において各種健診事業を円滑に実施した。</p> <p>③会員医療機関において各種母子保健事業を円滑に実施した。</p> <p>④会員医療機関において各種予防接種事業を円滑に実施した。</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業については、コロナの影響により3区のみ開催となったが、一般市民の健康相談事業を行った。</p> <p>⑥一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送を行った。</p> <p>⑦市民公開講座は3回YouTube配信にて開催した。</p> <p>⑧特定健診受診率向上について検討を行った。</p> <p>⑨当会の学術・研修部会の医学シリーズ第34集で、「タバコに関する諸問題・最新の知見～TOKYO2020に向けて～」のDVDを作成し、学校医・産業界へ配布を行った。</p> <p>【コロナ対策】</p>	<p>①会員医療機関において各種がん検診事業を円滑に実施した。また各がん検診毎の精度管理委員会を実施し、精度管理の向上に向けて協議した。</p> <p>②会員医療機関において各種健診事業を円滑に実施した。</p> <p>③会員医療機関において各種母子保健事業を円滑に実施した。</p> <p>④会員医療機関において各種予防接種事業を円滑に実施した。</p> <p>⑤全市一斉健康相談事業については、コロナの影響により3区のみ開催となったが、一般市民の健康相談事業を行った。</p> <p>⑥一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送を行った。</p> <p>⑦市民公開講座は3回YouTube配信にて開催した。</p> <p>⑧特定健診受診率向上について検討を行った。</p> <p>⑨当会の学術・研修部会の医学シリーズ第34集で、「タバコに関する諸問題・最新の知見～TOKYO2020に向けて～」のDVDを作成し、学校医・産業界へ配布を行った。</p> <p>【コロナ対策】</p>			
達成度	B	B	B	B	B		

重点取組テーマ				今後のテーマ			
Action1特定健診・がん検診、Action3糖尿病等の重症化予防、Action9受動喫煙防止の取組							
関連する指標							
①胃・肺・大腸がん検診40～69歳の過去1年間②乳がん検診40～69歳の過去2年間③子宮がん検診20～69歳の過去2年間④特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者) ⑤日常生活の中で受動喫煙の機会を有する者の割合⑥未成年と同居する者の喫煙率							
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標		健康日本21	
①胃・男性36.7%女性27.0%/肺・男性23.7%女性18.2%/大腸・男性24.4%女性18.7%	②41.5% ③39.6% ④19.7%	⑤家庭9.9%、職場14.7%、飲食店41.8%、行政機関5.6%、医療機関0.6% ⑥男性29.9%、女性10.5%	①胃・男性52.5%女性33.2%/肺・男性54.9%女性36.4%/大腸・男性49.0%女性35.1%	②45.7% ③46.1% ④21.9%	⑤家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54% ⑥男性31.1%、女性12.2%	①～③50%④40.5%⑤家庭3%、職場0%、飲食店15%、行政機関0%、医療機関0% ⑥減少傾向	①～③50%④60%⑤家庭3%、職場0%、飲食店15%、行政機関0%、医療機関0%⑥-

横浜市歯科医師会 ①		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「移りの世代」

取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針・目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		○目標 乳幼児歯科健康診査事業の受診率の更なる向上、地域格差は是正、第2子以降のう蝕罹患率減少、成長発育を鑑みた歯科口腔保健の推進  ◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業 ・横浜市保育所入所児童歯科健診の質の向上 ・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会開催 ・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 ・歯科保健事業企画運営会議の開催  ○目標 保育歯科医の質の向上、保育所入所児童の歯科・口腔にかかわる情報の蓄積と分析(健診データの活用)、保育所事業にかかわる職種との情報の共有  ◆横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 ・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施  ○目標 市民参加型のイベントとして正しい歯科口腔にかかわる情報発信、多職種協働によるイベント  ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検診の実施 ・横浜市歯周病検診実施医療機関研修会への協力 ・横浜市オーラルケア推進に関する懇談会への参画  ○目標 歯周病検診受診率の向上(目標数値の設定)、検診結果の分析、特定健診との連動(糖尿病のスクリーニング)、歯周病と全身疾患の関連に関する啓発活動の推進  ◆横浜市介護予防事業 ・元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・オーラルフレイル対策 ・治療所で行う口腔機能向上研修会の開催  ○目標 オーラルフレイルの予防ならびに対策の拡充、元気づくりステーションを軸とした啓発活動の推進  ◆生活習慣病重症化予防 ・横浜市国民健康保険保健事業評価・向上委員会への参画 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事にて特定健診受診勧奨ブースの設置 ・横浜市歯科医師会会員診療所に特定健診受診勧奨用ポスター掲示 ・糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業の開始  ○目標 歯科レセプトデータと他データとの比較・分析(KDB以外の方法の確立)、データ分析による疾患の重症化予防のプログラムの作成、データを活用した医療費適正化事業の推進、糖尿病重症化予防への積極的参画、特定健診・保健指導への積極的参画、特定健診受診率向上への協力  ◆横浜市食育関連事業 ・横浜市食育フォーラムへの参画 ○目標 各年代における問題点の抽出と課題への協力、歯科・口腔における食育事業への積極的参画  ◆口腔粘膜疾患啓発事業 ・口腔粘膜疾患にかかわる研修会の実施 ・口腔粘膜疾患の啓発活動 ・事業に関する情報・データ等の共有  ○目標 口腔粘膜疾患の啓発活動の推進、希少がんに対する調査・研究に対する協力、希少がんの早期発見・早期治療のための啓発  ・学童期の食育について 横浜市食育推進計画への参画 ・12歳児の1人平均むし歯の数減少の維持と歯肉炎予防 ・学校歯科健康診断における口腔内発達不全(食べる機能・話す機能・歯列咬合)への取り組み
分野	歯・口腔		
行動目標	しっかりと噛んで食後は歯磨き 定期的な歯のチェック	口から食べるを維持する	

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<b>中間地点</b> ○保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業 ・横浜市保育所入所児童歯科健康診査の実施 ・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会の開催 ・保育所・幼稚園等の職員対象の乳幼児保健研修会の開催 ・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 ○横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催 ・横浜市18区における各区 歯と口の健康週間行事の支援実施 ○横浜市妊婦歯科健康診査事業 ・横浜市妊婦歯科健康診査の実施(横歯会員事務事業の支援) ・横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会開催協力(横歯会員・未入会者対象) ・横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会へ参画 ○乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む) ・乳幼児歯科健診マニュアルの作成・配布(横浜市歯科医師会・鶴見大学小児歯科学講座監修) ・乳幼児健康診査事業研修会の開催 ○オーラルケア推進事業 ・歯周疾患検診の実施 ・横浜市歯周疾患検診実施予定医療機関研修会の開催 (※平成29年より歯周病検診に名称変更) ・横浜市オーラルケアの推進に関する懇談会へ参画 ○横浜市介護予防事業 ・ロコモ予防推進検討会へ参画 ○各地区で実施している歯周病予防教室・食生活等改善推進員事業等の把握 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(各区福祉保健センターにおける事業等の把握を含む) ○各地区で実施している介護予防事業等の把握 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(各区福祉保健センターにおける事業等の把握を含む) ○横浜市食育関連事業 ・横浜市食育プロモーション支援事業への協力(食育フォーラムの開催) ・横浜市食育フォーラムへ参画 ○生活習慣病重症化予防 ・横浜市国民健康保険保健事業検討会への参画 ・横浜市データヘルズ計画にかかわる検討会への参画	◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業 ・横浜市保育所入所児童歯科健診の実施(本会会員に本事業の趣旨等の説明) ・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会開催(10/25)『口腔疾患の予防と口腔機能育に関する研修』対象 公立・私立保育所等に勤務する職員等 ・保育所・幼稚園等の職員対象の乳幼児保健研修会の開催(平成30年度中実施予定) ・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 ◆横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催(6/10)他団体、多職種と連携し『のぼすよ 健康寿命 歯みがきて』実施、3000人強の来場者あり 口腔を通じ健康・食育に関する情報を発信 ・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施 18区と連携し、市民に対するオーラルリテラシーの向上を図る ◆横浜市妊婦歯科健診事業 ・横浜市妊婦歯科健康診査の実施(横歯会員事務事業の支援) 妊婦歯科健診事業受診率向上を目的として市民啓発用ツールの開発 ・横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会開催協力(横歯会員・未入会者対象) ・横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会へ参画 ・妊婦・乳幼児対象 口腔ケア関連動画の作成 ◆乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む) ◆乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む) ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検診の実施 ・横浜市歯周病検診実施医療機関研修会の開催 ・オーラルケア懇談会への参画 ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検診の実施 ・横浜市歯周病検診実施医療機関研修会の開催 ・オーラルケア懇談会への参画 ◆横浜市介護予防事業 ・元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・オーラルフレイル対策 ◆生活習慣病重症化予防 ・特定健診受診率向上に対する協力 ・横浜市食育プロモーション支援事業への協力 平成30年11月18日に食育フォーラムの開催予定 ・横浜市食育フォーラムへ参画 多職種との連携(歯と口の健康週間行事において実施済)した事業展開 ・災害時における口腔ケアの市民公開講座を開催し、児童・生徒たちの日頃の口腔ケアの習慣づけ	◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業 ・横浜市保育所入所児童歯科健診の実施(本会会員に本事業の趣旨等の説明) ・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会開催 ・保育所等の職員対象の乳幼児保健研修会の開催 ・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 ◆横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催 ・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施 18区と連携し、市民に対するオーラルリテラシーの向上を図る ◆横浜市妊婦歯科健診事業 ・横浜市妊婦歯科健康診査の実施(横歯会員事務事業の支援) 妊婦歯科健診事業受診率向上を目的として市民啓発用ツールの開発 ・横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会開催協力(横歯会員・未入会者対象) ・横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会へ参画 ・妊婦・乳幼児対象 口腔ケア関連動画の作成 ◆乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む) ◆乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む) ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検診の実施 ・横浜市歯周病検診実施医療機関研修会の開催 ・オーラルケア懇談会への参画 ◆乳幼児歯科健診内容含む研修会の開催 ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検診の実施 ・横浜市歯周病検診実施医療機関研修会の開催 ・オーラルケア懇談会への参画 ◆横浜市介護予防事業 ・元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・オーラルフレイル対策(市民啓発活動・会員向け研修会の実施、多職種対象勉強会等の開催) ◆横浜市介護予防事業 ・元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・特定健診受診率向上に対する協力 ・横浜市食育関連事業 ・横浜市食育フォーラムへ参画 ◆健康寿命延伸・健康格差是正に関する取組 ・ソーシャルキャピタルと健康寿命延伸に関する研修会ならびに調査事業 ・各種健診データならびにアンケート調査の分析 ・18区における健康格差に関する調査事業 ◆学校歯科保健事業 ・公立小学校・中学校・高等学校における歯科健診・歯科口腔保健活動の実施 ・歯肉炎啓発事業の拡充 ・私立学校における歯科・口腔保健に関わる情報のヒアリング ・生涯を通じた健康の為に「学童期の口腔ケア」をテーマとした講演会 ・歯肉炎予防事業の向上を目的とした歯科衛生士の研修会 ・学校歯科健康診断の際の感染対策の徹底 ・横浜市教育委員会健康教育・食育課との連携	◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業 ・横浜市保育所入所児童歯科健診の実施(本会会員に本事業の趣旨等の説明) ・口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修会開催(公立・私立保育所等に勤務する職員等対象) ・保育所等の職員対象の乳幼児保健研修会の開催 ・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 ◆横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催 ・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施 18区と連携し、市民に対するオーラルリテラシーの向上を図る ◆横浜市妊婦歯科健診事業 ・横浜市妊婦歯科健康診査の実施(横歯会員事務事業の支援) 妊婦歯科健診事業受診率向上を目的として市民啓発用ツールの開発 ・横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会開催協力(横歯会員・未入会者対象) ・横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会へ参画 ・乳幼児期歯科保健啓発HP「教えて！めばえちゃん」の充実 ◆乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む) ◆乳幼児歯科健診マニュアル配布(横浜市歯科医師会会員対象) ◆乳幼児歯科健診内容含む研修会の開催 ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検診の実施 ・横浜市歯周病検診実施医療機関研修会の開催 ・オーラルケア懇談会への参画 ◆横浜市介護予防事業 ・元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・オーラルフレイル対策(市民啓発活動・会員向け研修会の実施・多職種対象勉強会等の開催) ◆生活習慣病重症化予防 ・特定健診受診率向上に対する協力 ・糖尿病・歯周病重症化予防啓発 ◆横浜市食育関連事業 ・横浜市食育フォーラムへ参画 ◆健康寿命延伸・健康格差是正に関する取組 ・ソーシャルキャピタルと健康寿命延伸に関する研修会ならびに調査事業 ・各種健診データならびにアンケート調査の分析 ・18区における健康格差に関する調査事業 ◆産業歯科検診(酸蝕症歯科検診)事業 ・実施希望事業者への実施医療機関紹介 ・実施医療機関への検診資料、保健指導資料配布  ◆学校歯科保健事業 ・公立小学校・中学校・高等学校における歯科健診・歯科口腔保健活動の実施 ・歯肉炎予防事業の推進と歯科衛生士の研修会 ・1人平均むし歯の数減少を目的としたテーマで横浜市学校保健大会での講演を予定 ・口の中のがが予防を目的とした「マウスガード」周知の為の調査を実施予定 ・学校歯科健康診断の際に口腔機能発達不全症への取組を含めた調査票を作成する。	◆乳幼児歯科健康診査事業の受診率の更なる向上、地域格差は是正、第2子以降のう蝕罹患率減少、成長発育を鑑みた歯科口腔保健の推進  ◆横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催 ・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施  ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検診の実施 ・横浜市歯周病検診実施医療機関研修会への協力 ・横浜市オーラルケア推進に関する懇談会への参画  ○目標 歯周病検診受診率の向上(目標数値の設定)、検診結果の分析、特定健診との連動(糖尿病のスクリーニング)、歯周病と全身疾患の関連に関する啓発活動の推進  ◆横浜市介護予防事業 ・元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・オーラルフレイル対策 ・治療所で行う口腔機能向上研修会の開催  ○目標 オーラルフレイルの予防ならびに対策の拡充、元気づくりステーションを軸とした啓発活動の推進  ◆生活習慣病重症化予防 ・横浜市国民健康保険保健事業評価・向上委員会への参画 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事にて特定健診受診勧奨ブースの設置 ・横浜市歯科医師会会員診療所に特定健診受診勧奨用ポスター掲示 ・糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業の開始  ○目標 歯科レセプトデータと他データとの比較・分析(KDB以外の方法の確立)、データ分析による疾患の重症化予防のプログラムの作成、データを活用した医療費適正化事業の推進、糖尿病重症化予防への積極的参画、特定健診・保健指導への積極的参画、特定健診受診率向上への協力  ◆横浜市食育関連事業 ・横浜市食育フォーラムへの参画 ○目標 各年代における問題点の抽出と課題への協力、歯科・口腔における食育事業への積極的参画  ◆口腔粘膜疾患啓発事業 ・口腔粘膜疾患にかかわる研修会の実施 ・口腔粘膜疾患の啓発活動 ・事業に関する情報・データ等の共有  ○目標 口腔粘膜疾患の啓発活動の推進、希少がんに対する調査・研究に対する協力、希少がんの早期発見・早期治療のための啓発  ・学童期の食育について 横浜市食育推進計画への参画 ・12歳児の1人平均むし歯の数減少の維持と歯肉炎予防 ・学校歯科健康診断における口腔内発達不全(食べる機能・話す機能・歯列咬合)への取り組み	

横浜市歯科医師会 ②		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「移り世代」
取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	歯・口腔		
行動目標	しっかりと噛んで食後は歯磨き 定期的に歯のチェック	口から食べるを維持する	

実績	達成度	概要	【コロナ対策】	
<p>◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市保育所入所児童歯科健診の説明(本会会員に本事業の趣旨等の説明) 地区担当者協議会にて説明 開催日時:平成30年9月27日(木)</li> <li>保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会開催 上記名称変更:口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修(公立・私立保育所等に勤務する職員等対象)テーマ:『口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修』開催日時:平成30年10月25日(木)参加者数:40名</li> <li>乳幼児保健研修会の開催(保育所・幼稚園等の職員対象) 開催日時:平成31年2月7日(木)参加者数:128名</li> <li>横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 開催日時:平成30年5月10日(木)参加者数:2名</li> <li>歯科保健事業企画運営会議の開催</li> <li>横浜市歯と口の健康週間事業</li> <li>横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 開催日時:平成30年6月10日(日)参加者数:3,057名 ※延べ人数 他団体、多職種との連携:神奈川県栄養士会・東京ガス・横浜Fマリノス テーマ:『のぼそろう 健康寿命 歯みがきで』口腔を通じ健康・食育に関する情報を発信</li> <li>横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施</li> <li>横浜市妊婦歯科健診事業</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査の実施 受診者数:横歯会員 5,708名 未入会員 2,784名 ※平成31年2月20日現在</li> <li>妊婦歯科健診事業受診率向上を目的とした市民啓発用ツールの開発 妊婦歯科健診受診動奨用ポスター・ストラップの作成 ポスター配布先:横歯会員・横浜市内調剤薬局(横業協力)他 啓発キャラクター『めばえちゃん』</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会への協力 開催日時:①平成30年9月13日(木) ②平成31年2月7日(木) 参加者数:①横歯会員 18名 未入会員 14名 ②横歯会員 16名 未入会員 18名</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会への参画 開催日時:平成30年11月29日(木)</li> <li>乳幼児歯科健診事業</li> <li>乳幼児歯科健診にかかわる現状・対策等情報・データの共有 地区担当者協議会の開催 開催日時:平成30年9月27日(木)</li> <li>乳幼児歯科健診マニュアル配布(横浜市歯科医師会対象 新入会員)</li> <li>乳幼児健診事業研修会の開催(乳幼児の歯牙脱落に関する新たな健診項目説明含む) 開催日時:平成31年2月21日(木)参加者数:69名</li> <li>オーラルケア推進事業</li> <li>歯周病検診の実施 受診者数:1,048名 ※平成31年2月20日現在</li> <li>横浜市歯周病検診実施医療機関研修会への協力 開催日時:平成31年3月7日 出席者数:28名</li> <li>横浜市オーラルケア推進に関する懇談会への参画 開催日時:平成31年3月7日(木)</li> <li>横浜市介護予防事業</li> <li>元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発</li> <li>オーラルフレイル対策</li> <li>診療所で行う口腔機能向上研修会の開催 開催予定日:平成31年3月31日(日)</li> <li>生活習慣病重症化予防</li> <li>横浜市国民健康保険保健事業評価・向上委員会への参画 開催日時:平成31年1月16日(水)</li> <li>横浜市歯と口の健康週間中央行事にて特定健診受診動奨ブースの設置</li> <li>横浜市歯科医師会会員診療所に特定健診受診動奨用ポスター掲示</li> <li>糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業の開始</li> <li>横浜市食育関連事業</li> <li>横浜市食育フォーラムへの参画 開催日時:①平成30年9月11日(火) ②平成31年3月26日(火)</li> <li>口腔粘膜疾患啓発事業 ・口腔粘膜疾患にかかわる研修会の実施 ・口腔粘膜疾患の啓発活動 ・事業に関する情報・データ等の共有</li> <li>口腔がん検診地区担当者協議会 開催予定日:平成30年3月14日</li> <li>横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 平成30年6月10日(日) ガムで噛む力チェックコーナー200名(食育とヘルスプロモーションの観点)</li> <li>歯肉炎予防事業 平成30年6月28日から平成31年1月31日まで155回巡回登録衛生士派遣 小中義務教育学校及び特別支援学校における歯科教育の重要性を考慮し児童生徒に対する歯の大切さ及び口腔内の健康を通じた健康教育の推進を図った。</li> <li>食育フォーラム 平成30年11月18日(日) 参加者179名 内容 小児歯科から子どもの食を考える。学校を進める食育。(学校と家庭の連携を目指して)特別支援学校の食育について、よく噛んで良い姿勢で食べる指導。子供たちの成長・発達を歯科から考える。(学童期の食の課題について)</li> </ul>	B	<p>◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市保育所入所児童歯科健診の説明(本会会員に本事業の趣旨等の説明) 地区担当者協議会にて説明 開催日時:令和元年11月7日(木)</li> <li>口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修(公立・私立保育所等に勤務する職員等対象)テーマ:『口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修』開催日時:令和元年8月22日(木)参加者数:41名</li> <li>乳幼児保健研修会の開催(保育所・幼稚園等の職員対象) 開催日時:令和2年1月23日(木)参加者数:95名</li> <li>横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 開催日時:令和元年5月16日(木)参加者数:5名</li> <li>歯科保健事業企画運営会議の開催</li> <li>横浜市歯と口の健康週間事業</li> <li>横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 開催日時:令和元年6月9日(日)参加者数:3,448名 ※延べ人数 他団体、多職種との連携:神奈川県栄養士会・横浜Fマリノス テーマ:『いっまでも 続けけんこう 歯の力』口腔を通じ健康・食育に関する情報を発信</li> <li>横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施</li> <li>横浜市妊婦歯科健診事業</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査の実施 受診者数:横歯会員 6,960名 未入会員 3,365名 ※平成31年4月1日～令和2年3月31日</li> <li>妊婦歯科健診事業受診率向上を目的とした市民啓発用ツールの開発 妊婦歯科健診受診動奨用ポスター・ストラップの作成 ポスター配布先:横歯会員・横浜市内調剤薬局(横業協力)他 啓発キャラクター『めばえちゃん』の周知</li> <li>乳幼児歯科保健啓発HP「教えて!めばえちゃん」開設</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会への協力 開催日時:①令和元年9月5日(木) ②令和2年2月6日(木) 参加者数:①横歯会員 9名 未入会員 13名 ②横歯会員 8名 未入会員 11名</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会への参画 開催日時:平成30年11月29日(木)</li> <li>妊娠期からの母子歯科口腔保健の推進に関する連携協定を締結</li> <li>乳幼児歯科健診事業</li> <li>乳幼児歯科健診にかかわる現状・対策等情報・データの共有 地区担当者協議会の開催 開催日時:令和元年11月7日(木)</li> <li>乳幼児歯科健診マニュアル配布(横浜市歯科医師会対象 新入会員)</li> <li>オーラルケア推進事業</li> <li>歯周病検診の実施 受診者数:1,471名 ※平成31年4月1日～令和2年3月31日</li> <li>横浜市歯周病検診実施医療機関研修会への協力 ※書面開催にて実施 出席者数:26名</li> <li>横浜市オーラルケア推進に関する懇談会への参画 開催日時:中止</li> <li>横浜市介護予防事業</li> <li>オーラルフレイル対策</li> <li>地区担当者決定</li> <li>診療所で行う口腔機能向上研修会の開催 開催日:中止</li> <li>生活習慣病重症化予防</li> <li>横浜市国民健康保険保健事業評価・向上委員会への参画 開催日時:①令和元年7月29日(月) ②令和2年1月22日(水)</li> <li>横浜市歯と口の健康週間中央行事にて特定健診受診動奨ブースの設置</li> <li>横浜市歯科医師会会員診療所に特定健診受診動奨用ポスター掲示</li> <li>糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業の開始</li> <li>横浜市食育関連事業</li> <li>横浜市食育フォーラムへの参画 開催日時:①令和元年11月13日(水)</li> <li>口腔粘膜疾患啓発事業 ・口腔粘膜疾患にかかわる研修会の実施 ・口腔粘膜疾患の啓発活動 ・事業に関する情報・データ等の共有</li> <li>口腔がん検診地区担当者協議会 ※2019年度開催なし</li> <li>産業歯科検診(酸蝕症歯科検診)事業</li> <li>実施希望事業者への実施医療機関紹介</li> <li>実施医療機関への検診資料、保健指導資料配布</li> </ul>	<p>◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市保育所入所児童歯科健診の説明(本会会員に本事業の趣旨等の説明) 地区担当者協議会にて説明 開催日時:令和3年3月17日(木)</li> <li>口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修(公立・私立保育所等に勤務する職員等対象)テーマ『口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修』開催日時:令和2年10月15日(木)参加者数:33名</li> <li>乳幼児保健研修会の開催(保育所・幼稚園等の職員対象) 開催日時:令和3年2月18日(木)参加者数:86名(オンライン)</li> <li>横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 開催日時:令和2年4月8日(木)参加者数:22名(オンライン)</li> <li>歯科保健事業企画運営会議の参画(書面開催)</li> <li>新型コロナウイルス感染症に対する情報発信</li> <li>横浜市歯と口の健康週間事業</li> <li>横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 開催日時:中止</li> <li>横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施</li> <li>横浜市妊婦歯科健診事業</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査の実施 受診者数:横歯会員 6,760名 未入会員 2,988名 ※令和2年4月1日～令和3年3月31日</li> <li>妊娠期からの母子歯科口腔保健の推進に関する連携協定」に対する取り組み</li> <li>妊婦歯科健診事業受診率向上を目的とした市民啓発用ツールの開発 妊婦歯科健診受診動奨用ポスター・ストラップの作成 ポスター配布先:横歯会員・横浜市内調剤薬局(横業協力)他 啓発キャラクター『めばえちゃん』の周知</li> <li>乳幼児期歯科保健啓発HP「教えて!めばえちゃん」更新</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会への協力 開催日時:①令和2年9月10日(木) ②令和3年2月25日(木) 参加者数:①横歯会員 21名 未入会員 17名 ②横歯会員 5名 未入会員 5名</li> <li>新型コロナウイルス感染症に対する情報発信</li> <li>横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会への参画 開催日時:令和2年11月26日(木)</li> <li>乳幼児歯科健診事業</li> <li>乳幼児歯科健診にかかわる現状・対策等情報・データの共有 地区担当者協議会の開催 開催日時:令和3年3月17日(木)</li> <li>乳幼児歯科健診マニュアル配布(横浜市歯科医師会対象 新入会員)</li> <li>個別乳幼児健康診査事業(特例措置)の実施 受診者数:1歳6ヶ月児 5,852名 3歳児 5,127名 ※令和2年5月27日～令和3年3月31日</li> <li>個別乳幼児健康診査事業(特例措置)に対する対応 オンライン研修会開催 実施医療機関募集</li> <li>新型コロナウイルス感染症に対する情報発信</li> <li>オーラルケア推進事業</li> <li>歯周病検診の実施 受診者数:1,326名 ※令和2年4月1日～令和3年3月31日</li> <li>横浜市歯周病検診実施医療機関研修会への協力 開催日時:令和3年3月6日 出席者数:24名(オンライン)</li> <li>横浜市オーラルケア推進に関する懇談会への参画 開催日時:中止</li> <li>新型コロナウイルス感染症に対する情報発信</li> <li>横浜市介護予防事業</li> <li>オーラルフレイル対策</li> <li>各区で行う研修会資料作成・配布</li> <li>診療所で行う口腔機能向上研修会の開催 開催日時:令和3年3月7日(日)参加者数:71名</li> <li>生活習慣病重症化予防</li> <li>横浜市国民健康保険保健事業評価・向上委員会への参画 開催日時:令和2年7月30日(木)</li> <li>横浜市歯と口の健康週間中央行事にて特定健診受診動奨ブースの設置</li> <li>横浜市歯科医師会会員診療所に特定健診受診動奨用ポスター掲示</li> <li>糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医科歯科連携事業の開始</li> <li>横浜市食育関連事業</li> <li>横浜市食育フォーラムへの参画 開催日時:①令和2年10月5日(月) ②令和3年3月25日(木)</li> <li>口腔粘膜疾患啓発事業 ・口腔粘膜疾患にかかわる研修会の実施 ・口腔粘膜疾患の啓発活動 ・事業に関する情報・データ等の共有</li> <li>口腔がん検診地区担当者協議会 開催日時:令和2年11月11日(水)</li> <li>口腔粘膜疾患等の診断に関する人材育成研修会 開催日時:令和3年1月17日(日)参加者数:64名(オンライン)</li> <li>産業歯科検診(酸蝕症歯科検診)事業</li> <li>実施希望事業者への実施医療機関紹介</li> <li>実施医療機関への検診資料、保健指導資料配布</li> <li>学校歯科保健関連事業</li> <li>歯肉炎予防事業の歯科衛生士の研修会は新型コロナの影響で、児童生徒一人一人の歯みがきチェックは実施せずクラスごとの授業を実施した。</li> <li>歯肉炎予防事業の実績は2019年度巡回回数227に対して新型コロナの影響で151校と減少した。</li> <li>横浜市立の小、中、義務教育学校、高等学校、特別支援学校で歯科健康診断が原因での新型コロナの感染例はなかった。</li> <li>小学校6年生の1人平均むし歯の本数が2019年度0.30本から0.35本へ10年ぶりに上昇した</li> </ul>	<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児歯科健康診査事業の受診率の更なる向上、地域格差の是正、第2子以降のう蝕罹患率減少、成長発育を鑑みた歯科口腔保健の推進</li> <li>保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る健診、研修会等事業の実施 4月8日 10月28日 2月24日 実施</li> <li>乳幼児歯科健診、研修会等事業の実施、個別乳幼児健診の実施 オンライン講座実施</li> <li>横浜市歯と口の健康週間事業の実施 17回実施</li> <li>横浜市妊婦歯科健診事業の実施</li> <li>市民参加型のイベントとして正しい歯科口腔にかかわる情報発信、多職種協働によるイベント</li> <li>横浜市歯と口の健康週間事業の実施 17回実施</li> <li>歯科保健指導型ホームおえん!教えて、めばえちゃん!更新</li> <li>歯周病検診受診率の向上(目標数値の設定)、歯周病と全身疾患の関連に関する啓発活動の推進</li> <li>オーラルケア推進事業(歯周病検診、研修会等)の実施 研修会3月3日実施 検診実施医療機関増加</li> <li>オーラルフレイルの予防ならびに対策の拡充、元気づくりステーションを軸とした啓発活動の推進</li> <li>横浜市介護予防事業</li> <li>元気づくりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発</li> <li>オーラルフレイル対策(市民啓発活動・会員向け研修会の実施)3月13日実施</li> <li>生活習慣病重症化予防:特定健診受診率向上に対する協力や糖尿病・歯周病重症化予防啓発</li> <li>横浜市食育フォーラムへ参画</li> <li>健康寿命延伸・健康格差是正に関する取組</li> <li>12歳児1人平均むし歯は過去最少(0.29本)を達成した。</li> </ul>

重点取組テーマ		今後のテーマ	
Action8ロコモ予防/フレイル・オーラルフレイル			
関連する指標			
①3歳児でむし歯のない者の割合②12歳児の1人平均むし歯数③40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合④過去1年間に歯科健診を受けた者の割合⑤60歳代でなんでも噛んで食べることのできる者の割合⑥80歳代で20歯以上自分の歯を有する者の割合			
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)	最終目標	健康日本21
①83.9%②0.55歯 ③21% ④男性42.5%、女性54.2%	①87.5%②0.4歯 ③26.6% ④男性45.2%、女性56.0%	⑤76.9%⑥47.3%	①90%②維持・減少③維持・減少④85%⑤80%⑥50% ①-②-③25% ④85%⑤80%⑥50%



横浜市薬剤師会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		・横浜市禁煙支援薬局数を200薬局へ増加する。 ・学校薬剤師による未成年の喫煙防止教育の推進 ・禁煙外来医療機関との連携を深め、禁煙外来受診率を増加させる。 ・薬草探索健康ウォーキングの参加人数を増やし、健康づくりを実践するきっかけを提供する。
分野	たばこ		
行動目標	禁煙にチャレンジ		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績					今後の方向性	
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
<b>中間地点</b> ①横浜市禁煙支援薬局事業を平成22年度より開始し、延2200名の相談が有りましたが、ここ数年は100名/年の相談に留まっています。支援登録薬局は28年度155店舗。今後、禁煙相談やOTC医薬品の禁煙補助剤の販売などセルフメディケーションをサポートする役割を担っていきます。また、COPDの認知度を高める啓発についても取り組んでいきます。 ②薬草探索健康ウォーキング事業を平成27年度から2回開催して、計100名が参加。毎回参加希望者が多いのですが、80代以降もいることから安全性から定員50名で実施しています。 ③「薬物乱用防止キャンペーン」事業の啓発イベント会場において、禁煙支援相談や肺年齢測定等の実施(28年度52件) ④学校薬剤師による小学校・中学校での薬物乱用防止教育やお薬適正使用教育の実施。「薬物乱用防止教育横浜型プログラム」を教育委員会と共同作成し学校での授業を行いました。 ⑤各区の健康まつりや区民まつりにおいてお薬相談や禁煙支援相談等の実施(27年度:お薬の相談は18区で開催、禁煙相談は9区鶴見,中,南,旭,磯子,金沢,青葉,戸塚,泉区。28年度:お薬の相談は17区で開催(泉区以外)、禁煙相談は6区神奈川,南,旭,磯子,戸塚,瀬谷区で開催) ⑥区福祉保健センターや横浜シニア大学と連携し、高齢者のお薬適正使用についての講演を実施。(各18区で受講者や関係に高齢者のお薬適正使用の資料を835部配布) ⑦「よこはまウォーキングポイント」への参加と広報(会報などに参加と市民に向けての資料を薬局内で掲示)	<b>取組計画</b> 1)横浜市禁煙支援事業研修会の開催 研修会参加人数:169名 禁煙支援薬局認定数:144薬局 2)各区健康まつりの薬剤師会ブースにて、禁煙相談、一酸化炭素濃度測定、リーフレットの配布 3)学校薬剤師による小・中学生の飲酒、喫煙防止及び、薬物乱用防止教室の実施 4)各区行政が実施している禁煙支援事業の広報、チラシの配布 5)薬草探索健康ウォーキング横浜の開催	<b>実績</b> 1)横浜市禁煙支援事業研修会の開催 研修会参加人数:169名 禁煙支援薬局認定数:144薬局 相談報告件数:286件 2)各区健康まつりの活動 港北・緑・戸塚・栄・瀬谷・西・南・旭区の8区にて、禁煙相談、肺年齢相談、呼吸CO濃度測定、血管年齢測定を実施 その他の区においても、おくすり相談、リーフレット配布、セルフメディケーションの推進活動において実施 3)学校薬剤師による小・中学生の飲酒、喫煙防止及び、薬物乱用防止教室の実施 小中学校全511校のうち、約180校で講演を実施した。 4)全18区薬剤師会へ今後の活動資料として行政が行う禁煙支援事業を情報提供した。 5)薬草探索健康ウォーキング横浜の開催 2018年11月3日 戸塚区舞岡公園にて開催 参加者48名	1)横浜市禁煙支援、受動喫煙防止事業 横浜市禁煙支援薬局認定研修会の開催 禁煙外来への受診動員 各薬局における禁煙相談、受動喫煙防止啓発 2)健康ウォーキング事業 薬草探索健康ウォーキング横浜の開催 3)学校保健事業 学校薬剤師研修会の開催 小中学校における飲酒、喫煙防止、薬物乱用防止教室などの開催 4)各区役所における、おくすり相談、禁煙相談、健康相談などの開催 5)学校薬剤師による小学校・中学校・高等学校における飲酒・喫煙防止及び、薬物乱用防止教室の開催	1)横浜市禁煙支援、受動喫煙防止事業 横浜市禁煙支援薬局認定研修会の開催 禁煙外来への受診動員 各薬局における禁煙相談、受動喫煙防止啓発 2)健康ウォーキング事業 薬草探索健康ウォーキング横浜の開催 3)生活習慣病重症化予防 糖尿病・歯周病重症化予防啓発に対する協力 特定健診受診率向上への協力 4)各区役所における、おくすり相談、禁煙相談、健康相談などの開催	1)横浜市禁煙支援、受動喫煙防止事業 横浜市禁煙支援薬局事業研修会の開催 横浜市禁煙支援薬局事業ビデオ研修会の開催 ⇒研修会受講者199名、令和3年度禁煙支援認定薬局166薬局 禁煙相談実施報告数302件 2)運動:健康ウォーキング事業 薬草探索健康ウォーキングの開催(10/31) 湘南台駅～横浜薬科大までの約4Kmのコースを薬草の説明を交えてウォーキングしました。 3)特定健診:糖尿病重症化予防事業 モデル区(港北区・青葉区)における多職種連携会議の開催 会員薬局よりチラシ配布による広報、受診動員	1)横浜市禁煙支援、受動喫煙防止事業 横浜市禁煙支援薬局認定研修会の開催 禁煙外来への受診動員 各薬局における禁煙相談、受動喫煙防止啓発 2)健康ウォーキング事業 薬草探索健康ウォーキング横浜の開催 3)生活習慣病重症化予防 糖尿病・歯周病重症化予防啓発に対する協力 がん検診・特定健診受診率向上への協力 歯科口腔保健推進事業への協力 4)各区役所における、おくすり相談、禁煙相談、健康相談などの開催	B B C (コロナ禍の影響でおおむね中止となり達成度をC) B

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action9受動喫煙防止の取組					
関連する指標					
①成人の喫煙率②COPDの認知率③日常生活の中で受動喫煙の機会を有する者の割合④未成年と同居する者の喫煙率					
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21
①20.0% ②男性33.3% 女性41.0%	③家庭9.9%、職場14.7%、飲食店41.8%、行政機関5.6%、医療機関0.6%	④男性29.9%、女性10.5%	①19.7% ②男性33.8% 女性38.9%	③家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54%	④男性31.1%、女性12.2%
				①12%②80%③家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54%	④男性31.1%、女性12.2%

(公社)神奈川県栄養士会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」

取組テーマ	健康アクション	最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	
分野	食生活	
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	・「育ち・学びの世代」: 食物や栄養に関心を持ち、きちんと食べて健康で元気な身体になろうとする人を増やす ・「働き・子育て世代」: 野菜を食べることや塩分摂取について意識し、バランスよく食べる人を増やす ・「総りの世代」: しっかり口から食べて、食を楽しむ実践に取り組む人を増やす

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績					今後の方向性
中間地点	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>&lt;横浜県民活動事業部の取組&gt;</p> <p>■「育ち・学びの世代」に向けての取組 かながわ食育フェスタに継続参加し、食育クイズやゲームを通して親子で楽しく学べる食育活動を展開している 平成25年度来場者2800名 平成26年300名 平成27年300名 平成28年408名 総計3808名</p> <p>■「働き・子育て世代」に向けての取組 健康チャレンジフェアかながわ・展示ブースではレシピ配布や妻の使い方の指導、栄養相談を行い健康情報を提供している 平成25年110名 平成26年126名 平成27年150名 平成28年252名 総計638名</p> <p>けんぼde健康 健康応援フェア・特定保健指導の「栄養講話」を担当し、生活習慣を見直す機会とした 平成25年90名 平成27年160名 平成28年130名 総計380名</p> <p>■「総りの世代」に向けての取組 シニア料理教室開催・会員が講師となり健康寿命延伸に必要な介護予防の食生活について講話と調理実習を年間2回継続開催している 平成26年65名 平成27年56名 平成28年53名 総計174名 男性の参加者もあり、実践的具体的な取組、今後は地域の支え合いとしての役割も考えたい</p> <p>■すべてのライフステージに向けた取組 市民公開講座、市民活動フェア、青葉区健康フェアにおいて食生活相談、栄養相談を実施し、栄養士の紹介、アドバイスをし、食を通じた健康づくりへの関心を深めた</p> <p>青葉区健康フェア 平成25年200名 平成26年289名 平成27年362名 平成28年517名と年々増加し周知されている 市民活動フェア 平成25年20名 平成27年56名 平成28年度56名 栄養相談の件数も増えていることから気軽に食生活の相談が受けられる拠点が必要と考える</p>	<p>取組計画</p> <p>(1)「育ち・学びの世代」に向けて: 食育事業と運動しながら、親子で楽しく学べる機会と教材の提供 (2)「働き・子育て世代」に向けて: 野菜摂取や塩分量への気づきを促し、食生活を見直す機会の提供。食品の選択・栄養表示の活用・バランスのよい食事のとり方等のスキルアップを支援。レシピの提供などの実践的な方法で継続を支援 (3)「総りの世代」に向けて: フレイル予防のためにしっかりと食べる大切さを知り、食を楽しむ場の提供と支援 (4)すべてのライフステージ、すべての地域で、多職種との連携を強化しながら、市民の健康増進事業・介護予防事業を推進</p>	<p>実績</p> <p>①「育ち・学びの世代」に向けての取組/かながわ食育フェスタに継続参加し、横浜市中央市場と連携して作成した、若い子育て世代向けの離乳食ハンドブックの普及活動150名/離乳食ハンドブックをテキストとした料理教室を実施。参加者24組。市歯科医師会と連携した歯と口の健康週間行事に参加し、3-1-2弁当箱法による主食・主菜・副菜を組み合わせよく噛んで食べることをミュージカル形式で普及。参加者400名 ②「働き・子育て世代」に向けての取組/健康チャレンジフェアかながわに参加し、塩分官能検査を実施。減塩の普及や減塩食のレシピを配布して啓発。参加者256名/よこはま健康デザインフェアで横浜市健康づくり課に協力し、栄養相談を実施。参加者46名。特定保健指導事業において栄養指導を実施。参加者80名 ③「総りの世代」に向けての取組/シニア健康料理教室を認知症予防の食事などについて2回実施。参加者43名 ④すべてのライフステージに向けた取組/市民公開講座を実施し、これからの地域包括ケアにおける栄養ケアについて講演会を実施。参加者40名</p>	<p>取組計画と実績</p> <p>(1)「育ち・学びの世代」に向けて: 食育事業と運動しながら、親子で楽しく学べる機会と教材の提供をする 令和2年度度横浜市歯と口の健康週間中央行事へ参加 かながわ食育フェスタへの参加 中央卸売市場発行 栄養士会監修とりわけ離乳食レシピブックを使う離乳食教室を開催 (2)「働き・子育て世代」に向けて: 野菜摂取や塩分量への気づきを促し、食生活を見直す機会を提供する (3)「総りの世代」に向けて: 健康寿命の延伸、食を楽しむ場の提供と支援のために、地域ケア会議への参画、通いの場での介護予防事業を積極的に支援する。 (4)すべてのライフステージに向けた健康寿命の延伸、食を楽しむ場の提供と支援のために、地域ケア会議への参画、通いの場での介護予防事業を積極的に支援する。「シニア料理集」の紹介 (4)すべてのライフステージに向けた健康的な食生活の支援 (5)IDA-DAT(日本栄養士会並びに神奈川県栄養士会災害支援チーム)の活動周知 市民活動フェアでの活動紹介展示</p>	<p>取組計画と実績</p> <p>(1)「育ち・学びの世代」に向けて: 食育事業と運動しながら、親子で楽しく学べる機会と教材の提供をする 令和2年度度横浜市歯と口の健康週間中央行事へ参加 かながわ食育フェスタへの参加 中央卸売市場発行 栄養士会監修とりわけ離乳食レシピブックを使う離乳食教室を開催 (2)「働き・子育て世代」に向けて: 野菜摂取や塩分量への気づきを促し、食生活を見直す機会を提供する (3)「総りの世代」に向けて: 健康寿命の延伸、食を楽しむ場の提供と支援のために、地域ケア会議への参画、通いの場での介護予防事業を積極的に支援する。 (4)すべてのライフステージに向けた健康的な食生活の支援 (5)IDA-DAT(日本栄養士会並びに神奈川県栄養士会災害支援チーム)の活動周知 食を通じた災害支援 災害時の連絡網整備</p>	<p>取組計画と実績</p> <p>(1)「育ち・学びの世代」に向けて: 食育事業と運動しながら、親子で楽しく学べる機会と教材の提供をする 令和2年度度横浜市歯と口の健康週間中央行事へ参加 かながわ食育フェスタへの参加 中央卸売市場発行 栄養士会監修とりわけ離乳食レシピブックを使う離乳食教室を開催 (2)「働き・子育て世代」に向けて: 野菜摂取や塩分量への気づきを促し、食生活を見直す機会を提供する (3)「総りの世代」に向けて: 健康寿命の延伸、食を楽しむ場の提供と支援のために、地域ケア会議への参画、通いの場での介護予防事業を積極的に支援する。 (4)すべてのライフステージに向けた健康的な食生活の支援 (5)IDA-DAT(日本栄養士会並びに神奈川県栄養士会災害支援チーム)の活動周知 食を通じた災害支援 災害時の連絡網整備</p>	<p>今後の方向性</p> <p>(1)「育ち・学びの世代」に向けて: 食育事業と運動しながら、親子で楽しく学べる機会と教材の提供...「こどもができる簡単レシピ集」を使う料理教室の実施 ・歯科医師会との連携...令和4年度度横浜市歯と口の健康週間中央行事WEB開催の周知、「横浜デンタルショー」へ食育ブース協力予定 ・中央卸売市場発行 栄養士会監修とりわけ離乳食レシピブックを使う離乳食教室を横浜市子育て拠点で3区開催 (2)「働き・子育て世代」に向けて: 野菜摂取や塩分量への気づきを促し、食生活を見直す機会を提供する ホームページにて「おうち時間を楽しむレシピ掲載」 (3)「総りの世代」に向けて: 健康寿命の延伸、食を楽しむ場の提供と支援のために、地域ケア会議への参画、通いの場での介護予防事業を積極的に支援する。「シニア料理集」の紹介 (4)すべてのライフステージに向けた健康的な食生活の支援 (5)IDA-DAT(日本栄養士会並びに神奈川県栄養士会災害支援チーム)の活動周知 横浜市防災計画関連機関として食を通じた災害支援 災害時の連絡網の整備をする</p>
健康横浜						
達成度	A	B	C	B		

重点取組テーマ		今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり			
関連する指標			
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合 ③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合			
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)	最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

横浜スポーツ協会		関連計画		
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」	
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		■市民参加型の事業において、加盟団体や当協会内部の連携を強化し、参加機会の拡大を図ります。 ■当協会が実施する教室やイベント等を通じて、スポーツに触れ、参加する機会の充実を図ります。 ■アウトリーチ事業等の実施エリアを拡充させ、身近な地域におけるスポーツ機会の充実を図ります。	
分野	運動(育ち・学び)	運動(働き・子育て)		運動(総り)
行動目標	毎日楽しくからだを動かす	定期的に運動する／あと、1000歩歩く		歩く、外出する

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性
中間地点	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
<p>・ウォーキングイベントは、25年度から毎年開催し、4年間で17,240人が参加。毎年参加者数は増加しており、平成26年度からは、毎年3,000人程度参加人数が増えている。また、独自のウォーキングコースを設置し、ウォーキングステーションとしての役割を担った。(16施設)</p> <p>・横浜マラソン大会のチャレンジ枠事業として、3施設は区と共催として事業を実施。その他の13施設は、栄養講座や大会に向けたランニング講座などをプログラムに取り入れ、ランニング推進の事業を実施した。(16施設)</p> <p>・子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に各種スポーツ教室を実施した。平成25年度は1,005,000人の参加者数であったが、平成27年度には1,107,000人の参加者で102,000人増えた。年々参加者数が増加している傾向であり、健康に対する関心が高まっていると考えられる。(16施設)</p> <p>・保育園や子ども体力向上事業では、保育園長会や小体研会(小学校)などに積極的にPRを実施し、プログラムに関心をもち、園や学校が増えてきている。(18区)</p> <p>・医師会と連携をして、医事相談や野球肘事業を継続的に実施をした。平成29年度も実施している。</p>	<p>■各区スポーツセンター※における、ウォーキングイベントの実施およびステーション機能の拡充。                  ■2018年度横浜マラソンに向けた「横浜マラソンチャレンジ枠」事業を各区スポーツセンター※で実施。                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の開催。                  ■横浜市医師会と連携した医事相談(内科・整形)等の開催。                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の開催。                  ■保育園や小学校に向けた子ども体力向上事業プログラム(リズムジャンプや身近なものを使った運動遊び等)の提案と派遣指導等の実施。                  ■各区スポーツセンター※における医事相談(内科・整形)の開催。                  ■より良い歩行に向けた姿勢測定会や姿勢デザイン教室を各区スポーツセンター※で実施。                  ■ヨコハマさわやかスポーツ普及事業、横浜市スポーツ人材活用システムを通じた運動支援や、区体育協会・総合型地域スポーツクラブの活動支援。                  ※青葉・港北除く16区</p>	<p>各区スポーツセンター(青葉・港北除く16区)において                  ■ウォーキングイベントや姿勢測定会等の実施。                  ■2019年度横浜マラソンに向けた「横浜マラソンチャレンジ枠」事業の実施。                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の開催。                  ■横浜市医師会と連携した医事相談(内科・整形)等の開催。                  各区において、                  ■保育園や小学校に向けた子ども体力向上事業プログラム(リズムジャンプや身近なものを使った運動遊び等)の提案と派遣指導等の実施。                  ■ヨコハマさわやかスポーツ普及事業、横浜市スポーツ人材活用システムを通じた運動支援や、区体育協会・総合型地域スポーツクラブの活動支援。                  市内全域を対象として、                  ■介護予防運動ワークショップ、元気力向上セミナー等、地域高齢者の介護予防等をテーマとした指導者・ボランティア向け講座の開催。</p>	<p>ライフステージに応じたスポーツ活動や、ウォーキングやマラソンなど健康づくりのきっかけにつながる、各種イベント・スポーツ教室の実施と情報提供を行います。                  ■東京2020公認プログラムオリンピック・パラリンピック関連イベント等、全市民的イベントの開催                  ■2020年度横浜マラソンに向けた「横浜マラソンチャレンジ枠」事業や「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル」の実施                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施                  ■スポーツ情報サイト「ハマスポ」や、スポーツセンターHP・SNSを活用したスポーツ情報の提供                  ■子どもの体力向上事業の実施                  ■健康づくり支援事業(健康体力づくり派遣指導等)の実施                  ■ヨコハマさわやかスポーツ普及事業、区スポーツ協会等地域団体との連携および活動支援。                  ■スポーツ人材の養成・育成・活用事業</p>	<p>ライフステージに応じたスポーツ活動や、ウォーキングやマラソンなど健康づくりのきっかけにつながる、各種イベント・スポーツ教室の実施と情報提供を行います。                  ■よこはまシティウオーク等、全市民的イベントの開催                  ■2021年度横浜マラソンに向けた「横浜マラソンチャレンジ枠」事業や「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル」の実施                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施                  ■スポーツ情報サイト「ハマスポ」や、スポーツセンターHP・SNSを活用したスポーツ情報の提供                  ■子どもの体力向上事業の実施                  ■健康づくり支援事業(健康体力づくり派遣指導等)の実施                  ■ヨコハマさわやかスポーツ普及事業、区スポーツ協会等地域団体との連携および活動支援。                  ■スポーツ人材の養成・育成・活用事業</p>	<p>ライフステージに応じたスポーツ活動や、ウォーキングやマラソンなど健康づくりのきっかけにつながる、各種イベント・スポーツ教室の実施と情報提供、活動団体の支援や人材の育成・活用を行います。                  ■各種市民大会の支援、トライアスロンや横浜マラソン等運営組織への参画、ねりんピック神奈川への支援・助成等、競技スポーツ推進事業の実施。                  ■「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル」や、さわやかスポーツの普及等、地域スポーツ活動の推進。                  ■子どもの体力向上事業やオンラインレッスンの提供等、健康・体力づくり推進事業の実施。                  ■スポーツ人材の養成・育成・活用事業                  ■スポーツ情報サイト「ハマスポ」や、スポーツセンターHP・SNSを活用したスポーツ情報の提供                  ■インクルーシブスポーツ推進事業                  ■スポーツ団体育成・視線事業                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施</p>	<p>ライフステージに応じたスポーツ活動や、ウォーキングやマラソンなど健康づくりのきっかけにつながる、各種イベント・スポーツ教室の実施と情報提供、活動団体の支援や人材の育成・活用を行います。                  ■各種市民大会の支援、トライアスロンや横浜マラソン等運営組織への参画、ねりんピック神奈川への支援・助成等、競技スポーツ推進事業の実施。                  ■「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル」や、さわやかスポーツの普及等、地域スポーツ活動の推進。                  ■子どもの体力向上事業やオンラインレッスンの提供等、健康・体力づくり推進事業の実施。                  ■スポーツ人材の養成・育成・活用事業                  ■スポーツ情報サイト「ハマスポ」や、スポーツセンターHP・SNSを活用したスポーツ情報の提供                  ■インクルーシブスポーツ推進事業                  ■スポーツ団体育成・視線事業                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施</p>	
健康横浜	<p>■各区※スポーツセンターにおいて、親子や防災、商店街といったテーマ別ウォーキングを企画、実施した。また、ウォーキングステーションとしてボールの貸出やストレッチ体操の紹介などを行った。                  ■横浜マラソンチャレンジ枠として、各区※スポーツセンターにおいて栄養講座や足型測定、ストレッチ体操の講座を行った。                  ■幅広い世代に向け、託児サービスや文化教室の開催など、より参加しやすくなる興味に訴える教室を実施した結果、約1,095,000人の参加があった。                  ■保育園においては、はつらつキッズ事業として様々な運動遊びを行い、約5,800人の園児が参加した。また、リズムジャンプを活用した事業には約20,000人の児童が参加した。                  ■医事相談は各区※スポーツセンターにおいて、内科・整形外科合わせて37回開催し、約300人が参加した。                  ■各区※スポーツセンターで姿勢測定会を行い、約600人の計測と、より良い歩行に向けたアドバイスを行った。                  ※青葉・港北を除く                  ■18区全てに連携担当者を配置し、ヨコハマさわやかスポーツ普及事業を始めとした地域事業の支援を行い、人材活用システム登録者による活動参加者数は、約650,000人となった。</p>	<p>各区スポーツセンター(青葉・港北除く16区)において                  ■地域福祉施設や区と協力し、ごみ拾いや地域の自然を活用したウォーキングを行った。                  ■各区において、2019年度横浜マラソンに向けた「横浜マラソンチャレンジ枠」事業をアシックスなどの協力企業と連携して実施したほか、姿勢測定会を実施した(参加者約600人)。                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室を実施した。                  ■横浜市医師会と連携した医事相談(内科・整形)等の開催(参加者約150人)。                  各区において、                  ■保育園における運動指導(参加者約9000人)や小学校における子ども体力向上事業プログラム(参加者約62000人/12月末時点)を実施した。                  ■地域におけるスポーツ活動として、ヨコハマさわやかスポーツ普及事業(参加者約270000人/12月末時点)の実施や、横浜市スポーツ人材活用システムを通じた運動支援(参加者540000人/12月末時点)を支援した。                  市内全域を対象として、                  ■介護予防運動ワークショップ、元気力向上セミナー等、地域高齢者の介護予防等をテーマとした指導者・ボランティア向け講座を開催し約200人の参加があった。</p>	<p>市内全域および各区スポーツセンター(青葉・港北除く16区)において、以下の事業を実施しました。                  ■「東京 2020 公認プログラムフォトロゲイニング in 横浜(284人参加)」やオンラインレッスンによる「横浜マラソンチャレンジ枠(1施設、9人参加)」、「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル(2,903人参加)」の実施                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施(16施設、340,183人参加)                  ■スポーツ情報サイト「ハマスポ」や、スポーツセンターHP・SNSを活用し、ウォーキングコース情報(165件)や、運動啓発の動画、健康づくりに役立つコンテンツを作成し情報提供                  ■保育園等における「はつらつキッズ事業(延5,180人参加)」や、小学校等における「いきいきキッズ事業(延11,605人参加)」の実施                  ■ヨコハマさわやかスポーツ普及事業(65,879人の参加)および区スポーツ協会(4区で実施)の活動支援                  ■健康体力づくり派遣指導(5,382人の参加)の実施                  ■スポーツ人材の養成・育成事業(3講座、29人の参加)、および人材登録指導者による活用事業(延238,065人の参加)の実施                  ■体力測定事業は、高齢者介護施設からの受託事業(計4件・227人の参加)、およびSPS(スポーツ医科学センター)におけるスポーツプログラムサービス・884人の参加)内での実施がありました。                  【コロナ対策】                  ■室場の広さに応じた利用人数制限                  ■手指および共用部の消毒                  ■換気・ソーシャルディスタンスの確保                  ■利用者への体調チェックシート提出依頼                  ■職員の体調チェック</p>	<p>市内全域および各区スポーツセンター(青葉・港北除く16区)を中心に、以下の事業を実施しました。                  ■横浜シティウオーク(309人参加)、横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル(2,343人参加)、横浜マラソンチャレンジ枠(4施設)等イベントの実施。                  ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の実施(16施設、348,900人参加)                  ■スポーツ情報サイト「ハマスポ」による情報提供(2174件)のほか、各スポーツセンターHP・SNSによる情報発信、オンラインレッスンの提供を行った。                  ■保育園等における「はつらつキッズ事業(6,286人参加)」や、小学校等における「いきいきキッズ事業(8,639人)」の実施                  ■地域におけるスポーツ活動支援として、ヨコハマさわやかスポーツ普及事業(108,323人参加)、スポーツ人材の養成・育成事業(4講座・273人参加)の実施および人材を活用した運動支援(320,071人参加)、健康体力づくり派遣指導(7,674人参加)の実施                  ■体力測定事業は、SPS(スポーツ医科学センター)におけるスポーツプログラムサービス(1,232人参加)の実施がありました。                  【コロナ対策】                  ■施設利用者の消毒・検温・体調チェックの実施                  ■換気・飛沫対策(パーテーション・シートの設置)                  ■エレベーター内や待機列等におけるスペースの明示                  ■室場の広さに応じた利用人数制限                  ■職員・講師の体調チェックおよびマスクの着用</p>			
達成度	B	B	B	B	B		

重点取組テーマ		今後のテーマ	
Action6よこはま健康スタイル、Action8口コモ/フレイル・オーラルフレイル			
関連する指標			
①運動やスポーツを週3日以上行う小学5年生の割合②20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合③20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続④65歳以上で1日の歩数が男性7,000歩以上、女性6,000歩以上の者の割合⑤65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続			
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)	最終目標	健康日本21
①男子:49.7% 女子:25.8%	①男子:49.7% 女子:25.8%	①増加傾向②男50%、女50%③全34%、男36%、女33%④男50%、女40%⑤全52%、男58%、女48%	①-②-③全34%、男36%、女33%④-⑤全52%、男58%、女48%
②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	

禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川県			関連計画
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標  喫煙が、がん、循環器疾患、呼吸器疾患などの生活習慣病を惹き起こす最大の危険因子であることから、禁煙・受動喫煙防止活動を推進することにより、育ち・学びの世代の「受動喫煙を避ける」働き・子育て世代及び総りの世代の「禁煙にチャレンジ」といった目標を達成し、健康長寿の延伸に貢献する。
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	たばこ		
行動目標	禁煙にチャレンジ		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康横浜	<p>・25年度から28年度の4年間で、本会員が、禁煙・受動喫煙防止に関して講演・研修会を実施したは、学校・地域・産業保健の分野をあわせると約440回を数える。学校での講演に関しては、学校長・養護教諭の理解による温度差があるようだ。産業保健分野では中小規模の企業の従業員の喫煙率はまだ高い。今後関係団体等と協力し、働きかけを進めていく必要がある。</p> <p>・イベント等で禁煙相談を実施しているが、以前と比較し、喫煙者が減少していることを実感する。今後も引き続き、関係団体と連携を深めて地道に、継続的に活動を展開していく。</p> <p>・平成27年5月31日の世界禁煙デーに神奈川県新聞の1面全面意見広告を出したが、毎年実施することは困難である。今後、禁煙・受動喫煙防止についての広報、啓発活動をどのように展開していくか、検討していく必要がある。</p>	<p>・世界禁煙デーに呼応した講演会の開催 ・健康増進法一部改正に関する普及啓発への協力 ・禁煙・受動喫煙防止講演会(学校・地域)への協力 ・健康チャレンジフェアかながわ等への参加 ・かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力</p>	<p>・世界禁煙デーに呼応した講演会の開催 ・改正健康増進法に対する支援 ・未成年者・教育関係者への禁煙指導や啓発活動 ・禁煙・受動喫煙防止講演会への協力(会員の講師派遣・紹介) ・禁煙・受動喫煙防止イベント等への参加 ・かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力 ・金沢産業団地 秋の祭典PIAフェスタへの協力参加</p>	<p>○世界禁煙デーに呼応した講演会の開催 ○改正健康増進法全面施行に係る受動喫煙防止対策の推進の支援 ○加熱式タバコの規制強化の推進 ○未成年者、教育関係者への喫煙防止教育の推進 ○禁煙・受動喫煙防止講演会への協力・講師派遣 ○かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力 ○健康チャレンジフェアかながわ等のイベントへの協力</p>	<p>○世界禁煙デーに呼応した講演会の開催 ○改正健康増進法および県条例に基づく受動喫煙防止対策の推進 ○第17回日本禁煙学会学術総会開催(2023年)に向けた対応 ○コロナ禍における新たな活動方法の検討 ○禁煙・受動喫煙防止講演会への協力・講師派遣 ○かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力</p>	<p>○世界禁煙デーに呼応した講演会の開催 ○改正健康増進法および神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例に対する支援活動 ○第17回日本禁煙学会学術総会開催(2023年)に向け実行委員会の立ち上げ・準備 ○withコロナにおける新たな活動方法の検討 ○禁煙・受動喫煙防止講演会への協力・講師派遣 ○未成年者・教育関係者への禁煙指導や啓発活動 ○かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力</p>	
	実績	<p>【講演会(6/3)の開催】 テーマ:「受動喫煙防止対策の動向(国・神奈川県・藤沢市)」行政を動かすためのタバコ対策活動のノウハウ 【健康増進法改正に関する普及啓発への協力】 神奈川県公衆衛生学会シンポジウム「これからの受動喫煙防止対策の進め方」への協力(企画立案。司会及び講師派遣)(11/21) 【受動喫煙防止講演会】(集計中) 【健康チャレンジフェアかながわ(12/1)への参加】 ブース出展(禁煙相談・スモークアナライザーによる啓発) 【かながわ卒煙塾・かながわ卒煙サポート】 卒煙塾6回(一般1回、企業等5回)、卒煙サポート1回 講師派遣</p>	<p>○講演会の開催(6/1開催) 「新型タバコの本当のリスク」等の講演 ○改正健康増進法の周知・啓発 ○防煙・禁煙・受動喫煙防止講演会への協力(会員の講師派遣・紹介)(集計中) ○禁煙・受動喫煙防止イベント等への参加 健康チャレンジフェアかながわ(11/30) ○かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力 卒煙塾4回(一般市民1回、企業等3回)、卒煙サポート1回 講師派遣 ○金沢産業団地 秋の祭典PIAフェスタへの協力参加・禁煙相談フェスタ中止のため未実施</p>	<p>○ホームページや講演会等で改正健康増進法全面施行の周知・啓発 ○ホームページで新型コロナと喫煙との関連性についての啓発 ○禁煙・受動喫煙防止講演会、禁煙セミナーへの協力・講師派遣 40回、延べ約5,300人 オンラインによる講演会12回 ○Web版「かながわ卒煙塾」(5回)への協力、企業の卒煙塾への協力3回(オンライン・ハイブリッド形式)かながわ卒煙サポートセミナー(オンライン)1回 ○神奈川県新聞に「がん制圧月間」キャンペーン記事・特集「肺がん」に協力 ○横浜市医師会による「『タバコに関する諸問題・最新の知見』～東京2020に向けて～」を特集テーマとした冊子発行に執筆協力 ○協会けんぽ受診者の喫煙者に対してGISを活用し、最寄の禁煙外来受診を勧奨するチラシ作成の協力・DM送付 【コロナ対策】 ○世界禁煙デーに呼応した集客による講演会と健康チャレンジフェア等イベントは中止 ○オンラインによる講演会やWeb版「卒煙塾」開催</p>	<p>○ホームページや講演会等で改正健康増進法全面施行の周知・啓発 ○ホームページでWeb版「かながわ卒煙塾」の動画配信、新型コロナウイルス感染症とタバコ等タイムリーな情報提供 ○禁煙・受動喫煙防止講演会、禁煙セミナーへの協力・講師派遣 56回、延べ約7,700人 オンラインによる講演会18回 ○企業の卒煙塾への協力11回(うちオンライン形式4回) かながわ卒煙サポートセミナー1回 ○県立高校の喫煙防止教育への協力4回(うち2回はコロナのため中止) 【コロナ対策】 ○世界禁煙デーに呼応した講演会はオンラインにて開催</p>		
達成度	B	B	B	B			

重点取組テーマ					今後のテーマ		
Action9受動喫煙防止の取組							
関連する指標							
①成人の喫煙率②COPDの認知率③日常生活の中で受動喫煙の機会を有する者の割合④未成年と同居する者の喫煙率							
策定時値(2009年度)			中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21
①20.0% ②男性33.3% 女性41.0%	③家庭9.9%、職場14.7%、 飲食店41.8%、行政機関 5.6%、 医療機関0.6%	④男性29.9%、女性10.5%	①19.7% ②男性33.8% 女性38.9%	③家庭9.4%、職場14.9%、 飲食店35.7%、行政機関6.6%、 医療機関0.54%	④男性31.1%、女性12.2%	①12%②80%③家庭9.4%、職場 14.9%、飲食店35.7%、行政機関 6.6%、医療機関0.54% ④男性31.1%、女性12.2%	①12%②80%③家庭3%、職場 0%、飲食店15%、行政機関0%、医 療機関0%④-

神奈川県国民健康保険団体連合会		関連計画		横浜市国民健康保険特定健康診査等実施計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」		

取組テーマ	健康アクション			最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業			①特定健診受診率向上、特定保健指導実施率向上、糖尿病重症化予防に向け、在宅保健師の派遣、保険者向け研修会、広報事業を実施する。	
分野	健診受診啓発			②保険者等(後期高齢者医療広域連合を含む)が策定したデータヘルス計画の効果的かつ効率的な推進に向け、有識者で構成する「保健事業支援評価委員会」による評価・助言の実施や、個別保健事業に必要なレセプトデータと健診データを活用した「KDBシステム」を保険者に提供する。	
行動目標	1年に1回特定健診を受ける			③保険者が実施する「健康まつり」等の健康づくり事業に対して、必要(人・物)な支援を行う。	

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組計画と実績					今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康横浜	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県保健福祉事務所での研修に、国保と衛生の両担当が参加することで、連携した計画策定が計られ、進捗管理表や事業別ワークシートの作成・活用により、地域特性が似ている市町村同士が研修に参加することで、共通課題への対策検討に繋がることができたので、政令市、国保組合、広域連合についても研修会の調整を行っている。</li> <li>KDBについては、平成26年1月から県内全保険者に運用を開始して以来、データ活用のための集合研修や保険者訪問等の端末操作研修等を実施しており、平成27年度からは独自の拡張ツールの「保健事業支援システム」を配布し更なる利便性向上に努めた。平成28年度は、「データヘルス計画」策定に活用いただくデータの抽出・加工など提供の支援をおこなっている。また、後期高齢者については後期ユーザーIDを保険者に配布し、後期データの保健事業への利活用も進めている。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未受診者受診勧奨等の保険者支援事業としては、平成25年度から28年度で延べ35保険者が活用しており、電話での受診勧奨後に健診受診につながった割合は、27.6%(25～27年度平均)と高い、日中の活動で不在が多いが、留守電メッセージを残した効果もみられている。引き続き、活用保険者の取り組みを情報共有していき、受診率向上の支援をしていく。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康パンフレットの作成や配布、神奈川県在宅保健師会「いちょうの会」の保健師派遣など、保険者出席の会議で未活用保険者への周知を行い保険者の健康づくり促進に向けた取組の強化を行っている。</li> </ul>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>改正国保法の施行により、新たに国保保険者となった神奈川県や県保健福祉事務所と連携を図り、保険者等(後期高齢者医療広域連合を含む)のデータヘルス計画がPDCAサイクルにより効果的かつ効率的に推進できるよう、有識者で組織する保健事業支援・評価委員会により個別に計画の評価・助言を行う。</li> <li>レセプト・健診データを活用した「KDBシステム」について、貴市からの依頼に基づき、貴市本庁舎において18区担当者(約60名)を対象に、端末操作研修を実施する。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅保健師の派遣事業として、今年度から特定健診の受診勧奨だけでなく特定保健指導の利用勧奨も行い、引き続き受診率向上・実施率向上の支援を行っている。</li> <li>広報事業として、ラジオCMを使った受診勧奨や健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成する。また、本会が事務局を務める保険者協議会で「健診受診率向上ポスター」を作成し、県・都市医師会を通じて県内医療機関に配布する。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に関するパンフレットの作成・配布や、保険者が実施する健康まつり等に対して、在宅保健師の派遣や健康測定機器の貸し出しを行い、保険者の健康づくり促進に向けた取組を支援する。</li> </ul>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に引き続き、神奈川県や県保健福祉事務所と連携を図り、保険者等(後期高齢者医療広域連合を含む)のデータヘルス計画がPDCAサイクルにより効果的かつ効率的に推進できるよう、有識者で組織する保健事業支援・評価委員会により個別に計画の評価・助言を行う。</li> <li>レセプト・健診データを活用した「KDBシステム」について、貴市からの依頼に基づき、貴市本庁舎において18区担当者(約60名)を対象に、端末操作研修を実施する。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅保健師の派遣事業として、昨年度より特定健診の受診勧奨だけでなく特定保健指導の利用勧奨も行い、引き続き受診率向上・実施率向上の支援を行っている。</li> <li>広報事業として、ラジオCMを使った受診勧奨や健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成する。また、本会が事務局を務める保険者協議会で「健診受診率向上リーフレット」を作成し、県・都市医師会を通じて県内医療機関に配布する。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に関するリーフレットの作成・配布や、保険者が実施する健康まつり等に対して、在宅保健師の派遣や健康測定機器の貸し出しを行い、保険者の健康づくり促進に向けた取組を支援する。なお、今年度は新たに歩行姿勢測定システム及びヘモグロビン量測定器を購入する。</li> </ul>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度より、神奈川県や県保健福祉事務所と連携を図り、保険者等(後期高齢者医療広域連合を含む)のデータヘルス計画がPDCAサイクルにより効果的かつ効率的に推進できるよう、有識者で組織する保健事業支援・評価委員会により個別に計画の評価・助言を行う。</li> <li>レセプトや健診データ、介護データを活用した「KDBシステム」について、貴市からの依頼に基づき、18区担当者を対象に資料を提供する。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅保健師の派遣事業として、2018年度より特定健診の受診勧奨だけでなく特定保健指導の利用勧奨も行い、引き続き受診率向上・実施率の向上の支援を行っている。</li> <li>広報事業として、ラジオCMを使った受診勧奨や健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成する。また、本会が事務局を務める保険者協議会で「健診受診率向上ポスター」を作成し、県・都市医師会を通じて県内医療機関に配布する。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に関するパンフレットについて、2021年度より特定保健指導に特化した既製のパンフレットに変更し、保険者で実施する特定保健指導の初回面談に活用していただくことを目的として配布する。また、保険者が実施する健康まつり等に対して、在宅保健師の派遣や健康測定機器の貸し出しを行い、保険者の健康づくり促進に向けた取組を支援する。</li> </ul>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度より、神奈川県や県保健福祉事務所と連携を図り、保険者等(後期高齢者医療広域連合を含む)のデータヘルス計画がPDCAサイクルにより効果的かつ効率的に推進できるよう、有識者で組織する保健事業支援・評価委員会により個別に計画の評価・助言を行う。</li> <li>レセプトや健診データ、介護データを活用した「KDBシステム」について、初任者向け研修会(国保・後期)及び一体的実施に係る研修会を実施して開催する。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報事業として、ラジオCMを使った受診勧奨や健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成する。また、「健診受診率向上ポスター」を作成し、県・都市医師会を通じて県内医療機関に配布する。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に関するパンフレットについて、2021年度より特定保健指導に特化した既製のパンフレットに変更し、保険者で実施する特定保健指導の初回面談に活用していただくことを目的として配布する。また、保険者が実施する健康まつり等に対して、在宅保健師の派遣や健康測定機器の貸し出しを行い、保険者の健康づくり促進に向けた取組を支援する。</li> </ul>		
		<p>① 国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の「第2期データヘルス計画」について、有識者で構成する「保健事業支援・評価委員会」や政令市を対象としたブロック別研修会により、特定健診未受診者への勧奨方法や糖尿病の重症化予防等、効果的かつ効率的な事業の推進に向けた、事業の評価や助言を行った。</li> <li>レセプトや健診データを活用した「KDBシステム」については、市町村職員・保健師を対象とした研修会を開催し、被保険者に対する個別の保健事業に活用するために新たに実装された機能について、具体的な内容や操作方法について説明し、この新規機能を有効活用できるよう周知を図った。</li> </ul> <p>② 特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅保健師派遣事業として、未受診者への受診勧奨をサポートするため、瀬谷区に対して、在宅保健師1名を13日間派遣し、電話による受診勧奨を行った。</li> <li>広報事業として、新聞広告を4回、ラジオCMをAM放送で34回、FM放送で32回実施した。また、健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成し、本庁に9,000個と18区へ65,500個、を配布した。</li> <li>本会と神奈川県が共同事務局を務める「保険者協議会」において、「特定健診受診率普及啓発ポスター」を作成し、横浜市内21ヶ所の都市医師会へ約2,400枚を配布した。</li> </ul> <p>③ 健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に関するパンフレットとして、運動をテーマに作成し、本庁と保土ヶ谷区へ合計1,500部配布した。</li> <li>横浜市の健康まつり等への支援として、8区に対して27回の健康測定機器の貸し出しや、10区に対して12回の在宅保健師を派遣した。</li> </ul>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の「第2期データヘルス計画」について、有識者で構成する「保健事業支援・評価委員会」や政令市を対象としたブロック別研修会により、特定健診対象者(特定健診未受診かつ医療機関未受診者を含む)や特定保健指導対象者への効果的かつ効率的な勧奨方法等について助言・評価を行った。</li> <li>レセプトや健診データを活用した「KDBシステム」について、横浜市の依頼に基づき、横浜市本庁舎において18区担当者を対象に、端末操作研修を実施した。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報事業として、AMラジオCMを実施するとともに、健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成し、横浜市本庁及び区へ71,000個を配布した。また、神奈川県と本会が共同事務局を務める保険者協議会で「健診受診率向上ポスター」を作成し、県医師会・市区医師会を通じて横浜市内医療機関へ2,446枚配布した。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診受診及び糖尿病重症化予防をテーマとした健康づくりリーフレットを作成し、横浜市本庁及び区へ900部を配布した。</li> <li>横浜市の健康まつり等への支援として、5区に対して22回の健康測定機器の貸し出し、9区に対して11回の在宅保健師派遣を実施した。</li> </ul>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の「第2期データヘルス計画」について、有識者で構成する「保健事業支援・評価委員会」や政令市を対象としたブロック別研修会により、特定健診対象者(特定健診未受診かつ医療機関未受診者を含む)や特定保健指導対象者への効果的かつ効率的な勧奨方法について助言・評価を行った。</li> <li>また、2020年度は第2期データヘルス計画中間評価の時期であったため、データヘルス計画に基づく個別保健事業の実績や成果及び改善に向けた「データヘルス計画中間評価全体研修会」を開催した。</li> <li>レセプトや健診データ、介護データを活用した「KDBシステム」について、横浜市の依頼(データ分析支援事業)に基づき、18区担当者を対象に端末操作研修を実施する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により研修会が中止となったため、KDBシステムの概要や操作マニュアルが記載された資料をYCAN(横浜市職員用のYokohamaCommunicActionNetwork)に掲載し、各自で視聴していただいた。また、今年度からKDBシステム端末を使った個別研修を国保会館にて開催した。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報事業として、AMラジオCMを実施するとともに、健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成し、横浜市本庁及び区へ76,000個を配布した。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の健康まつり事業等への支援として、1区に対して在宅保健師を派遣するとともに、3区に対して健康測定機器(骨密度測定器、脳年齢計、ヘモグロビン量測定器)の貸出を行った。</li> <li>【コロナ対策】 <ul style="list-style-type: none"> <li>開催形式の工夫(書面開催やオンライン開催等)や会場での工夫(アルコール除菌や密にならないための部屋の確保)を行った。</li> </ul> </li> </ul> <p>【コロナ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催形式の工夫(書面開催等)や会場での工夫(アルコール除菌や密にならないための部屋の確保)、また、感染拡大時には中止せざるを得ないこととなった。</li> </ul>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の「第2期データヘルス計画」について、有識者で構成する「保健事業支援・評価委員会」や政令市を対象としたブロック別研修会により、特定健診対象者(特定健診未受診かつ医療機関未受診者を含む)や特定保健指導対象者への効果的かつ効率的な勧奨方法について助言・評価を行った。</li> <li>レセプトや健診データ、介護データを活用した「KDBシステム」について、横浜市の依頼(データ分析支援事業)に基づき、18区担当者を対象に、KDBシステムの概要や操作マニュアルが記載された資料をYCAN(横浜市職員用のYokohamaCommunicActionNetwork)に掲載し、各自で視聴していただいた。また、初任者向けや一体的実施とテーマ別に個別研修を国保会館にて開催した。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報事業として、AMラジオCMを実施するとともに、健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成し、横浜市本庁及び区へ76,000個を配布した。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の健康まつり事業等への支援として、1区に対して在宅保健師を派遣するとともに、3区に対して健康測定機器(骨密度測定器、脳年齢計、ヘモグロビン量測定器)の貸出を行った。</li> <li>【コロナ対策】 <ul style="list-style-type: none"> <li>開催形式の工夫(書面開催やオンライン開催等)や会場での工夫(アルコール除菌や密にならないための部屋の確保)を行った。</li> </ul> </li> </ul>		
		A	A	A	A	A	

重点取組テーマ					今後のテーマ	
Action1特定健診・がん検診、Action10データ活用						
関連する指標						
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)						
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)				最終目標	健康日本21
19.7%	21.9%				40.5%	60.0%

健康保険組合連合会神奈川県連合会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※2023年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	健診受診啓発		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける		
1. 特定健診・特定保健指導の国の目標達成。 2. かながわ健康企業宣言事業の拡大。 3. 共同保健事業の拡大。			

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績					今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p><b>中間地点</b></p> <p>①毎月第4土曜日、100キロウォーク(1年間で100キロ歩)を実施しており、25年度から28年度の4年間で48回実施、計16,702名(年間4千人以上、1回平均348名)が参加した。このイベントもすっきり定着し毎回盛大に実施しているが、60歳代以降の参加者が多く、若い世代の参加、子供も楽しめる(ファミリーコースの併設等)企画も必要と考えられる。</p> <p>②特定保健指導促進のため、特定保健指導機関として登録している。要請のある健保組合に対し、共同設置保健師が指導を実施している。また、指導実践者のスキルアップ勉強会や、40歳未満の健康教育、ポピュレーションアプローチとして各種セミナーの実施にも取り組んでいる。</p> <p>③講習会については、年2回(健康増進テーマ:10月、疾病予防テーマ:3月)定着して実施してきた。4年間で健康増進テーマは計282名(1回平均70名)、疾病予防テーマは計324名(1回平均81名)と、毎回関心は高く今後も継続していきたい。</p> <p>④健保組合からの要請による講話等は、共同保健師が組合に出向いて要請テーマ(睡眠・熱中症・食生活改善・メンタルヘルス等)の講話やセミナーを実施、年々要請が増加しており今後も推進していきたい。</p>	<p><b>取組計画</b></p> <p>①100キロウォークは定着し毎月300名前後が参加している。今年度は通常コース(9キロ)の他に、5キロコースも併設した。</p> <p>②特定保健指導を保健師と外部委託により積極的に実施し、対前年度3割増の見込み。また、ダイエットプログラムの活用、スポーツクラブ利用による特定保健指導モデル実施を行っている。</p> <p>③データヘルス計画の側面支援として、保健事業の勉強会を4回(基礎・初級・中級・上級)実施。</p> <p>④被扶養者の特定健診受診率向上を目的として、3年未受診者を対象にハガキによる受診勧奨を行う。(10月実施予定)</p> <p>⑤事業主の健康づくり意識向上のため、「かながわ健康企業宣言」の宣言企業・認定企業を大幅に増やした。また、事業主とのコラボヘルス支援として、「歯科予防」と「禁煙推進」の講習会を実施。</p>	<p><b>実績</b></p> <p>①100キロウォークは参加者月平均275名で年々減少傾向となっている。</p> <p>②連合会実施の特定保健指導実績は376名で、前年度333名の13%増。ダイエットプログラムは243名の参加で減量者率72%。</p> <p>③保健事業勉強会は4回予定通り実施。(基礎35名、初級19名、中級15名、上級50名)</p> <p>④被扶養者への受診勧奨ハガキは希望した3健保3,800枚発送。他の健保は独自に実施。</p> <p>⑤かながわ優良企業認定は38法人、健康経営優良法人2019は34法人が認定された。</p> <p>⑥歯科予防は講習会に27健保出席、トライアル参加182名。禁煙対策は講習会に35健保出席、42名がトライアル参加。</p>	<p>(1) 健保連かながわ100キロウォークの開催。</p> <p>(2) 特定保健指導の実施支援。</p> <p>(3) 被扶養者への特定健診受診勧奨。</p> <p>(4) 共同保健事業の実施。</p> <p>①ダイエットプログラム(減量キャンペーン)の実施。</p> <p>②歯肉溝バイオマーカによる歯周病検査の実施。</p> <p>③郵送血液検査キット(CureSign)幹旋</p> <p>④ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施(推奨事業)</p> <p>(5) 保健師による健康相談、各種講習会の実施。</p> <p>(6) かながわ健康企業宣言の拡大。</p>	<p>(1) 健保連かながわ100キロウォークの開催。</p> <p>(2) 特定保健指導の実施支援。</p> <p>(3) 被扶養者への特定健診受診勧奨。</p> <p>(4) 共同保健事業の実施。</p> <p>①ダイエットプログラム(減量キャンペーン)の実施</p> <p>②歯肉溝バイオマーカによる歯周病検査の実施</p> <p>③重炭酸温浴法による健康増進プログラムの実施</p> <p>④自己調整プログラム「セルコン」の実施</p> <p>⑤ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施(推奨事業)</p> <p>(5) 保健師による健康相談、各種講習会の実施。</p> <p>(6) かながわ健康企業宣言の拡大。</p>	<p>(1) 健康ウォークの充実、拡大</p> <p>①健保連かながわ100キロウォークの開催</p> <p>②Lineで100キロウォークの導入</p> <p>(2) 共同保健事業の実施。</p> <p>①特定保健指導の実施率向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合会費用補助による特定保健指導の実施</li> <li>・ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施</li> </ul> <p>②被扶養者向け特定健診受診率向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診受診勧奨ハガキの提供</li> <li>・郵送血液検査キット「DEMECAL」の幹旋</li> </ul> <p>③歯科口腔衛生事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県歯科医師会契約に基づく歯科検診事業</li> <li>・歯肉溝バイオマーカによる歯周病検査</li> </ul> <p>④生活習慣改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レコーディングダイエットプログラム(減量キャンペーン)</li> <li>・自己調整プログラム「セルコン」の実施</li> <li>・セミナー動画の提供(運動習慣改善・食生活改善・メンタルヘルス・喫煙対策)</li> </ul> <p>(3) かながわ健康企業宣言事業の拡大展開</p>	
健康横浜	<p>(1) 100キロウォークは参加者月平均275名で年々減少傾向となっている。</p> <p>(2) 連合会実施の特定保健指導は、ICTの活用による遠隔面談等コロナ対策をとった上で、例年並みの367名の実施となった。</p> <p>(3) 被扶養者への受診勧奨ハガキを計画通り3健保936枚を提供し、各健保より発送。</p> <p>(4) 共同保健事業は計画通り実施、以下実績であった。</p> <p>①ダイエットプログラム(減量キャンペーン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏・秋の2回開催とし、延べ10健保1,135名(対前年176%)が参加</li> <li>減量者率73% 平均減量率1.7%</li> </ul> <p>②歯肉溝バイオマーカによる歯周病検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4健保746名(対前年83%)の参加</li> <li>検査結果として歯周病リスクの程度を報告し、リスクの高い者には受診勧奨を行った。</li> </ul> <p>③重炭酸温浴法による健康増進プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1健保の3事業所の特定保健指導対象者72名に対し血流改善セミナー、重炭酸温浴モニターリングを実施。</li> </ul> <p>④自己調整プログラム「セルコン」3健保39歳未満メタボ者187名を対象に実施。</p> <p>⑤ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施(推奨事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外含め11健保608名を対象に実施し、R3年度中にプログラムを終了者した者の▲2kg▲2cm達成率は42%となった。</li> </ul> <p>(5) 保健師による健康相談を3事業所46名、禁煙セミナーを2事業所420名対象に実施した。</p> <p>(6) かながわ健康企業宣言事業拡大に向け、以下を実施し、「かながわ健康企業宣言事業」へのエントリー数199社(対前年+40社)、「かながわ健康優良企業認定」130社(+20社)、「健康経営優良法 2022(中小規模法人部門)認定」109社(対前年+31社)となった。</p> <p>①「健康経営アドバイザーセミナー(参加37健保/77名)」「健康企業宣言事業説明会(参加32健保/70名、52社/80名)」の開催</p> <p>②「健康経営サポート事業(保健事業の提供、相談体制構築)」の実施</p> <p>【コロナ対策】</p> <p>セミナーや講習会等はWEBを併用したハイブリッド方式で開催し、会場参加者へは消毒、検温を実施した上で、広い会場を準備し密を回避した。</p>	<p>(1) 100キロウォークは、コロナ感染拡大により年度を通じて中止。</p> <p>(2) 連合会実施の特定保健指導は前年を上回る437名を予定したが、コロナ影響で多くが中止となり最終88名の実施にとどまった。</p> <p>(3) 被扶養者への受診勧奨ハガキは計画通り4健保1,809枚を提供し、各健保より発送。</p> <p>(4) 共同保健事業は計画通り実施し、以下実績であった。</p> <p>①ダイエットプログラム(減量キャンペーン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7健保646名(対前年+38%)の参加内減量者数75% 平均減量率▲1.8%</li> </ul> <p>②歯肉溝バイオマーカによる歯周病検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5健保897名(対前年+39%)の参加 検査結果として歯周病リスクの程度を報告し、リスクの高い者には受診勧奨を行った。</li> </ul> <p>③郵送血液検査キット幹旋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5健保499名(対前年▲65%)に幹旋 参加者へは翌年度の健診受診を勧めること併せ、検査の悪い者へは健保より受診勧奨した。</li> </ul> <p>④ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4健保203名を対象に実施 ▲2kg・▲2cmの達成率40%超を達成</li> </ul> <p>(5) 保健師による健康相談、各種講習会はコロナ影響により未実施。</p> <p>(6) かながわ健康企業宣言の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「かながわ健康企業宣言事業」へのエントリー 159社(対前年+35社)、「かながわ健康優良企業認定」110社(対前年+27社)、「健康経営優良法人2021(中小規模法人部門)認定」78社(対前年+15社)</li> </ul> <p>【コロナ対策】</p> <p>共同保健事業説明会や勉強会等、密を避けるためZoomを活用してWEBでの開催とした。</p>	<p>(1) 100キロウォークは、コロナ感染拡大により年度を通じて中止。</p> <p>(2) 連合会実施の特定保健指導は、ICTの活用による遠隔面談等コロナ対策をとった上で、例年並みの367名の実施となった。</p> <p>(3) 被扶養者への受診勧奨ハガキを計画通り3健保936枚を提供し、各健保より発送。</p> <p>(4) 共同保健事業は計画通り実施、以下実績であった。</p> <p>①ダイエットプログラム(減量キャンペーン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏・秋の2回開催とし、延べ10健保1,135名(対前年176%)が参加</li> <li>減量者率73% 平均減量率1.7%</li> </ul> <p>②歯肉溝バイオマーカによる歯周病検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4健保746名(対前年83%)の参加</li> <li>検査結果として歯周病リスクの程度を報告し、リスクの高い者には受診勧奨を行った。</li> </ul> <p>③重炭酸温浴法による健康増進プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1健保の3事業所の特定保健指導対象者72名に対し血流改善セミナー、重炭酸温浴モニターリングを実施。</li> </ul> <p>④自己調整プログラム「セルコン」3健保39歳未満メタボ者187名を対象に実施。</p> <p>⑤ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施(推奨事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外含め11健保608名を対象に実施し、R3年度中にプログラムを終了者した者の▲2kg▲2cm達成率は42%となった。</li> </ul> <p>(5) 保健師による健康相談を3事業所46名、禁煙セミナーを2事業所420名対象に実施した。</p> <p>(6) かながわ健康企業宣言事業拡大に向け、以下を実施し、「かながわ健康企業宣言事業」へのエントリー数199社(対前年+40社)、「かながわ健康優良企業認定」130社(+20社)、「健康経営優良法 2022(中小規模法人部門)認定」109社(対前年+31社)となった。</p> <p>①「健康経営アドバイザーセミナー(参加37健保/77名)」「健康企業宣言事業説明会(参加32健保/70名、52社/80名)」の開催</p> <p>②「健康経営サポート事業(保健事業の提供、相談体制構築)」の実施</p> <p>【コロナ対策】</p> <p>セミナーや講習会等はWEBを併用したハイブリッド方式で開催し、会場参加者へは消毒、検温を実施した上で、広い会場を準備し密を回避した。</p>	<p>(1) 健康ウォークの充実、拡大</p> <p>①健保連かながわ100キロウォークの開催</p> <p>②Lineで100キロウォークの導入</p> <p>(2) 共同保健事業の実施。</p> <p>①特定保健指導の実施率向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合会費用補助による特定保健指導の実施</li> <li>・ダイエットプログラムを活用した特定保健指導モデル実施</li> </ul> <p>②被扶養者向け特定健診受診率向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診受診勧奨ハガキの提供</li> <li>・郵送血液検査キット「DEMECAL」の幹旋</li> </ul> <p>③歯科口腔衛生事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県歯科医師会契約に基づく歯科検診事業</li> <li>・歯肉溝バイオマーカによる歯周病検査</li> </ul> <p>④生活習慣改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レコーディングダイエットプログラム(減量キャンペーン)</li> <li>・自己調整プログラム「セルコン」の実施</li> <li>・セミナー動画の提供(運動習慣改善・食生活改善・メンタルヘルス・喫煙対策)</li> </ul> <p>(3) かながわ健康企業宣言事業の拡大展開</p>		
達成度	B	A	B	A～B ※コロナ影響でやむを得ないもの以外は達成		

重点取組テーマ					今後のテーマ	
Action1 特定健診・がん検診、Action3 糖尿病等の重症化予防						
関連する指標						
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)						
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)				最終目標	健康日本21
19.7%	21.9%				40.5%	60.0%

全国健康保険協会神奈川支部		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「移りの世代」
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度→※3年度へ延長)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 ■生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診が健康づくりの起点であることから、健診受診率の向上に努める。</li> <li>・特定保健指導については、利用機会の拡大を図る取組を実施し保健指導率の向上に努める。</li> <li>・事業主等の健康づくりの意識の醸成を図り、さらに事業主を支援することで、従業員の健康の維持・増進に努める。</li> <li>・加入者の生活習慣病の重症化を防ぎ、医療費適正化及びQOLの維持を図るため、健診の結果、要治療域と判定されながら治療していない者に対して、確実に医療に繋げる取組を進める。</li> <li>・関係機関との連携を図り加入者の健康づくりを進めていく。</li> </ul>
分野	健診受診啓発		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組計画と実績				今後の方向性	
中間地点	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>1. 健診の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率は上昇しているものの全国平均と比べ低位に推移してきた。</li> <li>【被保険者】[H25]47.8%、[H26]48.4%、[H27]48.7%、[H28]48.9%(全国:54.7%)</li> <li>【被扶養者】[H25]14.9%、[H26]16.7%、[H27]16.6%、[H28]18.7%(全国:22.2%)</li> <li>・健診受診率向上のため、対象事業所へのタイムリーな健診案内・申込書の送付、任意継続被保険者への健診案内、健診機関への受診勧奨委託などに取り組み、2年間受診したことがない被扶養者に対しては、無料集団健診を実施してきた。また、2年間受診したことがない被扶養者に対しては、無料集団健診を実施してきた。さらに、健診受診のインセンティブを働かせるため、健診受診者を対象とした横浜銀行「特別金利定期預金」を適用した。今後引き続き同様の取組を継続していくことに加え、さらなる向上を検討していく。</li> </ul> <p>2. 特定保健指導の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の数が不足している状況等にあり実績は低位に推移してきた。今後はアウトソーシングも活用し保健指導の利用拡大を推進する。</li> <li>・6か月後評価実施率(神奈川支部)</li> <li>【被保険者】[H25]5.4%、[H26]6.2%、[H27]5.3%、[H28]3.8%</li> <li>【被扶養者】[H25]3.0%、[H26]2.8%、[H27]5.2%、[H28]3.6%</li> </ul> <p>3. 事業主等の健康づくり意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かながわ健康企業宣言」の参加企業に対し、健康づくりサポートを実施するなど、事業主を支援することにより従業員の健康維持・増進に努めてきた。今後は参加企業を増やし事業を推進していく。</li> <li>・「データヘルス計画」に基づき、事業所の禁煙に関する意識の醸成を図ってきた。</li> </ul> <p>4. 重症化予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病の重症化を防ぎ、医療費適正化及びQOLの維持を図るため、健診の結果、要治療と判定されながら治療していない加入者に対して受診を勧奨し、確実に医療につなげる取組を実施した。今後は横浜市と同内容の糖尿病腎症にかかる重症化予防実施事業を行う予定。</li> <li>5. その他</li> <li>・県歯科医師会、県薬剤師会との協定に基づいた健康づくりを推進した。</li> <li>・健康保険委員を対象とした研修を協定4市(横浜市、川崎市、相模原市、藤沢市)と実施した。</li> <li>・「ピンクリボンかながわ」との共催による乳がん撲滅の啓発事業を実施した。</li> </ul>	<p>○健診の促進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加入事業所数が増加している点に着目し、新規に加入した事業所への文書及び電話による受診勧奨を実施。</li> <li>・一括委託による事業所健診データの取得勧奨を実施。(被扶養者)</li> <li>・未受診者対策として協会主催の自己負担無料集団健診(会場健診)を実施する。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・被保険者の保健指導については、健診当日保健指導が可能な健診実施機関を確保し保健指導の利用拡大を推進する。</li> <li>・被扶養者の保健指導についてはセミナー形式の特定保健指導の展開を図る。</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・「かながわ健康企業宣言」事業所数の更なる拡大とともに、宣言事業所に対するフォローアップの強化を図る。</li> <li>・事業所カルテを活用し、健康度の改善度合いをデータとして提供し、事業所の健康経営に対する取組意欲の向上を図る。</li> <li>○重症化予防対策</li> <li>・健診結果で要治療と判定されながら医療機関を受診していない者に対し受診勧奨を実施する。</li> <li>・糖尿病患者にかかりつけ医と連携し、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを実施する。</li> <li>○その他</li> <li>・県歯科医師会、県薬剤師会との協定に基づいた健康づくりを推進する。</li> <li>・健康保険委員を対象とした研修を横浜市と実施する。</li> <li>・「ピンクリボンかながわ」との共催による乳がん撲滅の啓発事業を実施する。</li> </ul>	<p>○健診の促進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加入事業所数が増加している点に着目し、新規に加入した事業所への文書及び電話による受診勧奨を実施。加えて、大規模事業所に電話等による受診勧奨を実施する。</li> <li>・一括委託による事業所健診データの取得勧奨を実施。(被扶養者)</li> <li>・未受診者対策として協会主催の自己負担無料集団健診(会場健診)を2サイクルで実施。</li> <li>・被保険者と同様の生活習慣病予防健診を提供し、受診件数の拡大を図る。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・健診当日に保健指導ができる実施機関を確保し、保健指導の利用件数増加を図る。</li> <li>・委託によるセミナー形式の特定保健指導を実施。</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・「かながわ健康企業宣言」事業所数の拡大を図る。</li> <li>・かながわ健康企業宣言事業所に対し、職場の健康づくりに対する支援実施。</li> <li>○重症化予防対策</li> <li>・生活習慣病予防健診受診者のうち血圧、血糖に関し検査値が要治療域と判断されながら医療機関を受診していない加入者への受診勧奨文書を送付し、その後委託業者から電話勧奨を行い受診につなげる。</li> <li>・糖尿病患者にかかりつけ医と連携しながら、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを実施して患者が自分で体調管理ができるようプログラムを提供し実施する。</li> </ul>	<p>○健診の促進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規加入事業所に生活習慣病予防健診の案内をタイムリーに送付する。併せて新規加入事業所および大規模事業所に訪問等による受診勧奨を実施する。</li> <li>・健診データ作成を含む一括委託による事業所健診データの取得勧奨を実施しデータ取得を促進する。(被扶養者)</li> <li>・未受診者対策としてオプション検査等を含めた自己負担無料健診(会場健診)を2サイクル実施する</li> <li>・健診データの作成を含む一括委託による事業所健診データの取得を促進する。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・健診当日に保健指導ができる実施機関を確保し、初回分割実施などによる保健指導の利用拡大を推進する。</li> <li>・民間委託機関やICTを活用し特定保健指導の周知と利用拡大を図る。</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・加入事業所への文書勧奨および健康づくりに係る覚書を締結した団体等と連携した勧奨により、健康宣言事業所数の更なる拡大を図る。</li> <li>・健康宣言事業所に対するフォローアップの一環として、メンタルヘルス予防対策を含めた健康づくり講座を実施する。</li> <li>○重症化予防対策</li> <li>・生活習慣病予防健診受診者のうち血圧、血糖に関し検査値が要治療域と判断されながら医療機関を受診していない加入者に対して電話等による受診勧奨を、一次勧奨対象者を含めた対象者全員に委託で実施する。</li> <li>・糖尿病患者にかかりつけ医と連携し、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを委託で実施する。県や市町村、医師会等と連携し、拡大を目指す。</li> </ul>	<p>○健診の促進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規加入事業所に生活習慣病予防健診の案内をタイムリーに送付する。併せて新規加入事業所および大規模事業所に訪問等による受診勧奨を実施する。</li> <li>・健診データ作成を含む一括委託による事業所健診データの取得勧奨を実施しデータ取得を促進する。(被扶養者)</li> <li>・未受診者対策としてオプション検査等を含めた自己負担無料健診(健診機関主催)について効果的な広報で受診を促す。</li> <li>・健診データの作成を含む一括委託による事業所健診データの取得を促進する。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・健診当日に保健指導を実施できる機関を確保し、初回分割実施などによる保健指導の利用拡大を推進する。</li> <li>・民間委託機関やICTを活用し特定保健指導の利用拡大を図る。</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・加入事業所への文書勧奨および健康づくり推進に係る覚書を締結した団体等と連携した勧奨により、健康宣言事業所数の更なる拡大を図る。</li> <li>・健康宣言事業所に対するフォローアップの一環として、メンタルヘルス予防対策を含めた健康づくり講座の実施や健診の重要性についての理解促進に向けたリーフレットを配布する。</li> <li>○重症化予防対策</li> <li>・健診結果で要治療(血圧、血糖)と判定されながら医療機関を受診していない加入者(一次勧奨対象者を含む対象者全員)に対して電話等による受診勧奨を委託で実施する。</li> <li>・糖尿病患者にかかりつけ医と連携し、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを委託で実施する。県や市町村、医師会等と連携し、対象地域の拡大を検討する。</li> </ul>		
<p>○健診の促進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規に加入した事業所への文書(9,637事業所)及び電話(3,709事業所)による受診勧奨を実施(1月末)</li> <li>・神奈川労働局長名の協力依頼文書を送付(6月:324事業所・1月:326事業所)し事業者健診データの取得勧奨を実施。(被扶養者)</li> <li>・未受診者対策として協会主催の自己負担無料集団健診(会場健診)を(1～3月、38会場)で実施予定。</li> <li>・昨年、一昨年に上記集団健診を実施した人を対象にオプション検査等を含めた集団健診(有料)を実施。(12～1月、23会場、2,698人受診)</li> <li>・被保険者と同様の生活習慣病予防健診を提供(110機関)し、受診件数が拡大(平成30年9月末時点 4,927件)。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・健診当日に保健指導ができる実施機関(24機関)を確保し、保健指導の利用件数増加</li> <li>・委託によるセミナー形式の特定保健指導を4地域5会場(参加者224名)で実施。</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・「かながわ健康企業宣言」事業所(県内192事業所/平成31年2月末時点)に対し、職場の健康づくりに対する支援実施(25事業所から申込み有)</li> <li>・事業所訪問および取組内容の聞き取りのため、事業所訪問(44社)を実施。好事例等の情報を他の事業所へ展開するため、紹介パンフレットを作成。</li> <li>○重症化予防対策</li> <li>・生活習慣病予防健診受診者のうち血圧・血糖に関し検査値が要治療域と判断されながら医療機関を受診していない加入者への受診勧奨文書を送付(一次勧奨)、6,618件(平成30年4月～平成31年2月)</li> <li>・一次勧奨対象者のうち、より重症域と判断される加入者に医療機関への受診勧奨を電話・文書で実施(二次勧奨)、2,016件(平成30年4月～31年2月)</li> <li>・糖尿病患者にかかりつけ医と連携しながら、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを実施して患者が自分で体調管理できるようプログラムを委託で提供実施。27名申込み/18名面談(うち途中中断9名)</li> </ul>	<p>○健診の推進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規加入の9,507事業所に文書勧奨を実施。うち3,647事業所には電話勧奨も行った。</li> <li>・小規模事業所の健診対象者に対して、自宅に個別勧奨の案内を送付。(23,122件)</li> <li>・事業者健診データの提出勧奨を一括委託し、電話・文書による勧奨を実施。(6,000件)</li> <li>(被扶養者)</li> <li>・自己負担額無料の集団健診(会場健診)を10～12月、1～3月の2サイクルで実施(63会場)</li> <li>・被保険者と同様の生活習慣病予防健診を115機関で提供。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・業績低迷の健診機関を訪問し、働きかけを行うとともに、未契約の機関との契約に向けた話し合いを行い、委託機関の拡大を図った。</li> <li>・セミナー形式の特定保健指導を実施。(199名)</li> <li>・集団健診当日に保健指導を実施。</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・「かながわ健康企業宣言」参加事業所数の拡大に向け、広報誌を活用して周知を図るとともに、研修会(相模原、藤沢)で、事業所の健康づくりをテーマに講演を実施。</li> <li>加えて、事業所訪問時に「かながわ健康企業宣言」への参加の呼びかけを行った(14社訪問)。→自主目標350社に対して、1月末現在で326社のエントリー。</li> <li>・また、宣言事業所に対してのサポートとして、自治体や専門団体等による出前講座を実施した。(37社)</li> <li>○重症化予防</li> <li>・未治療者に対し受診勧奨を実施。(電話勧奨3,590件※1月末時点)</li> <li>・糖尿病性腎症重症化予防事業を横浜市と同様の方法(委託)により実施。(申し込み計24名)</li> </ul>	<p>○健診の推進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規加入の7,155事業所に文書勧奨を実施。うち4,292事業所には電話勧奨も行った。</li> <li>・未受診者にGISを活用し近隣健診機関を案内するDM送付(35,260件)</li> <li>・事業者健診データの提出勧奨を一括委託し、電話・文書による勧奨を実施。コロナの影響により主に文書送付となった。(約20,000件)</li> <li>(被扶養者)</li> <li>・自己負担額無料の健診機関主催の集団健診(会場健診)を10～12月(案内発送9月、13万7千件)、1～3月(案内発送12月13万7千件)の2サイクルで実施。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・6月1日から保健指導再開。実施件数の少ない健診機関を訪問し、働きかけを行うとともに、未契約の機関との契約に向けた話し合いを行い、委託機関の拡大を図った。</li> <li>・4月から委託業者によるICTを活用した遠隔面談を開始。(2年度16,207件勧奨委託)初回面談1,438件、評価849件、途中終了92件。【コロナ対策】</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・「かながわ健康企業宣言」参加事業所数の拡大に向け、広報誌を活用して周知を図った。(参加事業所数513社)加えて、宣言事業所に対してのサポートとして、自治体や専門団体等による出前講座を実施した。(27社)</li> <li>○重症化予防</li> <li>・未治療者に対し受診勧奨を実施。コロナの影響で5月より休止し6月末に文書勧奨再開。(文書による一次勧奨3,697件、電話による二次勧奨3,959件)</li> <li>・糖尿病性腎症重症化予防事業を横浜市と横須賀市で実施。(申し込み計24名)</li> </ul>	<p>○健診の推進(被保険者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規加入の5,917事業所に文書勧奨を実施。健康宣言事業所を加えた6,059事業所には電話勧奨も行った。</li> <li>・未受診者に近隣健診機関を案内するDM送付(33,021件)。</li> <li>・事業者健診データの提出勧奨を一括委託し、電話・文書による勧奨を実施。(7,768件)</li> <li>(被扶養者)</li> <li>・自己負担額無料の健診機関主催の集団健診(会場健診)を10～12月(案内発送10月、約183千件)、1～3月(案内発送11月180千件)の2サイクルで実施。</li> <li>○保健指導の促進</li> <li>・実施件数の少ない健診機関を訪問し、働きかけを行うとともに、未契約の機関との契約に向けた話し合いを行い、委託機関の拡大を図った。</li> <li>・委託業者によるICTを活用した遠隔面談を実施(3年度22,131人勧奨委託)。初回面談1,030人、評価743人、途中終了76人。</li> <li>○事業主等の健康づくり意識の醸成</li> <li>・「かながわ健康企業宣言」参加事業所数の拡大に向け、広報誌を活用して周知を図った(参加事業所数723社)。新たに運輸関係団体にも働きかけを行い、事業所数拡大に努めた。</li> <li>加えて、宣言事業所に対するのサポートに、メンタルヘルス対策を取り入れて実施(全体52件のうちメンタルヘルス15件)。</li> <li>○重症化予防</li> <li>・未治療者に対し受診勧奨を実施(文書による一次勧奨15,727件、電話による二次勧奨5,517件)。</li> <li>・糖尿病性腎症重症化予防事業を横浜市と横須賀市で実施。9月から相模原市を加えて実施(申し込み計22名)。</li> </ul>			
達成度	B	B	B	B		

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action1特定健診・がん検診、Action3糖尿病等の重症化予防、Action10データ活用					
関連する指標					
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)					
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21
19.7%	21.9%			40.5%	60.0%

### 第3期健康横浜21 策定スケジュール（予定）

資料10  
R040902時点

	令和4年度				令和5年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
市会					第2回定例会 骨子案	第3回定例会 素案	第4回定例会 パブコメ報告	第1回定例会 議案審議
健康横浜21 推進会議		● 9/2		● 3月	委員改選	● 8月	● 12月	
評価策定部会		● 8/1	● 11/30	● 2月	委員再任・ 部会設置期間延長	→		
主な作業	○最終評価報告書 公表	○健康課題の抽出	○健康課題のまとめ ○目標値と取組の検 討	○骨子案作成	○素案作成		○議案エントリー ○パブコメ実施	○策定公表
歯科部会		● 7/13	● 10/24		委員再任・ 部会設置期間延長	→		
主な作業		○骨子案の検討 ○健康課題の検討 ○目標・指標の検討	(7月部会の続き) ○取組内容の検討 ○素案の検討		○素案作成 ○具体的方策の検討		○議案エントリー ○パブコメ実施	○策定公表
食育部会		● 7/22		● 1月	委員再任・ 部会設置期間延長	●7月(仮)	●11月(仮)	→
食環境検討会	● 6/21	● 9/21	● 11/17		開催時期未定			
主な作業		○骨子案の検討 ・基本理念、基本目 標、推進テーマ ・目標と指標 ・取組内容	○食環境整備にかか る具体的取組の検討	(7月部会の続き) ○素案原案の検討 ○推進テーマごとの 取組内容の検討	○素案作成 ○具体的方策の検討		○議案エントリー ○パブコメ実施	○策定公表
国の動向（予定） 【健康日本21（第 2次）】		8月 最終評価案の最終審議 →次期プラン 検討開始			春 次期プラン公表	都道府県・市町村が健康増進計画を策定		
国の動向（予定） 【基本的事項】		8月 最終評価案の最終審議 →次期基本的事項 検討開始			春 次期基本的事項 公表	都道府県・市町村が基本的事項（横浜市では計画）を策定		